

# 第二回全國都市問題會議

[昭和五年・東京]

2

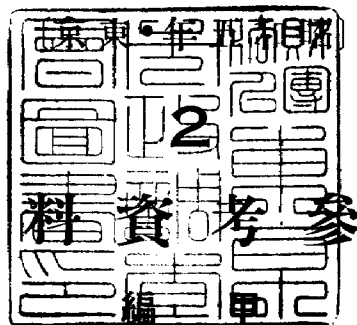
## 參考資料

甲 編

財團法人

東京市政調查會

# 第二回全國都市問題會議



第一冊・研究報告  
第三冊・參料乙編  
第四冊・議事要錄

財政調查會  
東京市政調查會

## 凡 例

一 本書は昭和五年十月財団法人東京市政調査會主催の第二回全國都市問題會議に於ける各議題——(一)都市の郊外地統制(二)街路交通の統制(三)受益者負擔金——に關係ある諸般の事實を主として輯録したもので、別に關係法規等を輯録した乙編と併せて完く、既刊の「第二回全國都市問題會議研究報告」と合して會議の豫備資料を作し更に會議終了後刊行すべき「第二回全國都市問題會議議事要録」を加へて、會議關係文書を組成するものである。

二 本書中、統計諸調査並に諸規則類は、概ね本會の依囑に基き、特に各府縣市その他の行政廳の厚意に依つて得た貴重の資料である。會議期日の關係上、締切を急がざるを得ざりし爲め、全國各地方の事實を悉く網羅するに至り得なかつたのは、甚だ遺憾とするが、これ等は、結果を見て、他日何等かの方法に依りこれを補完したい。

三 本書に收むる數字的諸表中に、本會議の研究報告類の内容を作してゐるものを存する點は、「第二回全國都市問題會議研究報告」の凡例第三に斷つておいた通りである。

四 本書の内容は大體會議各議題の要項順序に従つて整理按配するの方針を採つた

が刊行の期日切迫せると印刷の都合上全資料を甲乙兩編に分冊せざるを得ざりし關係上、必ずしもこの方針を徹底せしめ得なかつたことを諒とせられたい。

五 關係官公廳等から回示に接した諸調査資料または特に添附せられた參考圖面記録竝に研究報告の附屬諸表等にして、遺憾乍ら省略又は要約の餘儀なきに至つたものも相當あるが、これは本書の體系組織上已むを得ざる結果で、關係者各位に、幾重にも諒承を請ふ次第である。

六 本書は會議の參考資料として會議参加者に配布するを主旨としたものであるが、獨立の文獻として取扱つても、一般都市問題研究上好箇の參考資料と爲し得たことは、全く資料を提供せられた府縣市その他行政廳當局各位の賜に他ならぬ。乃ちこの機に、それ等の諸賢に厚き敬意と感謝とを捧ぐる次第である。

因に本書の基礎となれる各種の材料は、第一篇に關するものは本會研究員吉山眞棹及び同龜卦川浩、第二篇に關するものは同榎本徹、第三篇に關するものは同岡野文之助及び小田忠夫、第四篇に關するものは同猪間驥一をして整理せしめ、その編輯は本會司書菅原忠治郎をして當らしめたが、その材料の取捨按排等に關する責任は一切理事池田宏の擔當する所であることを附記して置く。

昭和五年九月

財團法人 東京市政調査會

## 第二回全國都市問題會議參考資料

### 甲編 目次

#### 第一篇 都市郊外地統制參考資料

##### 第一 郊外地都市化の過程竝に實情に關する諸調

###### (甲) 既往に於ける都市發達の過程

###### (乙) 郊外地都市化の概況

###### 一 郊外町村發達の過程に關する調査

接近町村別郊外地發達の實情(一)

###### 二 都市産業の發達に關する調査

各都市に於ける主要産業(一)——都市接近町村の主要産業(二)

###### 三 信仰賽拜史跡名勝地等の存在に因る都市發達に關する調査

公園信仰賽拜場所及史跡名勝地の存在に因る來遊又は賽拜人員(一)



四 都市及郊外所在教育諸機關に關する調査	三〇
市立學校の町村住民に依る使用(三〇)——町村所在學校の市住民に依る使用(三一)	
五 都市及郊外の交通概況に關する調査	三四
郊外町村より市内に通勤せる一日平均人員並利用交通機關(三四)——郊外電鐵及國有鐵道市内停車場又は市接續停車場一日平均乗降人員(三七)	
六 都市計畫事業其他公共諸事業の計畫及實施現狀に關する調査	四二
都市及郊外町村に對する府縣の施設計畫並事業實施現狀(四三)——都市の郊外町村に對する施設計畫及事業實施現狀(四六)	
——市町村に互に實施せらるる市營事業其他の重要公共企業(四八)——市町村に互る重要公共企業(五〇)	
七 公共組合其他公私諸團體の統轄區域に關する調査	五二
市町村組合(五三)——公私諸團體の活動地域(五三)	
八 市域外營造物の管理狀態並市の公務所に關する調査	五九
郊外町村所在市營造物(五九)——郊外町村所在市公務所(六〇)——市域外認定市道路線並市町村長共管道路(六四)	
九 市域外市有地並其利用狀況等に關する調査	六六
郊外町村所在市有不動産の面積價額並利用の現狀(六六)	
一〇 都市及接近町村財政に關する調査	七一
市及接近町村歳出累年比較(七一)——市及接近町村歳入累年比較(七九)——市町村稅並賦課率(八二)	
第二 市部に編入されたる元町村理事者側の新市政觀	八九

## 第二篇 街路交通統制參考資料

### 第一 街路交通事情

一 併合後の市政現狀	九一
二 併合後の市民生活の現狀	九六
三 併合當時の狀況	一〇一
四 併合前の町村政大要	一一二
五 其他併合措置に關し今後に於て注意を要すべき事項	一二五

### 第二 街路交通事故

イ、室蘭市(二二)——ロ、盛岡市(三三)——ハ、仙臺市(三三)——ニ、郡山市(三三)——ホ、水戸市(三四)——ヘ、足利市(三五)	一一三
市(三六)——ト、高崎市(三六)——チ、東京市(三六)——リ、横須賀市(三六)——ヌ、富山市(三六)——ル、高岡市(三七)——ナ、名古屋	
市(三七)——ア、大津市(三七)——カ、大阪市(三五)——コ、西宮市(四三)——ク、丸龜市(四四)——ケ、高知市(四五)——ソ、	
佐賀市(四五)——シ、平壤府(四五)——ネ、京城市(四七)	
イ、交通事故累年比較(四八)——ロ、交通事故件數月別(五六)——ハ、交通事故時間別(五九)——ニ、交通事故件數路面狀態及	一四八
び照明狀態別(六〇)——ホ、交通事故件數天候狀態別(六三)——ヘ、交通事故件數發生箇處別(六五)——ト、交通事故件數車輛	
種類別(六七)——チ、自動車事故件數原因別(七〇)——リ、交通事故死者數年齡別(七二)	

### 第三 交通警察

交通警察	一七五
------	-----

イ、交通警察の組織権限(一七五)——ロ、巡査の數(一七六)——ハ、改善に關する提案(一七八)	
第四 街路統計……………	一七九
イ、延長、面積、勾配、屈曲半徑及び街燈數(一七九)——ロ、舗裝の種類別延長、面積及び耐久力(一八〇)	
第五 交通安全施設……………	一八四
第六 交通安全運動……………	一八五
第七 道路占用規程比較……………	一八七
第八 街路に關する工事及び維持……………	一九〇
第九 街路交通取締に關する地方廳令比較……………	一九四
イ、車馬操縱者の信號(一九四)——ロ、併列進行、避讓(一九四)——ハ、右折、左折、轉廻(一九五)——ニ、交叉交通(一九五)——ホ、車馬通行道路幅員制限(一九五)——ヘ、横斷歩道通行(一九六)——ト、電車停留場傍通過(一九六)——チ、軌道敷内通行(一九六)——リ、車馬連續進行時保持間隔(一九六)——ヌ、速度制限(一九七)——ル、停車(一九八)——エ、駐車(一九八)——ロ、車輛構造(一九八)——カ、車馬操縱者(一九九)——コ、車庫(二〇〇)——ク、廣告、宣傳(二〇〇)——ケ、道路占用一般(二〇一)——コ、標燈、日除、看板の類の突出制限(二〇一)——ン、露店(二〇一)——ネ、道路に於ける工事並に道路の維持(二〇三)	

### 第三篇 受益者負擔金制參考資料

第一 受益者負擔規程比較……………	二〇三
-------------------	-----

一 都市計畫事業受益者負擔規程比較……………	二〇三
二 道路法に依る道路受益者負擔規程比較……………	二一五
第二 受益者負擔制の實情に關する諸調……………	二四一
一 土地負擔の現況と其負擔力……………	二四一
イ、東京市(二四二)——ロ、大阪市(二四二)——ハ、京都市(二四四)——ニ、名古屋市(二四七)	
二 現行受益者負擔金の種別並徴收實績……………	二四八
三 各種負擔金徴收機關の構成及負擔……………	二四九
四 負擔金の分納をなす場合買却其他に伴ふ權利の移動を生じたる時には何人を以て負擔義務者たらしむるやについての處置……………	二五〇
五 負擔金を課徴せる土地に於ける權利移動の實況……………	二五一
六 負擔金課徴をなして施行したる事業により受益せず受損したるものありや、有りとせば其に對する處置並その原因……………	二五二
七 負擔金が土地の賃貸價格又は賣買價格に如何なる影響を及ぼせるか……………	二五二
八 負擔金が重疊して課された場合に於ける土地負擔の最高限度を如何に決定し且つこれが補償に關する處置……………	二五三
九 公用制限ある土地(例へば市街地建築物法第十一條都市計畫法第十一條の如き)に對して負擔金の課徴について如何に處理するや……………	二五四
一〇 負擔金賦課標準決定の實況……………	二五四
二 現行賦課率決定方法……………	二五六

三 其他	………	二五九
------	-----	-----

イ、東京市(二五九)——ロ、大阪市(二六四)——ハ、京都市(二七一)——ニ、名古屋市(二七三)

## 第四篇 都市膨脹の趨勢一斑

### 第一 各市市域の擴張

一 市域の擴張一覽	………	(卷末より)
-----------	-----	--------

### 第二 各市戸數及人口

一 各市戸數及人口(六大都市、明治二十二年以來累年)	………	一三
二 各市戸數及人口(六大都市以外、明治二十一年以降)	………	一五
三 大都市の區の人口	………	二四
四 人口三萬以上の町村の人口	………	二四
五 植民地都市人口(大正十四年)	………	二五

## 第一篇 都市郊外地統制參考資料

## 凡 例

- 一 本篇に輯録した町村は、都市計畫區域内町村又は郊外都市化の實態を有すと認めらるゝ町村にして、其中○印を附したる町村は市域擴張豫定町村又は候補町村若は交渉中に屬する町村として各市より回示を得たるものである。
- 二 本篇中、面積、人口密度等に於ける計數の單位は彼は統一を缺いて居るが、勿卒の際各市の回示を換算整理するの暇なく之をその儘掲出したものである。

## 第一 郊外地都市化の過程竝に實情に關する諸調

### (甲) 既往に於ける都市發達の過程

本項の内容を成すべき(一)市域擴張の沿革、(二)都市戸口増加の趨勢に關する參考統計は本會に於て發行する「日本都市年鑑」に依り、詳細參稽を乞ふべき豫定の所であつたが、會議當日迄に發行を見ること能はざる虞があつたので、之が必要部分は便宜第四篇に輯録して置いた。

### (乙) 郊外地都市化の概況

本表以下の諸調は郊外地發達の概況を知るの便に供せむが爲め、諸般の見地より之が検討の資料を求めたるもので、以下數項を以て各都市郡市に互る地域發達の動向其他の剖檢に資せむとするものである。

#### 一 郊外町村發達の過程に關する調査

本表は先づ郊外地發達の狀況を宅地面積對農地面積若は人口戸數の増減又は住民職業形態の變化等に付、専ら都市接近郊外町村方面より之が變遷の過程を觀たるものである。尙次表中大工場と在るは工業地域内に



[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

高知市	九龍市	福山市	瀬戸市
明治四十三年 大正四年	明治四十三年 大正四年 大正九年 大正十四年 昭和五年 (現在)	昭和五年 (現在)	
土佐郡	綾歌郡 綾歌郡 綾歌郡 綾歌郡 綾歌郡	沼隈郡	
旭江ノ口 旭江ノ口 旭江ノ口 旭江ノ口 旭江ノ口	土南 土南 土南 土南 土南	川手深奈木吉佐神草 口城津良之庄津波島戸 村村村村村村村村	
三、八六六、〇〇〇 三、八六六、〇〇〇 三、八六六、〇〇〇 三、八六六、〇〇〇 三、八六六、〇〇〇	〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇、〇〇〇	三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇	
???	六、七九、二〇〇 六、七九、二〇〇 六、七九、二〇〇 六、七九、二〇〇 六、七九、二〇〇	八、一八、七〇〇 八、一八、七〇〇 八、一八、七〇〇 八、一八、七〇〇 八、一八、七〇〇	
???	二、七六、八〇〇 二、七六、八〇〇 二、七六、八〇〇 二、七六、八〇〇 二、七六、八〇〇	五、四八、四〇〇 五、四八、四〇〇 五、四八、四〇〇 五、四八、四〇〇 五、四八、四〇〇	
一、七五、七〇〇 一、七五、七〇〇 一、七五、七〇〇 一、七五、七〇〇 一、七五、七〇〇	三、四八、七〇〇 三、四八、七〇〇 三、四八、七〇〇 三、四八、七〇〇 三、四八、七〇〇	四、三三、七〇〇 四、三三、七〇〇 四、三三、七〇〇 四、三三、七〇〇 四、三三、七〇〇	
二、八八、三〇〇 二、八八、三〇〇 二、八八、三〇〇 二、八八、三〇〇 二、八八、三〇〇	六、八〇、〇〇〇 六、八〇、〇〇〇 六、八〇、〇〇〇 六、八〇、〇〇〇 六、八〇、〇〇〇	八、二四、〇〇〇 八、二四、〇〇〇 八、二四、〇〇〇 八、二四、〇〇〇 八、二四、〇〇〇	
七、四六、〇〇〇 七、四六、〇〇〇 七、四六、〇〇〇 七、四六、〇〇〇 七、四六、〇〇〇	二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇	二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇	
???	八、〇六、〇〇〇 八、〇六、〇〇〇 八、〇六、〇〇〇 八、〇六、〇〇〇 八、〇六、〇〇〇	三、八八、〇〇〇 三、八八、〇〇〇 三、八八、〇〇〇 三、八八、〇〇〇 三、八八、〇〇〇	
???	四、一六、〇〇〇 四、一六、〇〇〇 四、一六、〇〇〇 四、一六、〇〇〇 四、一六、〇〇〇	二、八八、〇〇〇 二、八八、〇〇〇 二、八八、〇〇〇 二、八八、〇〇〇 二、八八、〇〇〇	
???	一、五六、〇〇〇 一、五六、〇〇〇 一、五六、〇〇〇 一、五六、〇〇〇 一、五六、〇〇〇	三、七九、〇〇〇 三、七九、〇〇〇 三、七九、〇〇〇 三、七九、〇〇〇 三、七九、〇〇〇	
???	???	???	
???	???	???	

一宮市	豊橋市	都市名
明治四十三年 大正四年 大正九年 大正十四年 昭和五年 (現在)	昭和四年末	年次
中島郡	八名郡	郡
起奥今大 伊勢 町村	下二牟高下 川川吉師地 村町村村町	町村
三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇	三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇 三、四九九、二〇〇	面積
???	???	宅地面積
???	???	農地面積
一、七五、七〇〇 一、七五、七〇〇 一、七五、七〇〇 一、七五、七〇〇 一、七五、七〇〇	三、四八、七〇〇 三、四八、七〇〇 三、四八、七〇〇 三、四八、七〇〇 三、四八、七〇〇	人口
二、八八、三〇〇 二、八八、三〇〇 二、八八、三〇〇 二、八八、三〇〇 二、八八、三〇〇	六、八〇、〇〇〇 六、八〇、〇〇〇 六、八〇、〇〇〇 六、八〇、〇〇〇 六、八〇、〇〇〇	戸数
七、四六、〇〇〇 七、四六、〇〇〇 七、四六、〇〇〇 七、四六、〇〇〇 七、四六、〇〇〇	二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇 二、二六、八〇〇	人口密度
???	???	商工業
???	???	農業
???	???	雑業
???	???	工場
???	???	工場



[illegible][illegible]



都市名	産業ノ種類	生産額	金額	移出額	金額	従事員數	工場數	郊外町村ノ諸關係
水戸市	畜産 其產 農産 工業 林業 水産	馬 雞 豚 其 他	110,745 63,780 58,645 2,486 10,340 7,798 7,349 10,340			53	43	郊外町村ノ諸關係 分工場 出賣所 總員數 勤勞所 合宿所
足利市	織物		3,146,176			2,591	194	
高崎市	製紙 製粉 製糖 紡績 染織 製炭 木下製品		7,500,000 100,000,000 100,000,000 100,000,000 100,000,000 100,000,000 100,000,000			1,111	111	
横須賀市	魚皮帽 革製造 水産 指物 漬物 石炭 炭瓦 製子 木下製品		3,146,176 1,146,176 1,146,176 1,146,176 1,146,176 1,146,176 1,146,176			1,111	111	

都市名	産業ノ種類	生産額	金額	移出額	金額	従事員數	工場數	郊外町村ノ諸關係
福井市	藻水産動物		2,640,000			101	1	郊外町村ノ諸關係 分工場 出賣所 總員數 勤勞所 合宿所
濱松市	絹織物 絹織物 絹織物 絹織物 絹織物 絹織物 絹織物		2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000			1,111	111	
名古屋	織物 織物 織物 織物 織物 織物 織物		2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000			1,111	111	
沼津市	鮮果 蔬菜 生魚 加工品 木製品 樂器 帽子 玉器 生絲 絹織物 小絹織物 大絹織物		2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000			1,111	111	
名古屋	鮮果 蔬菜 生魚 加工品 木製品 樂器 帽子 玉器 生絲 絹織物 小絹織物 大絹織物		2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000 2,640,000			1,111	111	

[illegible][illegible]

都市名	産業ノ種類	生産額	生産金額	移出額	移出金額	従事員数	工場数	郊外町村ノ諸關係
大分市	農業	一〇、七五五、七九七	一、四七五、七九七	一、五七五、七九七	一、五七五、七九七	一、五七五、七九七	一、五七五、七九七	分在郊外工場
京都市	印刷業	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	分在郊外工場
京都府	印刷業	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	分在郊外工場
大邱府	製絲業(生絲)	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	分在郊外工場
馬山府	製絲業(生絲)	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	一、六九七、一五八	分在郊外工場

### 都市接近町村の主要産業

都市名	市町村別	産業ノ種類	生産總金額	移出總金額	従事員總數	工場數	接近都市トノ諸關係
室蘭市	川村	農業	一〇、七五五、七九七	八、〇〇〇	二、三〇〇	七	對スル移出總員數 都市ヨリ通勤 都市所在銀行 取引狀況ノ金機行
弘前市	川村	農業	一〇、七五五、七九七	八、〇〇〇	二、三〇〇	七	
盛岡市	川村	農業	一〇、七五五、七九七	八、〇〇〇	二、三〇〇	七	對スル移出總員數 都市ヨリ通勤 都市所在銀行 取引狀況ノ金機行
郡山市	川村	農業	一〇、七五五、七九七	八、〇〇〇	二、三〇〇	七	
水戸市	川村	農業	一〇、七五五、七九七	八、〇〇〇	二、三〇〇	七	對スル移出總員數 都市ヨリ通勤 都市所在銀行 取引狀況ノ金機行
柳井市	川村	農業	一〇、七五五、七九七	八、〇〇〇	二、三〇〇	七	

都市名	市町村別	産業ノ種類	生産額	金額	移出額	金額	従事員總數	工場數	接近都市トノ諸關係
足利市	山邊村	綿織物	五三、〇七〇	四四、二五三	五、六五〇	一三、〇〇〇	一、七六八	三	二九、六七八
高崎市	碓氷郡豐岡村	麥米	九六、八九五	六六、四七三	三、八六八	二九、六七八	六、一五	一、〇八〇	二九、六七八
高崎市	同	麥米	一八、八一五	五二、四八三	三、七六八	一五、七四四	一、〇八〇	一、〇八〇	一五、七四四
高崎市	同	麥米	一七、一三四	三三、三三四	八、六二五	一、六五七	一、〇八〇	一、〇八〇	一、六五七
高崎市	同	麥米	二七、一六三	三八、〇三三	二七、一六三	三八、〇三三	一、〇八〇	一、〇八〇	二、六六二
高崎市	同	麥米	五〇、五三三	八、〇九三	五〇、五三三	八、〇九三	一、〇八〇	一、〇八〇	三、四三七
高崎市	同	麥米	四三、六三	三、八五四	四三、六三	三、八五四	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	二、〇〇〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇	八、〇〇〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	五、四八〇	四、七〇〇	四、〇〇〇	三、四〇〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	二、五九二	一、一六四	一、五五三	六、六九八	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	〇、〇〇〇	一、九五四	三、五二〇	九、七五〇	一、〇八〇	一、〇八〇	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、四、一七五	二、〇、六五八	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、六、六六五	一、四、七、九八四	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、四、一七五	二、〇、六五八	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、六、六六五	一、四、七、九八四	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、四、一七五	二、〇、六五八	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、六、六六五	一、四、七、九八四	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、四、一七五	二、〇、六五八	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、六、六六五	一、四、七、九八四	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、四、一七五	二、〇、六五八	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、六、六六五	一、四、七、九八四	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、四、一七五	二、〇、六五八	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	一、五、九〇〇	四、七〇、二六三	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、六、六六五	一、四、七、九八四	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	一、〇〇〇
高崎市	同	麥米	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	一、三、八、七六〇	一、九、六、四〇一	七、四	五	

[illegible]

都市名	市町村別	産業ノ種類	生産總金額	移出總金額	員從事總工場數	接近都市ノ諸關係
名古屋市	愛知郡下ノ一	農産物	1,479,000	400,000	100	10,240,000
	同	畜産物	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	漁業	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	工業	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	商業	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	運輸	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	金融	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	教育	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	娯楽	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	衛生	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	社会	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	其他	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	合計	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000

都市名	市町村別	産業ノ種類	生産總金額	移出總金額	員從事總工場數	接近都市ノ諸關係
豊橋市	同	農産物	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	畜産物	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	漁業	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	工業	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	商業	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	運輸	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	金融	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	教育	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	娯楽	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	衛生	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	社会	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	其他	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000
	同	合計	1,000,000	1,000,000	100	1,000,000

[illegible]

部市名		市町村別		産業ノ種類		生産總金額		移出總金額		從事總數		工場數		接近都市ノ諸關係	
部市名		市町村別		産業ノ種類		生産總金額		移出總金額		從事總數		工場數		接近都市ノ諸關係	
丸 籠 市	土 土 南	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同	同 同 同
器 器	口	城	津	良	之	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
村 村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
製 農	其	工	畜	農	工	畜	農	工	畜	農	工	畜	農	工	畜
產	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
鹽 物	他	產	產	產	產	產	產	產	產	產	產	產	產	產	產
一 三 、 九 八 、 六 五 五	六 一 五 八 石	一 八 四 、 七 五 三	二 三 、 六 九 三	三 六 、 二 八 四	三 一 、 九 八 、 六 五 五	四 三 、 一 〇 七	一 二 、 九 三 八	一 五 、 九 五 八	三 六 、 二 八 四	一 、 五 〇 〇	一 、 八 〇 〇	一 、 七 五 〇	一 、 七 五 〇	一 、 七 五 〇	一 、 七 五 〇
一 三 、 九 八 、 六 五 五	六 一 五 八 石	一 八 四 、 七 五 三	二 三 、 六 九 三	三 六 、 二 八 四	三 一 、 九 八 、 六 五 五	四 三 、 一 〇 七	一 二 、 九 三 八	一 五 、 九 五 八	三 六 、 二 八 四	一 、 五 〇 〇	一 、 八 〇 〇	一 、 七 五 〇	一 、 七 五 〇	一 、 七 五 〇	一 、 七 五 〇
一 三 、 九 八 、 六 五 五	六 一 五 八 石	一 八 四 、 七 五 三	二 三 、 六 九 三	三 六 、 二 八 四	三 一 、 九 八 、 六 五 五	四 三 、 一 〇 七	一 二 、 九 三 八	一 五 、 九 五 八	三 六 、 二 八 四	一 、 五 〇 〇	一 、 八 〇 〇	一 、 七 五 〇	一 、 七 五 〇	一 、 七 五 〇	一 、 七 五 〇



## 三 信仰賽拜史跡名勝地等の存在に因る都市發達に關する調査

本表は都市發達の要因と認めらるべき、信仰中心地若は史跡名勝地等の存在に因る、都市發達の動向を參稽するに便せむが爲め求めたる資料である。

## 公園信仰賽拜場所及史跡名勝地の存在に因る來遊又は賽拜人員

都市名	公園		信仰賽拜場所	史跡名勝地	
	所在場所及名稱	一箇年入園人數	所在場所	一箇年賽拜人數	名稱及所在場所
室蘭市	室蘭公園(公園町)	?	市ノ南部	?	南部陣屋(陣屋町) 繪柄跡(繪柄町)
弘前市	鷹揚園(市中央)	120,000	新寺小路 通丁 北八番丁 越路町	???	養賢堂(縣廳構内) 藥師堂(木ノ下) 國分寺(木ノ下) 大崎八幡神社(八幡町)
盛岡市	岩手公園(内丸)	?	常磐村大字松本坪 渡里村字渡里	120,000 110,000	長者山一盛長者多氣權守居 城跡(渡里村渡里)
仙臺市					
郡山市					
水戸市	常磐公園(常磐神社) 水戸公園(三ノ丸)	萬數 人十			

足利市	足利公園(綠町)	18,500	錢阿寺 縣社八幡宮	110,000	足利學校遺蹟(昌平町)	3,400
高崎市	高崎公園	800,000	清水寺	100,000		
横須賀市	探山公園(逸見町) 諏訪公園(諏訪町)	18,000 50,000	諏訪神社 龍本寺	50,000 50,000	記念三笠(稻岡町白濱海 岸) 安針塚(逸見町) 憲法起草地(三浦郡川浦町)	110,000 1,000 1,100
新潟市	足羽山公園(市内足羽山町)	40,000	本派本願寺別院 大谷派 永平寺	30,000 100,000 100,000	福井城跡(市内城町) 藤島神社(市内岩堀町)	10,000 3,000
沼津市	沼津公園(千本)	300,000	長谷觀音 光長寺大曼陀羅 熱田神宮 覺王山日蓮寺 大谷別院 大須觀音	10,000 10,000 100,000 100,000 100,000	千本松原(松原海岸) 江ノ浦海岸(靜浦村) 門池遊園地(金岡村) 豐太閣誕生地(中區中村町)	500,000 100,000 ? 50,000
名古屋市						

都市名	公	園	信	仰	賽	拜	場	所	史	跡	名	勝	地
	所在場所及名稱	一箇年 入園人數	陵墓及社寺佛堂ノ名稱			所在場所	一箇年 賽拜人數	名稱及所在場所					一箇年 遊覽人數
豐橋市	真清公園(市内字下町)	300,000	真清田神社			市内字大宮	490,000						
一宮市	瀨戸公園(市内瀨戸)	50,000	深川神社			市内瀨戸	60,000						
堺市	堺大濱公園(市内大濱)	1,000,000	仁德、反正二帝陵 方達、菅原、開口各神社外五社 南宗寺、妙國寺、大安寺、東西 本願寺別院外百五十箇寺			濱寺町下石津 神石村字上石津	各平均 10,000 10,000 3,000						
神戸市	濱寺公園(市外濱寺町大字船尾)	300,000	履仲天皇御陵 石津太神社 乳岡山念佛寺										
西宮市		?	縣社西宮神社 官幣大社廣田神社 東光寺(厄神明王)			市内社家町 大社村廣田 甲東村門戶	350,000 100,000 50,000	史蹟西宮砲臺					
尾道市	千光寺公園	1,270,000	淨土寺 西國寺			市内尾崎町 同久保町	70,000 70,000						
福山市	福山公園(市内三之丸町)	110,000											
九龜市	龜山公園(一番丁)	30,000	明王院			草戸村	?	都山(深津村)					
高知市			陸軍墓地 長濱社 松榮山墓地			大字駄原 大字大分 東大分村大字賀來	30,000 50,000 100,000	王子浦(大字駄原) 岩藥師(元町) 大洲ノ濱(東大分村今津留) 國分寺(賀來村大字國分)					
大分市	春日公園(大字勢家)												30,000

京 城 府	大 邱 府	馬 山 府	平 壤 府
獎忠壇公園(東四軒町) 孝昌園(青葉町)	達城公園(大邱市内)	馬山公園(櫻町)	牡丹臺大同門及瑞葉山
一五〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	三二,五〇〇
朝鮮神宮 東本願寺 妙心寺	開運寺 清涼寺 安靜寺	神社九ヶ所社寺二十五箇所	平壤神社
南米倉町 南山町 若草洞	府外黑石里 府外敦岩里 府外清涼里 府外水鐵里	府內	櫻町 慶上里
五三,三七三 景福宮 善信閣 國立門 獨立門 洗銀亭	四〇,〇〇〇 八,〇〇〇 三,〇〇〇 五,〇〇〇	六八,二三三	八五,〇〇〇
德壽宮(大平通) 光化門通 南大門通 長谷川町通 義濟通 府外弘智里			牡丹臺、瑞葉山
四〇,〇〇〇			一五〇,〇〇〇

市立學校の町村住民に依る使用

[illegible][illegible]

町村所在學校の市住民に依る使用

[illegible]

[illegible][illegible]

郊外町村より市内に通勤せる一日平均人員並利用交通機關

[illegible][illegible]

都市名	郊外電鐵					國有鐵道				
	軌道名	驛名	降車人員	乘車人員	計平均	線名	驛名	降車人員	乘車人員	計平均
室蘭市						室蘭本線	室蘭驛	一、八八〇 三九四	一、八五五 二七六 四二二	二、三七三 五〇六 八〇六
						支線	御西崎驛			一、八六八 二七〇 四〇二

市內停車場又は市接續停車場一日平均乗降人員

[illegible][illegible]

都市名	郊外		鐵道		國有	
	軌道名	驛名	人降員車	人乘員車	線名	驛名
室蘭市					奧羽線	本輪西驛
弘前市					弘前線	弘前驛
盛岡市					仙北線	仙北驛
仙臺市	秋保電鐵 宮城電鐵	長臺町驛	二五九	二二〇	仙臺線	仙臺驛
		東七番丁驛	二六七	二二七	仙臺線	仙臺驛
郡山市	仙臺鐵道	宮城野原驛	四八七	四六九	仙臺線	仙臺驛
		東照宮前驛	一〇七	一〇六	仙臺線	仙臺驛
水戸市	茨城電車	上谷田驛	四八三	四六九	水戸線	水戸驛
足利市	東武軌道	足利市驛	二二〇	二二〇	足利線	足利驛
高崎市		野州山邊驛	二二〇	二二〇	高崎線	高崎驛
		計	二二〇	二二〇	平均	二二〇
		平均	二二〇	二二〇	平均	二二〇

都市名	郊外		鐵道		國有	
	軌道名	驛名	人降員車	人乘員車	線名	驛名
橫須賀市	湘南電鐵	橫須賀中央驛	三〇九	二九三	上越線	高崎驛
新潟市		浦馬賀驛	二二〇	二二〇	信越線	新潟驛
		浦馬賀驛	二二〇	二二〇	信越線	新潟驛
福井市	福武電鐵	福井驛	二二〇	二二〇	北陸線	福井驛
		福井驛	二二〇	二二〇	北陸線	福井驛
濱松市	遠州電鐵	濱松驛	二二〇	二二〇	東海道線	濱松驛
		濱松驛	二二〇	二二〇	東海道線	濱松驛
沼津市	駿豆鐵道	駿豆驛	二二〇	二二〇	東海道線	沼津驛
		計	二二〇	二二〇	平均	二二〇
		平均	二二〇	二二〇	平均	二二〇

[illegible][illegible]









第一篇 都市郊外地統制參考資料





都市名	團體ノ區域市町村	公共組合聯合會ノ區域市町村	私設公益團體ノ區域市町村
名稱	事業ノ目的	事業ノ目的	事業ノ目的
組合名稱	組合名稱	組合名稱	組合名稱
員數	員數	員數	員數
水戸市	英城縣常北蕨營業上ノ緊需矯正 同	水戸市外四郡	水戸市外四郡
足利市	水戸酒造組合 水戸市及外二郡	水戸市及外二郡	水戸市及外二郡
須賀市	三橫倉庫組合 家畜ノ改良 町村全部	須賀市及三浦郡	須賀市及三浦郡
濱松市	遠江織物同業 遠江薪炭同業 同	濱松市及濱名郡 濱松市及濱名郡 濱松市及濱名郡	濱松市及濱名郡
沼津市	門池治水組合 同	沼津市及大岡村 沼津市及駿東郡	沼津市及駿東郡
名古屋市	城北耕地整理 同	名古屋市及荻野村	名古屋市及荻野村
愛知郡	西春日井郡豐橋	西春日井郡豐橋	西春日井郡豐橋





都市名	團體ノ區域市町村ニ互ルモノ				私設公益團體ノ活動市町村ニ互ルモノ			
	名稱	事業ノ目的	組合地域(市町村別)	組合員數	名稱	事業ノ目的	組合地域(市町村別)	組合員數
大邱府	慶尙北道果物同業組合	新築改良	大邱府達城郡、慶山郡、清道郡外三郡	一五五	慶北救濟會	孤貧兒迷府內	府內	?
馬山府	大邱府醫師會	醫事衛生府內一圓		五	天主敎女子孤兒院	兒收容		?
	回生病院	傳染病治療	大邱府		東山病院	鮮人ノ救療		?
	馬山酒造同業組合	改良進步	馬山府一圓	三	大邱府敎育會	良進步		二四〇
平壤府	馬山府醫師會	醫事衛生ノ改良		七	馬山福壽會	職業紹介少年保護	府內	一〇
					佛敎廣濟會	行路病死府內		?
					保護會	遺棄兒保護		?
					孤兒院	免因保護		二〇
					日本育兒院	孤貧兒救濟		一五〇
					育啞學校	特殊教育		二
					廢乞救濟會	不具者ノ乞食救濟		二〇

### 八 市域外營造物の管理狀態並市の公務所に關する調査

本表は市域外に互り都市の有する營造物並に市長の管理する國府縣の營造物又は是等に關聯して存在する公務所に關する諸資料である。

### 郊外町村所在市營造物

都市名	事業類別	名稱	所在場所(又ハ延長)	市トノ距離	設立ノ事由	設立年月日	市民ノ利用	市民ト所在地町村ノ利用狀況
室蘭市	火葬場	弘前火葬場	中津輕郡清水村	一〇	火	明治三五年四月	七九	七〇
弘前市								
盛岡市								
仙臺市								
郡山市								
水戸市	衛生教育	廣田小學校	東茨城郡常磐村	二九五〇米	市内ノ塵芥焼却	明治三四年		
		配揚池	全郡綠上野村	二八五〇米	水育大正四年			
		水源池	同郡吉岡村	二八七五米	水明治四年			
足利市	水道	足利郡三井村		二四〇〇間	送水並監視工事	明治四年		

豐橋市	一宮市	瀬戸市	堺市	神戸市	西宮市	尾道市	福山市	九龍市	高知市	大分市	京城府衛生
上水道 浄水場	給水場				武庫川水源池 越水淨水池 同火葬場	沼隈郡熊野村 同郡佐波村 同	貯水池 濾過水池 配水管 導水管 送水管 配水管	上水道 取水管			
八名郡下川村 同石巻村	同				武庫郡瓦木村 同郡大庄村 同	沼隈郡熊野村 同郡佐波村 同	沼隈郡熊野村 同郡佐波村 同	綾歌郡土器村 延長三町間			
一里〇丁 一里二丁 一里二丁	一里〇丁 一里二丁 一里二丁				三、九二〇米 二、八二〇米 二、七五〇米 二、七五〇米	二里二町三四間 二里二町三四間 二里二町三四間	二里二町三四間 二里二町三四間 二里二町三四間	一八町			
水道布設	同				取水場 淨水場 水質試驗場 水質試驗場 水質試驗場	水供給	水供給				
昭和四年六月	同				大正二年八月四日 昭和三年二月一日 昭和四年二月五日 同	大正一年三月三日 同 同	大正一年三月三日 同 同	大正五年三月			
二〇、七五〇 二〇、一七五 二〇、一七五	同				三、〇〇〇 三、〇〇〇 二、六六八 七八人	一五、四九九 四、〇〇〇 一、〇〇〇	一五、四九九 四、〇〇〇 一、〇〇〇	一五、四九〇			

[illegible]

[illegible]

郊外町村所在市公務所

[illegible]

都市名	事業種別	名	所在場所 (又ハ延長)	市トノ距離	設立ノ事由	設立年月日	市民トノ所在地町村 市民ノ利ノ利用状況	市民ノ利ノ利用人数	所在地町民ノ利用人数	其他市町村ノ利用人数
京城府	上水道	水道課給水派出所	高陽郡漢芝面水		無償讓受	明治二年八月	府民一般	七三	三〇〇	
大邱府	住宅衛生	光熙住宅	高陽郡漢芝面新營東		金禧錫氏寄附	昭和三年四月		七三	七	一七
	汚物處理場	大邱火葬場	府外大明洞			同				
	大邱回生醫院	府外新堡洞	府外新堡洞			大正三年		三、六〇〇		
	大邱府水道水源池	府外內唐洞	府外內唐洞			大正三年三月		四、〇〇〇		
平壤府	電氣軌道	平壤府電氣軌道寺洞線	大日郡秋乙美面	三哩五鎮	海軍燃廠平壤鑛業所ヨリ府内ニ供給セラルル燃料ノ配給ヲ主トシ旅客運給ヲ併セ行フ	昭和二年二月		三、〇〇〇	三〇、〇〇〇	七、〇〇〇



郊外町村所在市有不動産の面積價額並利用の現状

仙臺市	郡山市	水戸市	足利市	高崎市	横須賀市	新潟市	福井市
水道水源用地 安積郡多田野村	水道水源用地 安積郡多田野村		水道水源用地 足利郡三重村	群馬町佐野村大字新後閑 碓氷郡里見村大字上里見 碓氷郡里見村 同郡八幡村 同郡豐岡村 同郡八幡村 群馬郡六郷村	一般會計 三浦郡衣笠村小矢部 同郡同村平作	板井輪村大字市左衛門 同村青山 同村平島 同村小新 黑崎村大字寺地	傳染病院所 足羽郡東安居村明里 同 足羽郡木田村木田地方
山林 〇・三九町 山林 一・四六町 山林 一・八九二町 水道用地 八五八坪 建物 一〇・五	山林 〇・三九町 山林 一・四六町 山林 一・八九二町 水道用地 八五八坪 建物 一〇・五		山林 〇・六〇一町 山林 〇・一〇〇一町 山林 一・七〇五町 山林 〇・一三三町 山林 〇・四七九町 山林 〇・四〇四町	山林 〇・六〇一町 山林 〇・一〇〇一町 山林 一・七〇五町 山林 〇・一三三町 山林 〇・四七九町 山林 〇・四〇四町	市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ	市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ	市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ 市ノ中心ヨ
水道用水 水源用地	水道用水 水源用地		水道敷設	水道敷設	御即位記念學林 トシテ寄附テ受	水道用地	水道用地
平均坪當リ 三・四	平均坪當リ 三・四		平均坪當リ 三・四	平均坪當リ 三・四	平均坪當リ 三・四	平均坪當リ 三・四	平均坪當リ 三・四
同 水源用地	同 水源用地		同 水源用地	同 水源用地	同 水源用地	同 水源用地	同 水源用地
耕作地トシテ貸付ク 保安林	耕作地トシテ貸付ク 保安林		耕作地トシテ貸付ク 保安林	耕作地トシテ貸付ク 保安林	耕作地トシテ貸付ク 保安林	耕作地トシテ貸付ク 保安林	耕作地トシテ貸付ク 保安林
水道用地	水道用地		水道用地	水道用地	水道用地	水道用地	水道用地
取得ノ目的ニ同シ	取得ノ目的ニ同シ		取得ノ目的ニ同シ	取得ノ目的ニ同シ	取得ノ目的ニ同シ	取得ノ目的ニ同シ	取得ノ目的ニ同シ

都市名	取得經濟別	所在場所	坪數	距市 ト 離ノ	取得ノ目的	價 格	現在ノ利用狀況
						取得當時 現在	
福井市	道放尋常小學	吉田郡圓山西村松本地方	一、九四五坪	二町	水道施設ノ爲メ	二四、九八〇 六三、九〇〇	水道施設用地
	第一尋常高等	足羽郡社村小山前	四、四〇五坪	二町	水道施設ノ爲メ	一五、四〇〇 六三、九〇〇	水道施設用地
	第二尋常高等	足羽郡東安居村三ツ橋地方	四、〇〇七坪	五町	水道施設ノ爲メ	一〇、八八八 四三、五七〇	水道施設用地
	第三尋常高等	吉田郡内山村下四ツ居	八、七五五坪	一〇町	水道施設ノ爲メ	九、五二七 四三、五〇〇	水道施設用地
	小學校	足羽郡木田村地方	六、六五一坪	八町	水道施設ノ爲メ	六、〇六三 四三、五〇〇	水道施設用地
	市立商業學校	足羽郡東安居村三ツ橋地方	一〇、一〇一坪	六町	水道施設ノ爲メ	八、三九〇 四三、五〇〇	水道施設用地
濱松市	道放尋常小學	濱名郡豐西村常光中ノ町村白	八、五四六坪	二里	水道水源用地	一八、〇五五	水道施設用地
	第一尋常高等	同郡同村常光外四ヶ村	四、四三七坪	二里	水道水源用地	一八、〇五五	水道施設用地
	第二尋常高等	同郡同村常光外四ヶ村	一、一四九坪	一里	水道水源用地	五、九三三	水道施設用地
	第三尋常高等	同郡同村常光外四ヶ村	三、二七坪	一里	水道水源用地	二、四五六	水道施設用地
沼津市	道放尋常小學	駿東郡金田村	六、三三八坪	六町	水道水源用地	二、四五六	水道施設用地
名古屋	道放尋常小學	丹羽郡大山町	五、七四〇坪	七町	水道施設ノ爲メ	二八、二九五	水道施設用地
	第一尋常高等	同郡同村大山町	五、七四〇坪	七町	水道施設ノ爲メ	二八、二九五	水道施設用地
	第二尋常高等	同郡同村大山町	五、七四〇坪	七町	水道施設ノ爲メ	二八、二九五	水道施設用地
	第三尋常高等	同郡同村大山町	五、七四〇坪	七町	水道施設ノ爲メ	二八、二九五	水道施設用地
	小學校	同郡同村大山町	五、七四〇坪	七町	水道施設ノ爲メ	二八、二九五	水道施設用地
	市立商業學校	同郡同村大山町	五、七四〇坪	七町	水道施設ノ爲メ	二八、二九五	水道施設用地

都市名	取得經濟別	所在場所	坪數	距市 ト 離ノ	取得ノ目的	價 格	現在ノ利用狀況
						取得當時 現在	
豐橋市	道放尋常小學	愛知郡天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第一尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第二尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第三尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	小學校	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	市立商業學校	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
神戶市	道放尋常小學	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第一尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第二尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第三尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	小學校	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	市立商業學校	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
西宮市	道放尋常小學	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第一尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第二尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第三尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	小學校	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	市立商業學校	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
尾道市	道放尋常小學	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第一尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第二尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第三尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	小學校	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	市立商業學校	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
福山市	道放尋常小學	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第一尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第二尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	第三尋常高等	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	小學校	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地
	市立商業學校	同郡同村天白村大字八事宇裏山	一、四三二坪	一、四三二町	水道施設ノ爲メ	一、四三二	水道施設用地

都市名	取得經濟別	所在場所	坪數	距市ノ距離	取得ノ目的	價 格	現在ノ利用狀況
福山市	水道財産	水源地事務所 浄水池事務所	四〇九 四〇五	二・三 同	上水道建設用	一三五 同	事務所及び倉庫ニ使用
九龍市							
高知市							
大分市							
京城府		高陽郡漢芝面	二五、四九		上水道用地、集積場、墓地、府有	〇〇一〇	取得ノ目的ニ從ヒ經營シツツアリ
		同郡龍江面	四、九三		墓地、基本財産	〇〇一〇	
		同郡崇仁面	一九、八〇		墓地、汚物處分	〇〇一〇	
		同郡思平面	六、一〇		墓地、火葬場	〇〇一〇	
		如興郡北面	九、一一		水道用地、住宅用地	同	
大邱府	一般經濟	府外内唐洞 府外大明洞 府外龍溪洞	二、三三 三、三三 三、三三		府立病院敷地 鮮人共同墓地 上水道用地	一、四六〇 五、四三三 八、四一七	
平壤府	費	大同郡林原面龍山面西川面	二七、六三	一・八	共同墓地塵芥屎尿搬出場所	一〇、二二	
	學校組合費	大同郡林原面及柴足面	六五、七〇	三・〇	小學校及高等女學校林	二、七〇六	
	學校費	大同郡林原面	五、七六〇	一・八	普通學校林	二	

## 一〇 都市及接近町村財政に關する調査

本表は都市及郊外町村發達の市町村財政に及ぼす影響其他に付、先づ之が歲計の推移及其内容を明かならしむると共に、市町村民負擔の現況を知るに便せしむるものとす。

### 市及接近町村歲出累年比較

都市名	市町村別	年次	歳出總額	土木費	教育費	衛生費	社會事業費	水道費	電氣事業費(市ノミ)	警備費(町村ノミ)	公債費	其他
盛岡市	盛岡市	昭和五年度	一、五七五、三三三	二五、四三七	三三、六〇四	三、五二九	五、〇三四	一、五〇〇			一、三二一	一、五八七
		同四年度	一、〇九五、三三三	三九、九四六	三六、八五〇	二、八六六	四、一六一	一、五二四			四、五六三	一九九、〇〇〇
		同三年度	八八、四七六	七、八六三	四六、八八三	三、四一六	四、二七				五、〇六七	二五、〇〇〇
	本宮村	同五年度	二、七七一	一、八一〇	一一、四四四	二〇					六、二〇	
		同四年度	二、四八九	一、三六三	九、八三七	一五					六、二〇	
		同三年度	三、八八八	二、四二六	一〇、一〇四	二〇					六、二〇	
	太田村	同五年度	三、四四三	一、七三七	一四、一〇三	二、四〇	一、六〇				一、〇九三	二、七四
		同四年度	三、三〇五	一、四四三	一三、八〇〇	二、八	一、六				一、三九	二、八七
		同三年度	四、四三三	八、九六三	一四、六五	四、六	三				一、四九	一、八七
	厨川村	同五年度	二、五八五	四、五五	九、七三七	三、六五					八、二五	
		同四年度	二、九二五	六、一五	九、三七	三、三七					八、二五	
		同三年度	二、八七五	四、七八	一〇、〇七	三、三七					八、二五	
	中野村	同五年度	三、三三六	二、六三〇	八、七六一	一、六					五、九六	一、五九六
		同四年度	一、九三三	四、七四	八、七六一	一、六					五、九六	一、五九六





飯田村			蒲村			可美村			富塚村			沼津市			金岡村			名古屋			下ノ一色町			庄内町			萩野村		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五年度	四年度	三年度	五年度	四年度	三年度	五年度	四年度	三年度	五年度	四年度	三年度	五年度	四年度	三年度	五年度	四年度	三年度	五年度	四年度	三年度	五年度	四年度	三年度	五年度	四年度	三年度	五年度	四年度	三年度
二九、七四三	二六、四三三	三九、三六九	二〇、五五二	一九、七二八	一九、九九七	二九、五五七	二八、七五〇	三〇、六七七	二四、二五〇	二三、九四〇	二七、四四六	七、七七〇	一、三九四	七、七〇八	四、一六四	四、四三七	五、五二三	三七、一七二	四、一七二	二七、四八四	六、〇八四	六、三九二	六、四六〇	二九、九二二	二八、四七七	三七、六四〇	二二、七九二	二二、五二二	二二、一四五
五、五〇一	五、四〇二	五、一〇八	二、〇三〇	一、四〇二	四、八七	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一、七〇	七、一	二、〇〇	一九九、七六	一、四四二	一、三九四	七、〇	三、〇	五、〇	八、〇九二	二、三三二	一、五二七	六、三三五	一、九三三	二、〇六一	一、一三三	一、一三三	一、一三三	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
一、五八、一三五	一、三三、一三三	一、三六、〇〇〇	九、八八二	九、九八〇	一〇、四七四	一、三、四〇〇	一、三、一三四	一、三、四四八	一、一、一五	一、一、〇九	一、〇、七五	一、二八、九六九	一、四、二七五	一、五、七八〇	一九、一一三	一九、〇四九	二〇、七五五	三、九五四	五、〇、二八七	五、四、四六八	三、四、二六	三、一、六七	三、一、六七	一、五、八五一	一、四、四三二	二、六、〇〇八	五、六、三五	五、九、八五	六、一、一一
三、三〇	六、三	七、九	四、四九	六、〇六	五、〇〇	一、三	一、三	二、九	四、九七	三、六〇	四、二	二、五、〇	二、四、四三	二、四、二二	一、六、五	二、一五	一、八、九	一、二、八八四	一、二、二〇一	一、二、六、四六	一、五、九〇	一、六、三	一、六、三	五、五〇	六、四三	三、四七	一、一〇	一、一〇	四、五
一、〇	八、七	五、四										一、一、七五九	一、二、六四	一、二、六二二	一、一	一、一	一、一	四、五、二六九	三、三、五三二	三、〇、一、九五〇	二、八、四一	一、八、〇六	二、七、〇六	一、三、五	一、三、五	八、〇	一、三、五	一、三、五	一、八
																		八、四、五四六	九、一、三七〇	七、三、六、四二五									
																					四、三三	四、三三	四、三三	三、九三	三、八四	三、七四	二、六三	一、七三	一、六九
																		七、二、五、一六	七、三、九、五	五、三、八、八	八、四、七	八、三、九	八、三、九	二、八、七	二、八、七	二、八、七	二、六三	二、六三	二、六三
																		二、〇、五〇、九三	二、四、二、九	二、二、八、七	一、五、五六	一、二、五、二	一、二、五、二	八、七、六九	八、七、六九	八、七、六九	六、四〇	五、七、八四	四、七、三三
																		一、七、〇、〇四	一、七、〇、〇四	一、五、四、一三〇	五、九、五二	五、七、九二	五、七、九二	二、九、三三	二、九、三三	二、九、三三	二、六三	二、六三	二、六三
																		四、三、四、四四	八、六、六、四〇	二、五、六、一五二	一、四、八、〇一	一、二、八、一一	一、二、八、一一	八、八、〇〇	八、八、〇〇	八、八、〇〇	六、四〇	五、七、八四	四、七、三三

[illegible]

[illegible]

都市名	市町村別	年次	歳出總額	土木費	教育費	衛生費	社會事業費	水道費	電氣事業費(市ノミ)	警備費(町ノミ)	公債費	其他
名古屋市(續)	川中村	昭和四年年度	五、八〇〇	一、五五〇	二、八二一	二、七	九、七	一、五	二、七	二、八	五、九	二、七
		三年年度	七、四六八	一、一七八	二、九三三	二、六	一、〇五	一、〇	二、七	二、八	五、九	二、七
		二年年度	一五、一七六	七、〇〇〇	二、九八八	二、〇	一、〇五	一、〇	二、七	二、八	五、九	二、七
		一年年度	六、六二二	二、二〇三	二、三〇六	七、八	一、一九	一、一	二、八	二、八	五、〇	二、七
豐橋市	豐橋市	五年年度	一、三八〇〇	三、一五六	三、四〇二	二、〇	三、六四九	一、五	一、五	二、八	五、〇	二、七
		四年年度	一、一五五八	二、七五三	三、三二一	二、一	二、三八八	一、〇	一、〇	二、八	五、〇	二、七
		三年年度	一、一六八五	二、七五三	三、三二一	二、一	二、三八八	一、〇	一、〇	二、八	五、〇	二、七
		二年年度	一、一六八五	二、七五三	三、三二一	二、一	二、三八八	一、〇	一、〇	二、八	五、〇	二、七
		一年年度	一、一六八五	二、七五三	三、三二一	二、一	二、三八八	一、〇	一、〇	二、八	五、〇	二、七
堺市	堺市	五年年度	二、一八〇	四、六〇二	五、六一七	九、七	一、四四四	一、七	二、七	二、八	五、〇	二、七
		四年年度	二、三三二	四、六八二	六、七二六	一、〇	一、四四四	一、七	二、七	二、八	五、〇	二、七
		三年年度	三、四四九	一、八六四	七、七八六	一、七	二、七八六	一、九	二、八	二、八	五、〇	二、七
		二年年度	一、三〇〇	一、三五一	五、一〇二	四、一	一、五〇	一、〇	二、八	二、八	五、〇	二、七
		一年年度	一、三〇〇	一、三五一	五、一〇二	四、一	一、五〇	一、〇	二、八	二、八	五、〇	二、七
濱寺町	濱寺町	五年年度	二、七五五	三、〇〇〇	一、〇五五	七、六	二、五〇	一、〇	二、八	二、八	五、〇	二、七
		四年年度	二、八九五	三、〇〇〇	一、〇五五	七、六	二、五〇	一、〇	二、八	二、八	五、〇	二、七
		三年年度	二、七五五	三、〇〇〇	一、〇五五	七、六	二、五〇	一、〇	二、八	二、八	五、〇	二、七
		二年年度	二、七五五	三、〇〇〇	一、〇五五	七、六	二、五〇	一、〇	二、八	二、八	五、〇	二、七
		一年年度	二、七五五	三、〇〇〇	一、〇五五	七、六	二、五〇	一、〇	二、八	二、八	五、〇	二、七
福山市	福山市	五年年度	六、三五八	七、八七六	八、九七八	一、〇四〇	四、〇〇〇	一、七	二、八	二、八	五、〇	二、七
		四年年度	七、五〇〇	二、六五九	八、九六三	一、一六九	四、〇〇〇	二、二	二、八	二、八	五、〇	二、七
		三年年度	六、九〇二	三、二二一	五、八二七	一、〇四五	四、〇〇〇	二、五	二、八	二、八	五、〇	二、七
		二年年度	一、三二〇	一、四	四、九〇	二	四、〇〇	二、五	二、八	二、八	五、〇	二、七
		一年年度	一、四二五	一、四	四、八〇	二	四、〇〇	二、五	二、八	二、八	五、〇	二、七
草戸村	草戸村	五年年度	一、五五五	一、六	四、五八	五、九	四、〇〇	二、五	二、八	二、八	五、〇	二、七
簡村組合	簡村組合	四年年度	一、四二五	一、六	四、五八	五、九	四、〇〇	二、五	二、八	二、八	五、〇	二、七
吉津村	吉津村	五年年度	七、八六	二、九	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	五、〇	二、七
		四年年度	八、三七三	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	五、〇	二、七
		三年年度	九、一四八	二、五	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	五、〇	二、七
		二年年度	八、四九四	九、五	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	五、〇	二、七
		一年年度	九、〇五五	八、九	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	五、〇	二、七
本庄村	本庄村	五年年度	九、五三三	八、九	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	五、〇	二、七
		四年年度	九、五三三	八、九	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	五、〇	二、七
		三年年度	九、五三三	八、九	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	五、〇	二、七
		二年年度	九、五三三	八、九	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	五、〇	二、七
		一年年度	九、五三三	八、九	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	二、八	五、〇	二、七

都市名	市町村別	年次	歳出總額	土木費	教育費	衛生費	社會事業費	水道費	電氣事業費(市ノミ)	警備費(町村)	公債費	其他
大分市	植田村	昭和三年年度	三六、四六六	二、三〇〇	三、二七四	三、三〇〇	五、五五五	一、〇〇〇	六、五九九	六、五九九	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	同	昭和四年年度	四〇、六五七	四、〇八〇	三、四〇八	三、七六八	三、九八〇	一、〇〇〇	七、四四〇	七、四四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	同	昭和五年年度	三九、〇七〇	三、六〇〇	三、四〇八	三、七六八	三、九八〇	一、〇〇〇	六、九七〇	六、九七〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
	東大分村	三年年度	三六、〇五五	五、六	三、〇〇三	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二
	同	四年年度	三八、六三五	七、九	三、三六八	一、三八	一、三八	一、三八	一、三八	一、三八	一、三八	一、三八
	同	五年年度	三六、〇五五	七、九	三、三六八	一、三八	一、三八	一、三八	一、三八	一、三八	一、三八	一、三八
	賀來村	三年年度	四〇、九〇四	三、六三三	一、五三三	一、四〇〇	二、四一	二、四一	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五
	同	四年年度	三三、七五	三、三三	一、五三三	一、四〇〇	二、四一	二、四一	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五
	同	五年年度	三三、七五	三、三三	一、五三三	一、四〇〇	二、四一	二、四一	一、八五	一、八五	一、八五	一、八五
	京城市府	五年年度	(一)四七、六八六 (二)四七、六八六 (三)四七、六八六	一、三四四〇 一、三四四〇 一、三四四〇	一、〇九二、八四一 一、〇九二、八四一 一、〇九二、八四一	四、八三三、二九	五、六三七六	八、八〇、六一	一、一七五、六〇	一、一七五、六〇	一、一七五、六〇	一、一七五、六〇
京城府	龍江面	三年年度	(一)一、四一、三四、九六七 (二)一、四一、三四、九六七 (三)一、四一、三四、九六七	六、〇、六五三	一、〇、四、〇八一	五、四、九七〇	六、三、八三五	六、二五、三五	一、二七、二、六〇	一、二七、二、六〇	一、二七、二、六〇	一、二七、二、六〇
	同	四年年度	(一)一、四一、三四、九六七 (二)一、四一、三四、九六七 (三)一、四一、三四、九六七	六、〇、六五三	一、〇、四、〇八一	五、四、九七〇	六、三、八三五	六、二五、三五	一、二七、二、六〇	一、二七、二、六〇	一、二七、二、六〇	一、二七、二、六〇
	同	五年年度	(一)一、四一、三四、九六七 (二)一、四一、三四、九六七 (三)一、四一、三四、九六七	六、〇、六五三	一、〇、四、〇八一	五、四、九七〇	六、三、八三五	六、二五、三五	一、二七、二、六〇	一、二七、二、六〇	一、二七、二、六〇	一、二七、二、六〇
	延禧面	三年年度	三、九、八七	一、二、九七	一、〇、七、七	四、四、一六	二、四、七	二、四、七	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇
	同	四年年度	一、八、七六	一、一、八八	一、〇、七、七	四、四、一六	二、四、七	二、四、七	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇
	同	五年年度	一、九、〇〇	一、一、八八	一、〇、七、七	四、四、一六	二、四、七	二、四、七	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇	二、〇、〇〇
	恩平面	三年年度	八、三、九四	一、〇、〇	一、〇、〇	六、四、三	七、五	七、五	一、八、七九	一、八、七九	一、八、七九	一、八、七九
	同	四年年度	八、三、九四	一、〇、〇	一、〇、〇	六、四、三	七、五	七、五	一、八、七九	一、八、七九	一、八、七九	一、八、七九
	同	五年年度	八、三、九四	一、〇、〇	一、〇、〇	六、四、三	七、五	七、五	一、八、七九	一、八、七九	一、八、七九	一、八、七九
	同	三年年度	八、三、九四	一、〇、〇	一、〇、〇	六、四、三	七、五	七、五	一、八、七九	一、八、七九	一、八、七九	一、八、七九
	同	四年年度	八、三、九四	一、〇、〇	一、〇、〇	六、四、三	七、五	七、五	一、八、七九	一、八、七九	一、八、七九	一、八、七九

大邱府	崇仁面	四年年度	一、八、八、四九	二、五、二四	二、四、七	二、四、七	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇
	同	五年年度	一、八、八、四九	二、五、二四	二、四、七	二、四、七	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇
	漢芝面	三年年度	一、六、七、七五	二、三、五九	二、四、七	二、四、七	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇
	同	四年年度	一、六、七、七五	二、三、五九	二、四、七	二、四、七	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇
	同	五年年度	一、六、七、七五	二、三、五九	二、四、七	二、四、七	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇	一、〇、〇〇
	北面	三年年度	二、四、九、八八	四、〇、五三	三、九、九三	二、八、八	一、三、四	一、三、四	一、三、四	一、三、四	一、三、四	一、三、四
	同	四年年度	二、四、九、八八	四、〇、五三	三、九、九三	二、八、八	一、三、四	一、三、四	一、三、四	一、三、四	一、三、四	一、三、四
	同	五年年度	二、四、九、八八	四、〇、五三	三、九、九三	二、八、八	一、三、四	一、三、四	一、三、四	一、三、四	一、三、四	一、三、四
	大邱府	三年年度	一、〇、五、三三	二、六、六	一、九、二六	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九
	同	四年年度	一、〇、五、三三	二、六、六	一、九、二六	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九
	同	五年年度	一、〇、五、三三	二、六、六	一、九、二六	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九
達西面	三年年度	一、〇、五、三三	二、六、六	一、九、二六	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九
	同	四年年度	一、〇、五、三三	二、六、六	一、九、二六	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九
	同	五年年度	一、〇、五、三三	二、六、六	一、九、二六	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九	一、三、九
	壽城面	三年年度	一、一、四、一六	九、八〇	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七
	同	四年年度	一、一、四、一六	九、八〇	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七
	同	五年年度	一、一、四、一六	九、八〇	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七
	城北面	三年年度	一、一、四、一六	九、八〇	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七
	同	四年年度	一、一、四、一六	九、八〇	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七
	同	五年年度	一、一、四、一六	九、八〇	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七
	同	三年年度	一、一、四、一六	九、八〇	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七
	同	四年年度	一、一、四、一六	九、八〇	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七	一、〇、七、七

市及接近町村歳入累年比較

都市名	市町村別	市税額又ハ 町村税額	市債額又ハ 町村債額	國稅額	府縣稅額	諸稅一人當負擔額
弘前市	弘前市	三、八、〇三三	七、七、九四五	七、〇、六七四	一、四、七、七四三	一、八、九二
和德前村市	和德前村市	三、八、〇三三	七、七、九四五	七、〇、六七四	一、四、七、七四三	一、八、九二

都市名	市町村別	市税額又ハ 町村税額	市債額又ハ 町村債額	國 稅 額	府 縣 稅 額	諸稅一人當負擔額	市町村稅一人當負擔額	市町村債一人當負擔額	國稅一人當負擔額	府縣稅一人當負擔額
盛岡市	盛岡市	四二、九三三	三、五七三	二六、六六九	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	本宮市	二七、六六九	三、五七三	二六、六六九	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	大田村	二七、六六九	三、五七三	二六、六六九	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	中野村	二七、六六九	三、五七三	二六、六六九	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	浅川村	二七、六六九	三、五七三	二六、六六九	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
水戸市	水戸市	二八、六三六	三、二七八	一七、七二〇	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	上野村	一七、七二〇	三、二七八	一七、七二〇	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	大門口	一七、七二〇	三、二七八	一七、七二〇	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	柳川村	一七、七二〇	三、二七八	一七、七二〇	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
足利市	足利市	二四、七六七	三、二七八	二四、七六七	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	三毛村	二四、七六七	三、二七八	二四、七六七	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
高崎市	高崎市	三三、八七三	一、三六四	二六、八七三	四、七〇三	五、一〇六	一〇、四〇三	一、〇四〇	四、七〇三	五、一〇六
	豐後村	一三、七七一	一、三六四	一三、七七一	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
	岡崎村	一三、七七一	一、三六四	一三、七七一	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇
横濱市	横濱市	四六、〇四九	二、八八〇	三三、〇九三	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	須賀町	三三、〇九三	二、八八〇	三三、〇九三	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	田町	三三、〇九三	二、八八〇	三三、〇九三	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	浦田町	三三、〇九三	二、八八〇	三三、〇九三	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	衣笠町	三三、〇九三	二、八八〇	三三、〇九三	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
福井市	福井市	四〇、一四三	一、五〇〇	三三、一四三	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	木田村	四〇、一四三	一、五〇〇	三三、一四三	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	山田村	四〇、一四三	一、五〇〇	三三、一四三	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	和田村	四〇、一四三	一、五〇〇	三三、一四三	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三
	和社村	四〇、一四三	一、五〇〇	三三、一四三	三、三〇六	六八、一五	四、四二九	三、七三	四、四二九	三、七三

濱松市	濱松市	八、〇一四	一、〇一〇	三、五七八	一、〇一〇	六、三三三	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	東山	八、〇一四	一、〇一〇	三、五七八	一、〇一〇	六、三三三	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	西島	八、〇一四	一、〇一〇	三、五七八	一、〇一〇	六、三三三	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	飯田	八、〇一四	一、〇一〇	三、五七八	一、〇一〇	六、三三三	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	蒲田	八、〇一四	一、〇一〇	三、五七八	一、〇一〇	六、三三三	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	富田	八、〇一四	一、〇一〇	三、五七八	一、〇一〇	六、三三三	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
沼津市	沼津市	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	金岡	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
名古屋市	名古屋市	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	下色	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	庄内	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	荻野	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	川中	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	西田	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
豐橋市	豐橋市	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	豐橋	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
堺市	堺市	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	神石	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
福山市	福山市	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	草津	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	吉野	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	本庄	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	深津	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	手津	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇
	川口	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇	一、〇一〇

[illegible]

市町村税並賦課率

都市名	市町村別	市税額又ハ 町村税額	市債額又ハ 町村債額	國税額	縣府税額	諸税一人當負擔額
丸龜市	土南丸	二八、二七六 二五、四八九 一五、五四九	五八、九九七 六〇、一五九 六二、一二二 七三、一八六	二八、六九〇 一三、八二〇 一七、一五五	二〇、一四〇 二〇、五三三 二〇、四〇〇	二〇、五三三 二七、〇〇〇 二〇、四〇〇
大分市	大南大	三四、八七〇 三九、一七七 二六、八九二	一八、七五六 二二、五六〇 九二、二七六	一五、七四八 一五、一〇一 一四、〇五一	五七、八八四 三〇、一四四 四七、六〇〇	三、一〇一 二四、四九〇 一六、五〇〇
京城府	龍東賀	一、一六九、九六六 一、三四八、〇〇六 五八、〇〇六	三、〇一三、六四四 一、八三三、六三二 七三、一九九	一、八三七、七六〇 一、五九一、六六五 一、五四四、五五〇	三、四三三、八八六 四、四六四、〇〇五 〇、〇〇五	一、五二二、四四一 〇、六八八、〇〇〇 〇、六八八、〇〇〇
大邱府	延恩崇	一、一六九、九六六 一、三四八、〇〇六 五八、〇〇六	三、〇一三、六四四 一、八三三、六三二 七三、一九九	一、八三七、七六〇 一、五九一、六六五 一、五四四、五五〇	三、四三三、八八六 四、四六四、〇〇五 〇、〇〇五	一、五二二、四四一 〇、六八八、〇〇〇 〇、六八八、〇〇〇
北漢城	芝平仁	一、一六九、九六六 一、三四八、〇〇六 五八、〇〇六	三、〇一三、六四四 一、八三三、六三二 七三、一九九	一、八三七、七六〇 一、五九一、六六五 一、五四四、五五〇	三、四三三、八八六 四、四六四、〇〇五 〇、〇〇五	一、五二二、四四一 〇、六八八、〇〇〇 〇、六八八、〇〇〇
大邱府	西面府	二九、一〇三 九七、〇八〇 一〇、九五五	八〇、〇〇〇 一、五〇〇 一〇、〇〇〇	一、四三三、一八八 一、二七三、八二八 一〇、〇〇〇	一〇、五三三、一五五 一、二七三、八二八 一〇、〇〇〇	八、五三三、一五五 〇、三三〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
弘前市	弘前市	二、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇



[illegible]

都市名	市町村別	稅收入額	課率	市稅	府縣稅附加稅	特別稅	府縣稅附加稅	特別稅
名古屋市	○荻野村	二,七三三	最高	〇・六六〇	〇・八九〇	〇	一,三〇〇	〇
	○川中村	五,八八〇	同	〇・六六〇	〇・五〇〇	〇	〇・三七〇	〇
	西枇杷島町	六六,二二	同	〇・六〇〇	〇・五〇〇	〇・四〇〇	〇・三七〇	〇
豐橋市	豐橋市	一,四八五,〇八六	同	〇・二四〇	一,八六〇	〇・四〇〇	一,一〇七	〇
堺市	堺市	九七四,一八六	同	〇・九八〇	一,〇〇〇	〇・三〇〇	〇・一〇〇	〇
	濱寺町	二〇〇,五〇〇	同	〇・七九二	一,〇五〇	〇・三〇〇	〇・八三〇	〇
	神石村	三三,六二六	同	〇・一一〇	〇・五七〇	〇・三〇〇	〇・二四〇	〇
福山市	福山市	三八八,三八八	同	〇・六六〇	一〇,〇〇〇	〇・三〇〇	〇・八三〇	〇
	○草戸村外	一四,一八五	同	〇・六六〇	一,〇〇〇	〇・三〇〇	〇・八三〇	〇
	○吉津村	八,三七三	同	〇・六六〇	〇・八〇〇	〇・三〇〇	〇・八三〇	〇
	○本庄村	九,五五五	同	〇・六六〇	〇・八〇〇	〇・三〇〇	〇・八三〇	〇
	○木之庄村	六,三九一	同	〇・六六〇	〇・八〇〇	〇・三〇〇	〇・八三〇	〇

市域擴張後の實績を知るに便する爲め、試みに先づ被併合町村元理事者たりし町村長にして現に住居所の判明せる百六十九氏に對し、次に掲ぐる要項に基き所見の回示を求めたが、本書締切迄に之が所見の報告に接したものは極めて少數であつた。然し乍ら問題の實相を知るに必ずしも不都合でないと思ひ茲に之が要旨を整理摘録する。

## 一 併合後の市政現狀

- (一) 被併合町村民は現在の市政に満足しつゝありや、若し不滿の廉ありとせば其具體的事實の要旨  
(二) 市の施設は豫期の如く充分に田町村區域に普遍しつゝありや、各施設毎に之が過不及の程度  
(三) 併合條件並當時合意、契約の諸事項は總て新市に於て條件の通り履行されつゝありや其實現の狀況  
(四) 市税其他負擔の増減傾向並に之が増減の程度  
(五) 各種議員選舉區其他市民の公共生活に於て新舊市民の關係に付何等か特記すべき事實認識せらるゝことなきや、あらば其具體的記述  
(六) 市會區會、町内會等の内部に於て新舊市民の間に於ける利害は苦情なく圓滿に調節解決せられつゝありや  
二 併合後の市民生活の現狀  
(一) 併合に因り最も利益を受けたる事項と最も不利益を感じたる事項は如何なる點なりや  
(二) 舊町村民と市民との間は諸事圓滿に協和しつゝありと認むるや



- (三) 併合が市民の公共生活に及ぼしたる影響並便否利害の程度  
 (四) 併合が市民の各種經濟的生活關係に及ぼしたる影響並利害の程度  
 (五) 併合が各種公共組合、團體等の存立、財政、事業其他に及ぼしたる影響及利害の程度  
 (六) 其他併合が一切の市民生活に及ぼしたる影響並利害便否の實相、程度

### 三 併合當時の狀況

#### (一) 併合の動機原由

- イ 併合の原因は市町村の何れに在りしや  
 ロ 町村自身が自働的に併合の機運を作りたるか  
 ハ 市より併合勸説を受けたるか  
 ニ 府縣知事其他より併合勸説を受けたるか

#### (二) 併合確定の経緯

- イ 町村民は何を目標とし併合に賛意を表せしか  
 ロ 町村民は當時何を不服とし併合に反對せしか  
 ハ 町村會の意向は何れに在りしや  
 ニ 町村理事者の意向は何れに在りしや  
 ホ 市民、市會、市理事者の意向は何れに在りしや

ヘ 監督官廳又は上級行政廳の意向並各種條件等裁量の要旨

#### (三) 併合條件其他の綱要

- イ 主なる併合條件は如何なる點に在りしや  
 ロ 從たる併合條件は如何なるものなりしや

ハ 其他に合意契約等ありしとせば其重點

ニ 無條件併合の事由

#### 四 併合前の町村政大要

#### 五 其他併合措置に關し今後に於て注意を要すべき事項

## 一 併合後の市政現狀

### (一) 被併合町村民は現在の市政に満足しつゝありや、若し不滿の廉ありとせば其の具體的事實の要旨

大體に於て満足せり。(元大阪府鷺洲町長)

併合後の當町民は現在の市政方針には大體満足し得るも、或る一部に於ては不滿の聲有り。(元大阪府安立町長)

商業大都市と純農村とは施政上大なる間隔あるは固より論なし、一は膨大なる地域なるを以て専ら法治に據るの外なく一は狭少なる範圍に於て多年徳治を主とし來れるの結果なりとす。而して市政に不滿の點あるも滄海の一粟何等省視さるゝ所なく畢竟不自然なる併合の歸趨として諦觀の外なかる可し。(元大阪府依羅村長)

別段不滿の聲を聞かず、然れども一部に於て市電の布設行届かざる所は市に對し強要せるものあり。(元大阪府歌島村長)

小區域なりし町村自治が大自治たる市制に變化せるが故、一般町村民の氣風市制に對して珍らしき心意氣も有り何等支障來たすべき處なし。(元大阪府喜連町長)

被併合町村民の全般に就て知るを得ざれ共現在の市政に満足せるものゝ如し。(元愛知縣東山村長)

舊六箇町村中五箇町村は満足し居るなり、獨り江尻町一部(全戸數の四分の一)不満足にて現今に於ても市税を滞納し居れり。市名を清水市と命名したるが不満なり、區名に關しては舊各町村共通適當の名稱を附する事を縣知事に一任したるものなれば何れの名稱

を附するも後日に異議ある筈なきものとす。(元静岡縣三保村長)

未だ満足するの程度に至らず。併合後日浅き爲めなるべし。(元富山縣横田村長)

被併合町村民は現在の市政に満足しつゝあり(併合せられざる近接町村も併合を熱望し、或る一部落の如きは市に向て併合を請願し市は之に對し委員を擧げて調査中なり)(元宮城縣長町長)

## (二) 市の施設は豫期の如く充分に舊町村區域に普遍しつゝありや、各施設毎に之が過不及の程度

充分とは云ひ得ざるも舊町村其儘存続するに比し、行政區域撤廢されし爲め上下水道、道路等自由に施行せられんとし利便多しと云ふを得べし。(元大阪府鷺洲町長)

現在に於ては市の施設は豫期以上には未だ普及致し兼ね居るも、土木事業の如きも逐日新市方面に普及し、現に下水工事も行はれ財政の許す範圍内に於て各般に於て普及しつゝあり。(元大阪府安立町長)

市の施設は當初聲明せし如く普遍せられず、是亦編入區域の餘りに膨大に失せる結果なるべし。(元大阪府依羅村長)

道路及下水道の改良上水道の延長等徐々施設しつゝあるも、市財政等の關係上未だ期待せし程度に至らず。(元大阪府歌島村長)

施設は充分ならざるも普通しつゝあるやに思考せらる。(元愛知縣東山村長)

自治の圓滿を圖る爲め過不及なく公平に爲しつゝあるものゝ如し。(元静岡縣三保村長)

市の施設らしきもの未だ行はれしものなし。(元富山縣横田村長)

市の施設は未だ充分なりとは云ひ能はずと雖も、大體に於て逐次普遍しつゝありと認めらる、その要項次の如し。

- (1) 土木 道路橋梁等小破迄注意行届き大に宜し。
- (2) 教育(小學校) 増改築等臨時費大に不充分なれ共、併合に關係なく市全般に亙るものにして、財政の許さざる所なれば已を得ずと認む。經常費中備品、消耗品、慰勞金等は被併合前より支出割合減額し稍々劣る感あり。(但し之も臨時費同様市全般にして

新舊の區別あるに非ず) 高等科の授業料は却つて増額せり。(併合別は一人三十錢、後は七十錢)

(3) 衛生 施設としては大差なけれども市立病院(實費診療)に入院し得るの便を得たり。

(4) 勸業、社會事業等共に不可なし。(元宮城縣長町長)

## (三) 併合條件並に當時合意、契約の諸事項は總て新市に於て條件の通り履行されつゝありや其の實現の状況

大體履行せられつゝあり。但し交通機關の統一的施設は都市計畫等の爲め未だ不行届の箇所多し。(元大阪府鷺洲町長)

併合條件の各般に涉りては未だ履行されざるも、財政の許す範圍に從て逐次履行されつゝあるものゝ如し。(元大阪府安立町長)

依羅村は強制編入されたるに依り契約なし、當初相當編入條件を定めたる町村と雖も之を實行せられたる向甚だ少なきやに聞く、

(元大阪府依羅村長)

大體實行されたり。就中町村吏員及給仕使丁に至る迄市へ引繼ぎたるが、數十年間の懸案なりし學制統一は萬難を排し實行されたり。(元大阪府歌島村長)

編入地に對する施設は舊市との間不統一なる箇所多く、經費の關係上漸次事業の遂行せられつゝあるも、當初の計畫に付ては尙遠なり、近時上下水道の設備及道路の改修に對しての事業著手せられつゝあるも充分ならず。(元大阪府喜連村長)

不詳(元愛知縣東山村長)

漸次履行されつゝあり。(元静岡縣三保村長)

市に併合の條件(後出三) 2 参照) 及其履行狀況左の如し。(元富山縣横田村長)

- (1) 市税の家屋税は市の最低等級率(十五等)に依り、十箇年間賦課さるべき協定なりしに、昭和五年度より本税たる縣税の家屋税は、從來の構造及地位等級率制度を改め家屋の賃貸價格に賦課することになりし爲め、自然之が附加税たる市税の家屋税は編入地の全般に涉り、前年度の家屋税よりも一倍半乃至五倍の増徴を見るに至り併合されたる市民は、一大脅威を感じ目下之が對策方法として市に對し、當初條件の趣旨を尊重し、昭和四年度に於て賦課を受けたる編入地市民の市税の家屋税總額を基準として、不均

一課率を以て賦課する様陳情し居るも、新市に於ては法令の改正を理由として容易に之を肯諾する模様なく、何分被併合村は條件を主張すべき主體消滅したるが爲め弱者の地位に立ち其の不利なること勿論なり。

(2) 履行されつゝあるも將來に於て何かの口實あれば廢棄せられむとするの傾きあり。

(3) 初年度に於ては履行されしも次年度より直ちに増課せり。

(4) 履行されたり。

(5) 從來被併合村に於て村費より負擔せし街燈を併合後市費負擔の條件を無視して半數以内に減燈したり。

(6) 直ちに改稱すべき口約(併合前村に於て部落名の改正を行はんとせしも市は他に改稱すべき部落町あるを以て併合直後に之を共に行ふ故、見合せ方要求を容れしもの)なりしに拘らず今に實現せず。

(7) 履行されたり。(8) 履行せり。

(9) ガソリン唧筒の購入は未だ實現せざるも百六十名の消防組員を六十四名に減員して新市に於ける組員と同等の待遇を與へたり。

(10) 未だ實現せしものなきも漸次履行せらるゝものと認む。

(11) 近く實現せらるゝなむらか。(12) 實現せり。(13) 實現せず。(14) 實現せず。

(15) 道路に關する各條件は一つとして實現せしものなし。(16) 實現の見込なし。(17) 實現の見込なし。(18) 實現されず。

(19) 實現されず。

併合條件並に當時の合意契約等は概ね履行せり。

但し主要條件たりし市役所出張所の設置は、希望としては一般事務の取扱ふ區役所様のものなりしも法律が之を許さずとて單に戸籍事務の取扱所たるに過ぎざるため不便を感ずること少からず。(元宮城縣長町長)

#### (四) 市税其他負擔の増減傾向並に之が増減の程度

家屋税を除く他の税額は大なる差違なきも家屋税は等級別及學制統一の結果昨年度迄は舊町時代に比し平均六割位に輕減せられたり。(元大阪府鷺洲町長)

以前よりも輕減されたるものとしては家屋税あるのみ。(元大阪府安立町長)

市税其他の負擔は税種に依り増減あるも綜合して現在に於て少額の増加を呈し、將來年と共に増加すべし。(元大阪府依羅村長)

幾分輕減したる感あり。就中其著しきものは家屋税附加税に於て約十分の一不動産取得税の約十分の二等の減額を見たるに在り。

(元大阪府歌島村長)

舊市に於ては道路及市電擴張に依る人家立退きに因る人口の減少せるに反して、新編入地は年々人口の増加を來たすに拘らず其の區の經費、諸事業費、豫算充分ならず、町村税及負擔に於ては輕減の程度特筆すべき事項なし。編入計畫の諸事業が舊市より外に向ふて着手せられつゝ有るは編入地域發展に大なる支障を招く。都市計畫事業遂行上及新市街地建設上外廓たる新市方面より充分なる豫定線の明示急務なり。(元大阪府喜連村長)

市税其他負擔量に於て格別變りなし。(元愛知縣東山村長)

幾分増加した、乍併獨立し居りても年々税金の増加は免れ難きものとす。(元靜岡縣三保村長)

併合前後の課率左の如し。(元富山縣横田村長)

#### 市税の種類

##### 一、地租附加税

併合前横田村課率  
(昭和二年度)

併合後高岡市の課率  
(昭和四年度)

(イ) 宅地租本税一圓に付

拾四錢

舊市 四拾五錢參厘六毛  
新市 貳拾八錢

(ロ) 其の他の土地本税一圓に付

參拾參錢

新舊市共六十六錢

(ハ) 特別地稅地價一圓に付

百分の三十七の百分四十、一錢  
四厘七二

百分の三十七の百分の八十  
新舊市共二錢九厘六毛

##### 一、營業收益稅附加稅

本税一圓に付

法人 六拾錢  
其他 五十錢

舊市 九十七錢  
新市 六十錢

##### 一、所得稅附加稅

本税一圓に付	第一種 七錢	舊市 十一錢三厘四毛
一、家屋税	第三種 四錢	新市 七錢
本税一圓に付	六圓〔村税總豫算額の百分の五十四〕	市税總豫算額の百分の六〇・〇七五圓八十二錢
一、縣稅營業稅附加稅		
本税一圓に付	五十錢	舊市 一圓 新市 五十錢
一、縣稅雜種稅附加稅		
本税一圓に付	仲居稅、遊興稅 三十錢 其の他 五十錢	舊市八十錢 新市三十錢 舊市一圓 新市五十錢

被併合市民は租稅其他の負擔に於て約三割の減額を見たり。(元宮城縣長町長)

### (五) 各種議員選舉其他市民の公共生活に於て新舊市民の關係に付何等か特記すべき事實認識せらるゝことなきや、あらば其具體的記述

各種團體及其他の方面共絕對に圓滿なり。(元大阪府鷺洲町長)

各種議員選舉並に市民公共生活に於て新舊市民關係に付何等特筆すべきことなし。(元大阪府安立町長、同歌島村長、元愛知縣東山村長、元靜岡縣三保村長)

新市選出の議員數は少數なるのみならず、中には自己の利害の爲舊市選出議員と連衡し新市の利害を等閑視して現在世相の惡方面を暴露する輩少なからず。(元大阪府依羅村長)

特記すべき事なし。(元大阪府歌島村長)

議員選舉其他市民の公共生活に於て新舊市民の關係に付特記すべき事なしと考へらる。(元愛知縣東山村長)

特記すべき事實なし。(元靜岡縣三保村長)

市に併合せしは昭和三年六月一日にして其翌年(昭和四年)十月十日市會議員の總改選行はれたり。其の議員數は三十名にして併合後と雖も其員數には増減なし、而して併合されし横田村と西條村は有權者數に比し選出すべき議員數は四名乃至五名の割合となるを以て兩村打て一丸となり、政黨政派を離れて五名を立候補せしめたるに悉く當選したり。然れども從來の村部に於ける選舉とは其の氣分大に其趣を異にし、何分市部の競争は非常に激甚を極め、其の弊害頗る大なるものあり。之が爲め非常に難戰苦闘の地に立ち漸く所期の目的を達せしめたるも、將來は到底今次の如き理想的選舉の好成績を擧ぐる見込み覺束なきことを痛感せり。(元富山縣横田村長)

市民の公共生活に於ては新舊市民に何等の疎隔を見ざれ共各種議員の選舉に際しては新市民、即ち被併合町民は舊町村毎に或は聯合して一團となるの觀あり。(元宮城縣長町長)

### (六) 市會、區會、町內會等の内部に於て新舊市民の間に於ける利害は苦情なく圓滿に調節解決せられつゝありや

學制統一の結果區會は消滅せしも御尋ねの廉に對しては何等の支障を覺えず。(元大阪府鷺洲町長)

市會、區會、町內會等の内部に於て新舊市民の間に於ける利害は別に苦情なく圓滿に解決されつゝあり。(元大阪府安立町長)

市會は與黨絕對多數なれば理事者の提案何事も通過せざる事なく、頗る圓滿に進行すと稱し得べきも、時には正義の主張も蹂躪せらるゝ憾なしとせず。(元大阪府依羅村長)

苦情の聲あるを聞かず。(元大阪府歌島村長)

市住民として舊町村民公共生活上は町總代を設け區役所及市當局との連絡機關と爲り、事務の諮問機關とも爲り、尙各種公共團體舊各町村の衛生組合、水利組合、在郷軍人分會、青年團、教育會等の幹部、評議員も其の任に當ること有り、町内一般の不滿なし。右は舊各町村小學校通學區域に於て設けらる所多し。(元大阪府喜連村長)

新舊市民間に於ける利害は苦情なきものゝ如し。(元愛知縣東山村長)  
解決せられつゝあり。(元靜岡縣三保村長)

只今迄は著しき苦情を聴かず。(元富山縣横田村長)  
市會其他の諸會には何等の隔意を認めず。(元宮城縣長町長)

## 二 併合後の市民生活の現状

### (一) 併合に因り最も利益を受けたる事項と最も不利益を感じたる事項は如何なる點なりや

學制統一實施は將來に於ける大利益にして不利益は世相の然らしむる點も否定出來ざるも、舊町村時代の如く愛憎心なきに至りしは精神的損失なり。(元大阪府鷺洲町長)

社會事業、土木事業、防疫事業の完備に依り市民は少からざる恩恵を受く。(元大阪府安立町長)

併合後利益を受けたるは物的則ち道路修繕の行届きたると水道の敷設とに在り、而も折角の水道も之を引用するもの甚だ少數にして不利益を蒙りたるは心的乃ち道義心及公共心の頹廢及納稅義務心の稀薄になりたる事なり。(元大阪府依羅村長)

未だ普及に至らざるも上下水道の布設小學校の増改築及道路橋梁の改修其他各種の衛生施設等著々進展しつゝあるを以て利益は受居るも不利益の感之れなし。(元大阪府歌島村長)

小學校の如きは村經濟にて困難なりしも市經營に依り利益なりと認めらる、最も不利益を感じたる事項は不詳。(元愛知縣東山村長)

著しき利害なし。(元靜岡縣三保村長)

利害を受けたりと認むるものなし。最も不利益を感じたるは小學校の施設にして從來は尋常小學校に高等小學校と農工補習學校と青年訓練所を併置されありしに、昭和五年度に至り突然高等小學校と農工補習學校を廢止せられ被併合市民は大に之を不便とし、之が不當を唱へて存続方市當局に陳情せしも財政緊縮を理由として之を容認する色なく遂に之を廢止斷行したり。今一つは街燈問題にして併合前に在りては村負擔を以て點燈せし街燈を併合直後に於て俄に滅燈したり、之が爲め被併合市民は市費負擔の條件を無視せし不徳を新市當局に責むるも財政難を理由として之を斥け容認されず、遂に被併合市民は止むなく各區部落民の負擔として在來の通り街燈數に復舊維持しつゝあり。(元富山縣横田村長)

併合後年未だ短きを以て利益として特に著く現れたるを認めざれば大仙臺市民としての各自氣分の緊張と都市計畫の促進等は其の大なるものなるべく不利益として認むるものなし。(元宮城縣長町長)

### (二) 舊町村民と市民との間は諸事圓滿に協和しつゝありと認むるや

然り。(元大阪府鷺洲町長、同安立町長、同歌島村長、元靜岡縣三保村長、元宮城縣長町長)

新舊兩市民間は總て沒交渉なり。(元大阪府依羅村長)

舊市民との利害は一利一害の内に有るも行政區域は主として新市即ち舊各町村合併の上區分し一區役所を設置せし故直接何等圓滿を缺くべき事なし。(元大阪府喜連村長)

協和しつゝあるものゝ如し。(元愛知縣東山村長)

表面に於て圓滿を缺きしことを聴かず。(元富山縣横田村長)

### (三) 併合が市民の公共生活に及ぼしたる影響並便否利害の程度

平均せば利便多し。(元大阪府鷺洲町長)

當時は市の南端に位するため未だ商工業の發展も著しからず、從つて影響する所なし。(元大阪府安立町長)

前掲二の(一)に同じ。

特筆すべきものなし。(元大阪府歌島村長)

併合に依り從來村役場に於て済たる諸願屆等に區役所迄懇々出頭を要する不便あるものゝ如し。(元愛知縣東山村長)  
總て便利利益なり。(元靜岡縣三保村長)

横田、西條、兩村の併合により負擔財源が擴大されたる爲め新市民は大に満足し居るものゝ如し。(元富山縣横田村長)

併合が市民の公共生活に及ぼしたる影響として特に認むるものなけれ共便利を感じつゝあるは事實なり。(元宮城縣長町長)

#### (四) 併合が市民の各種經濟的生活關係に及ぼしたる影響並利害の程度

取立てゝ述ぶる程の問題なし。(元鷺洲町長)

前掲二ノ(三)に同じ。(元大阪府安立町長)

農村淳良質樸の美風を失ひ都市華美驕奢の惡風浸潤し來り經濟生活上逐次疲弊に陥ちんとす。(元大阪府依羅村長)

新舊其共通的施設に伴ひ商工業は稍發展向上し從て經濟的生活上好響を齎しつゝあるものと認む。(元大阪府歌島村長)

影響並利害共に格別認めざるものと考へらる。(元愛知縣東山村長)

好都合にて利益なり。(元靜岡縣三保村長)

被併合市民の直接負擔は勿論間接的負擔も大に激増されたり、併し商工業者は取引上に於て併合を便とし満足し居れり。(元富山縣横田村長)

各種經濟的生活關係に對しては格別の影響を認めず。(元宮城縣長町長)

#### (五) 併合が各種公共組合、團體等の存立、財政、事業其他に及ぼしたる影響及利害の程度

舊町村時代に比し衛生組合のみは補助多くなりたるも他の諸團體は少額又は皆無のものもあり、經營困難の聲を聞く、但し編入記念として相當の基本金を分配寄贈し置きたる元町村のものは存立維持却て容易となり少しも困難し居らず。(元大阪府鷺洲町長)

各種團體は多年内容の充實を期して進展し來りしが市編入の爲め各部落に分解作用起り來りて現時は只形骸を存するのみ、殊に忌

はしきは全村協力して努め來りし神社の經營にも影響し來りて其進展を挫折するに至れり。(元大阪府依羅村長)

各種公共團體組合等は依然存立し、財政事業等も好影響の狀態と認む。(元大阪府歌島村長)

好都合にて利益なり。(元靜岡縣三保村長)

差したる影響を認めず。(元富山縣横田村長)

消防組が合併して部制度となりたる外各種公共組合又は團體等は從來の儘にして變更なきため何等影響なきものゝ如し。(元宮城縣長町長)

#### (六) 其他併合が一切の市民生活に及ぼしたる影響並利害便否の實相、程度

前掲二ノ(四)に同じ。(元大阪府鷺洲町長)

一々枚舉し難きも概して利便に導きつゝあるものと認む。(元大阪府歌島村長)

不詳。(元愛知縣東山村長)

別に變る事なし。(元靜岡縣三保村長)

併合日淺き爲め影響便否を認めず。(元富山縣横田村長)

特に影響の認むるものなし。(元宮城縣長町長)

### 三 併合當時の狀況

#### (一) 併合の動機原由

##### 1. 併合の原因は市町村の何れに在りしや

第一篇 都市郊外地統制參考資料

當時は主として商業地域にして國道第十六號線に沿ひたる帶狀の地帯にして舊大阪市とは連接せる地にして町民に於ても自動的の併合の機運に導かれたり。(元大阪府安立町長)

本村は、後、記、理由書の趣旨に依り全會一致大阪府に編入の件諮問に對し之を拒否することに決議した。(元大阪府依羅村長)

市部接近町村に於ける人口の激増し其の發展著しきものと雖も、大阪市との行政區を異にする關係上其の施設の完からざるもの尠なしとせず、就中衛生教育土木交通等の事業に至りては兩者の間相互に連絡ある施設に待つに非ざれば到底共存共榮の實を擧ぐることを得ずとの機運に際會せるものなりとす。本村の如き經濟上年々經費膨脹の割合に村治自體維持困難を來し村民の氣風亦大都市に接近せる故愛郷的精神に疲れ、小村として市部に接近する不可能なりとし、村理事者に於ては社會の現狀に依り編入に對しては何等隔意なかりしとも言ふ狀態に有りし。(元大阪府喜連村長)

要因は市に在りしものゝ如し。(元愛知縣東山村長)

清水港築港に關し沿岸町村一九となりて是が發展を計るを目的とし、江尻、清水の兩町が發起したるなり。(元靜岡縣三保村長)

## 2. 町村自身が自動的に併合の機運を作りたるか

自動的に併合の機運を作りたるにはあらずと考へらる。(元愛知縣東山村長)

江尻、清水兩町の勧誘ありて夫に賛成したるものなり。(元靜岡縣三保村長)

## 3. 市より併合勸説を受けたるか

相當以前より町村の一部には併合希望あり積極的の運動は起さざりしも土地の發展に伴ひ益々施設上の不便を感ずるに至り、追々希望町村の數を増しつゝありし處へ市にも併合の意志ある事を聞き時期の到來せるものと思料し中川知事の誠意ある仲介に動かされ急速に進展せり。(元大阪府鷺洲町長)

市より併合勸説を受けたるものゝ如し。(元愛知縣東山村長)

其の當時市存立し居りたるに非ず、隨つて勸説を受けたるにあらず。(元靜岡縣三保村長)

## 4. 府縣知事其他より併合勸説を受けたるか

廣瀬、吉川、佐竹三代議士の盡力に依り知事を動かし知事は積極的に双方に對し勸説せられたり。(元大阪府鷺洲町長)

併合は一般に於て多年の懸案なりし殊に都市計畫上其必要を濃厚になしつゝありし折柄大正十二年九月一日に於ける關東大震災火災の突發に依り數萬の生靈を奪はれたる東京市の慘狀に鑑み府市當局に於て大阪市の如き道路狹隘人家稠密なる土地柄に在りては安定を期し難きを痛切に感じ地域の廣裕なる接續町村編入急進を促し、其機運共に熟しあるを以て期せずして被編入町村側(反對せしもの一村ありしのみ)と一致するに至れり。(元大阪府歌島村長)

府縣知事其他より併合勸説は受けざるものゝ如し。(元愛知縣東山村長)

知事よりも相當の勧誘あり。(元靜岡縣三保村長)

併合の要因は高岡市多年の熱望にして市制施行當時(明治二十二年四月)は市を構成するの要素を缺き第一其の人に乏しき爲め周圍附近に於ける村部中人口稠密の部落を割て編入し本村も亦其の一部(約千戸)を強制編入されて漸く市制を施行されしものなり。然るに明治三十三年五月大火に罹りて市の大半を燒燼し其善後策を講ずるに當り先づ市の擴張を企圖し以て其の財源を得んとし、更に四圍の村部を編入せんとせしめ關係村は皆其の負擔の増大を恐れて悉く之に反對し爾來知事の更迭ある毎に市及縣より之を強要されしも強固に反對を持續せしに明治四十一年十一月に至り又々之が問題熾烈となり知事は村部の反對を顧慮せず、縣參事會の名を以て諮問を發せられしも關係村は悉く之に反對して遂に之を阻止せり。

其後時勢の進退と共に市村相互の發展するに伴ひ大正八年八月掛開發村及佐野村の一部又大正十四年十月下關村は市に併合せり。之皆市及縣の熱心なる併合勧誘に基きたるものなり。

大正十五年二月内務大臣より高岡市に都市計畫をなすに當り本村も其の内に包擁指定の諮問を受けたり。爰に於て深く之に稽へ本村の戸數は年と共に膨脹し其の發展急激の勢を以て進み、將來は完全なる都市計畫を樹立せざれば永遠の福利を阻害するものと認め満場一致を以て都市計畫區域編入に異議なき旨答申したり。之即ち市に併合の決意を爲したる最初なり。

昭和二年に至り高岡市長は再三來訪の上多年論議されたる問題を解決せむとし市の併合實現方懇請懇切なるものあり。本村は之

を機として全村有らゆる機關を通して民意を徴したるに全村民悉く之に賛したるを以て、昭和三年一月九日市に併合を具體化せしめたり。(元富山縣横田村長)

舊仙臺市と被併合町村とは行政上にこそ區劃はあれ經濟關係、實際關係等は殆ど一團たるの感あり。特に都市計畫區域内に入りたるため早晚併合すべき機運に際會したるの時縣知事よりの勸説を受けたり。(元宮城縣長町長)

## (二) 併合確定の経緯

### 1. 町村民は何を目標とし併合に賛意を表せしか

當時は大阪市に隣接せる小町にして町財として別に舉ぐべきものなし、獨立して町政を攝るよりも寧ろ大大阪市民として大舞臺に活躍すべきを希望し遂に併合に賛意を表するに至れるなり。(元大阪府安立町長)

大都市としての利便を得んが爲めなり。(元大阪府歌島村長)

清水港の發展に伴ひ道路開鑿教育上の施設衛生設備通信機關の完成地方財政の確立。(元靜岡縣三保村長)

前項の理由に依り市に於ては數十年來の問題を一舉に解決せむとする希望ありし爲め村の提出したる條件は恰しと之を容れたり。

村の市に併合せし目標は都市計畫の實施にして次は西高岡驛新設の實現にありき。監督官廳たる縣も多年の懸案を解決せむが爲め

市村双方の間に立ち併合の實現に努力したり。(元富山縣横田村長)

一部町民は仙臺市と云ふ肩書を要望せり。

一部町民は減税を豫想せり。

### 2. 町村民は當時何を不服とし併合に反對せしか

なし。(元大阪府安立町長)

一村のみ反對したり、其の理由は廣袤なる農村にして殊に住民は都會の風習に慣れざるが故時機尙早しと。(元大阪府歌島村長) なきものゝ如し。(元愛知縣東山村長)

江尻町一部は市名に就て反對せり。(元靜岡縣三保村長)

商工地たる仙臺市と準農村たる町村とは利害相一致せず。

市役所は北端に偏在するため不便なり。

併合後特殊扱いを受けるに非ざるか、蔬菜市場(長町には東北一と稱する蔬菜市場あり)を中央部に移轉せらるゝに非ざるか、日を追つて發展しつゝあるのに、永き歴史を棄てゝ他に併合せらるゝ要なし。(元宮城縣長町長)

### 3. 町村會の意嚮は何れに在りしや

町會議員は舉つて併合に賛意を表せり。(元大阪府安立町長)

等しく併合を希望し居れり。(元大阪府歌島村長)

各町村統一的條件としては各町村一致せるものゝ如し。(元大阪府喜連村長)

町村共併合の上市制施行を希望せり。(元靜岡縣三保村長)

町會の意嚮は大體併合に賛成、但し商工地選出議員の多くは急進農業地選出議員は漸進説を主張せり。(元宮城縣長町長)

### 4. 町村理事者の意嚮は何れに在りしや

町會議員は舉つて併合に賛意を表せり。(元大阪府安立町長)

等しく併合を希望し居れり。(元大阪府歌島村長)

町村理事者の意嚮は併合にありしものゝ如し。(元愛知縣東山村長)

町村共併合の上市制施行を希望せり。(元靜岡縣三保村長)

町村理事者の意嚮は併合にあり。(元宮城縣長町長)

### 5. 市民、市會、市理事者の意嚮は何れに在りしや

大阪市を袋の中に入れ周圍部に區々たる小行政区あり、爲めに上下水道の設備、交通網の整理、防疫等其他諸般の施設上より見て



彼我共に不利不便多き事を自覺し、之を併合して同一行政區とし大阪を建設するの利益を計り市民の福利を増進せしめんがための目的に外ならず、併合せし四十四箇町村の内只一村は反對せしも感情問題にして何等合理的理由なかりし爲め遂に承認せらるゝに至らずして終りたり。(元大阪府鷺洲町長)

町會議員は舉つて併合に賛意を表せり。(元大阪府安立町長)

等しく併合を希望し居れり。(元大阪府歌島村長)

不明。(元愛知縣東山村長)

町村共併合の上市制施行を希望せり。(元靜岡縣三保村長)

市民及市理事者の意嚮も亦併合にあり。(元宮城縣長町長)

#### 6. 監督官廳又は上級行政廳の意嚮並各種條件等裁量の要旨

其意嚮は同一にして條件の裁量に付ても合法的のものに對して相當盡力せられたり。(元大阪府鷺洲町長)

編入町村の各種條件並に希望事項は大體認容せり。(元大阪府歌島村長)

適當と認められたり。(元靜岡縣三保村長)

縣は大に併合の勸説に力め、屢々被合併町村長を招致し或は併合委員會を開きその實現の促進に努め被合併町村の希望條件等は殆ど全部を容認してこれが達成に助力せり。(市に於ては無條件)(元宮城縣長町長)

### (三) 併合條件其他の綱要

#### 1. 主なる併合條件は如何なる點に在りしや

一、新編入區域を以て五區を編制すること

二、市會議員の定数は九十二名とし内新市域に二十六名を配當すること。尙新市域各區の配當は大正十二年末の人口を標準とすること。

三、學制の統一は是非共此の際斷行すること萬一此の際直に實行不可能なりとし行政區を以て一學區と爲す場合には學制の統一實現に至る迄新市に屬する學校設備費は市の一般經濟より支辨すること、若し此の兩說容れられざるに於ては斷然一町村の區域を以て一學區を設くること。

四、町費を以て補助し來れる各種公益團體の維持の途を講ずること。即ち市は年々之に市費を以て補助を爲すこと。

五、町吏員及町の使用人(給仕、使丁、職工、人夫等)は本人の志望に依り市に引繼ぎ採用するは勿論從來町に於ける待遇をなすこと、從つて左記各項を斷行すること。

- (1) 市吏員退職料條例、遺族扶助料條例は之を改正して給與額の増加を爲すこと。
- (2) 市吏員退職並に死亡給與金は市制の定むる所に基き之を條例と爲し同時に給與額を増加すること。
- (3) 被編入町村に勤續又は在职年月數は市吏員の勤續又は在职年數に通算すること。
- (4) 定員規程を改め書記補、雇(臨時雇を除く)を有給吏員とすること。
- (5) 町に於て已に與へたる退職料及遺族扶助料は其金額に對し負擔の義務を市に於て繼承すること。
- (6) 家屋稅賦課に關する地位等級は最末等に編入するは勿論土地の實情に依り、更に等外の制を設け負擔の衡平を期すること。
- (7) 編入に關する告示後市會議員改選に至る迄の間に於て新市域に關係ある重要事件を市會に附議せんとするときは發案前關係町村長(町村長廢職後に於ても同一人)の意見を徴すること。
- (8) 執行未済の事業にして財源的確なるものは市に於て繼續執行し設計、計畫等變更の場合は關係町村長(町村長廢職後に於ても同一人)の意見を徴すること。(元大阪府鷺洲町長)

一、市電乗入のこと

二、社會事業並に土木事業の完備。(元大阪府安立町長)

一、市會議員配置は新區舊區とに論なく市制の原則に基き人口を標準とすること。

二、學制統一は是非此際斷行すること。

- 三、町村費を以て、補助し來れる各種公益團體補助を爲し維持の途を講ずること。
  - 四、編入町村吏員始め給仕使丁人夫等は市へ引繼ぎ採用し舊に下らざる待遇を爲すこと。
  - 五、編入町村に勤続したる年月は市吏員勤続年月數に通算すること。
  - 六、町村に於て既に與へある恩給並に退職料及遺族扶助料は繼續支給すること。
  - 七、家屋税賦課等級は最末等に編入尙土地の實狀に依り等外制を設け負擔の衡平を期すること。
  - 八、義務教育の施設を完備し二部教育の如きは絶対に之を避けられたし。
  - 九、現在の町村道は悉く市道に認定其修理を完全にし國府道の開鑿鋪裝工事等既に府に於て樹立せるものは絶対に續延をなさざる、と。
  - 十、新編入地域に對し市電の延長を速にすること及市營電燈電力を擴張供給すること。
  - 十一、上下水道及下水道施設の急を要するもの尠ならず速に實狀を調査し應急の處置を採ること。
  - 十二、町村吏員にして五箇年以上勤続者は重大なる過失なき限り退職料支給年限に達する迄減首せざること。(元大阪府歌島村長)
  - 一、行政區劃の數五區としては地域廣大なるも交通不便なる區には相當の出張所を設ける事。
  - 二、市會議員數は舊市に對し新編入區の人口増加に依る増員を認め逐年均等を保つべきこと。
  - 三、町村吏員は之を市に引繼ぎ其既得權は尊重すること。
  - 四、町村費を以て補助し來たる各種公益團體の維持の途を講ずること。
  - 五、編入地域は未だ相當の農業地たる故を以て市農會を設ける事。
- 其の他道路の擴張上下水道の完備市電の延長交通の整備學區の統一負擔の均等各町村各個に條件も有りしも考慮すとの合意條件と爲る。町村有財産及負債は全部市に引繼ぎ尙町村既定計畫事業及未完成事業は市に於て成し遂ぐべきこと等。(元大阪府喜連村長) 條件なし。(元静岡縣三保村長)

都市計畫幹線道路は縣に於て作製されたる計畫線路を實現せしむるに在り。(之は市長と別約す)又西高岡驛の新設は市と云ふ大な

る輪廓の力を以て努力すれば其の實現を早急ならしむる便ありと認めしに依る。(元富山縣横田村長)

- 一、電車の開通するまで市役所の出張所を元町村役場に置くこと。
- 二、電車、上水道、下水道の開通を促進すること。
- 三、併合によりて増員する市會議員(三十五名が四十名となる)は被併合町村區域に於て選舉すること。
- 四、當分小學校の授業料を増額せざること及農業補習學校を存置すること。
- 五、町村役場吏員を全部市吏員として採用すること。
- 六、長町にある青物市場は永く其の場所にあらしめ市は之が進展を助成すること。(元宮城縣長町長)

## 2. 從たる併合條件は如何なるものなりや

- 一、區役所廳舎の完備は速に之を斷行せらるべく其位置は鷺洲町に定められたし、此場合に於ては市の都合により設備費の幾部を當町より寄附するも可なり。
- 二、義務教育の施設を完備し二部教授制の如きは絶対に之を避けられたし。
- 三、現在の町村道は悉く市道に認定し、其修理の完全を期するは勿論國府縣道の開鑿、鋪裝工事等既に府が計畫を樹立せるものは絶対に續延を爲さざる様せられたし。
- 四、新編入區域に對し市電の開通を速かならしめるべきは勿論一時應急の措置として既設會社線に對し市電乗車券共通の途を講ぜられたし。尙阪神北大阪線は編入後速に市に買収せられたき事。
- 五、消防署の設備を速に完成せられたし。尙其間現在の消防施設を襲用府費を以て處辨せられたし。
- 六、上下水道施設の急を要するもの尠からず速に其實狀を査察し著手せられたし。
- 七、編入地域の用悪水路、樋管、橋梁、其他土木に關する一切の事項は市費を以て處置し其取扱に付ては舊慣を尊重すること。
- 八、市營電燈及電力事業の區域を新編入地域全般に擴張統一し市民平等の實を擧げられたし。
- 九、町村組合の經營に係る傳染病院は市に繼承市立桃山病院の分院として經營のこと。

十、農業地域廣汎なるものあり、編入と同時に市農會を設け且つ適當の地區に分會をも設置して農業政策を進めらるべし。  
 十一、町村吏員にして被編入町村に五年以上勤続者は重大なる過失なき限り退職料支給年限に達する迄本人の希望に依るの外退職せしめざること尙八年以上勤続の者に對しては本人の志望に従ひ休職の制に依り退職料支給の途を講ぜられたし。  
 十二、當町上水道設備と之に對する負債現在額と約十二萬五千圓の差あるを以て町は本金額を教育費に關する負債償還財源に充當するため大阪市より辨償せられたきこと。

十三、新設區の區名並に區域を決定する以前當町の意見を諮問し之を尊重すること。  
 十四、編入後鷺洲町に土木、産業、衛生、學事等事務取扱の爲め便宜適當に人員を配置し、委員及常務委員を置かれたし。  
 十五、當町營公設市場を現在の場合に存置し市營として繼承せられたきこと。  
 以上の外市財政の許す限り諸般の施設を遂行し速かに舊市と同等の程度に到達せしめられたし。

### 〔參考〕

編入條件の内三は學制統一の爲め全市一學區となり五の内(一)の改正なきものと(四)は町村時代の分は認め、編入後は認めざるの外全部實行したるもの又は實行しつつある現狀なり又從たる希望條件の内四、八、十二、十四、のみ不履行なるも他の各項は全部實行せり。(元大阪府鷺洲町長)

主たる希望條件に於て略盡しある故格別の要望なかりき。(元大阪府歌島村長)

一、家屋税の等級は昭和三年度以後十ヶ年間高岡市の最低等級率(現行十五等)を横田村全村に涉り適用し若し右期間内に於て等級に増減變更ある場合と雖も市の最低等級率に據ること、但し工場地は別に之を協定す。  
 二、國稅及府稅に附加する市稅の各課率は昭和三年度より向ふ十ヶ年間國稅に對しては法定の制限率を縣稅營業稅、同雜種稅(自動車、人力車、荷車、自動車、荷積、牛馬車の各稅を除く)に對しては本稅一圓に付各十錢を超過せざること。  
 三、市農會の會費は横田村の現行課率(地租割二十五錢)を超過せしめざること。  
 四、横田村有給吏員は市に合併前日迄の待遇に依り高岡市之を任用し、横田村に於ける勤続年月數(中斷あるものは通算のこと)を

通算して高岡市と同一の待遇を與ふること。

五、横田村支辨に屬する各區の街燈は其の儘市の負擔とすること。

六、町名の改稱は各區の意見を採用すること。

七、横田村塵芥の取集めは高岡市と同様に取扱ふこと、但し横田村汚物掃除夫は引續き高岡市に於て之を使用すること。

八、在郷軍人分會、青年團、婦女會は市と同一の待遇をなすこと。

九、消防組は横田村の第一部、第二部の組織を其の儘市に於て引受け第一部に「ガソリン」唧筒臺臺を購入設備すること、但し消防器具の置場は現在の個所を成る可く變更せざること尙消防組員の待遇に關しては市に於て相當の考慮を拂ふこと。

一〇、合併區域内に於ける排水下水は速かに普及完備を期すること。

一一、内免用水の排水設備を完全に施設すること。

一二、地子橋、木津橋の架替を促進すること。

一三、市は西高岡驛新設に關し最善の努力を以て速成を期すること、但し敷地面積二千坪を超過する場合は其の超過面積は市に於て買収提供すること。

一四、西高岡驛新設せられたる場合は同驛より國道線(東喜人前)に至るものと及同驛より國道線を横斷(宮脇宗一後)し西條村北島早川間に達する道路(幅二間)を設けること。

一五、道路に關するもの。

イ、百姓町津田市三郎横より同町六丁目能登駒次郎前縣道に達する間を幅二間に擴張すること。

ロ、横田今町樋口龜次郎の納屋及紺谷駒吉を取扱かしめ、横田村公會堂南側道路に達する幅二間道路を新設すること。

ハ、市道横田町宮の腰より「プリント」工場西側を経て地子橋に至る幅二間道路を設けること。

ニ、金屋町今井榮太郎、藤田次三郎の二戸を立退かしめ新に幅九尺道路を新設すること。

ホ、南町より高岡、戸出間縣道に達する排水線西側に沿ふ道路を二間幅に擴張すること。

- へ、旅籠町大島角より伏脇ラムネ製造所前を経て千保川に達する道路を幅二間に擴張すること。
  - ト、千保丸二友禪工場前より千保川を横切りて（元一間）幅三間道路とし内免神社の後に至る道路を擴張し橋を設けること。
  - 千、地子町裏運動場より千保川を横斷し西四屋に至る間（元一間）を幅三間に擴張して橋を設けること。
  - リ、南町より國道線羽廣宮田外次郎前に達する道路に新設すること。
  - ヌ、榮町打綿會社前より堺五郎平前に達する郡市界道路を幅二間に擴張すること。
  - 一六、市の塵芥焼却場は他に移轉すること。
  - 一七、市の火葬場は他に移轉方考慮すること。
  - 一八、横田兩村に屬する納税は有限横田信用購買販賣利用組合をして取扱はしむること。
  - 一九、農會技術員一名を横田産業組合に駐在せしむる様考慮すること。（元富山縣横田村長）
- 被併合町村の基本財産は任意に之を處分し現金として市に引續ぐものには條件を附すること。（長町の主なるものは小學校講堂の建設、堰堤の建造）にあり。（元宮城縣長町長）
- 3. 其他の合意、契約等に付ては重點なし。（元大阪府安立町長）
- 町村の負債に對する義務繼承が重點なりし。（元大阪府歌島村長）

## 四 併合前の町村政大要

概して財政豊富にして一通りの施設をなすに何等の苦痛あらざりしも上下水道、交通機關の達成に付ては彼我各財政を異にするため事毎に連絡を缺き困難を重ねつゝありしは事實なり。（元大阪府鷺洲町長）

編入町村の中大阪市を圍繞せるものは總て町制のものにして市と密接に交通なしつゝあるが故に自然の發達を爲し従つて財政も稍豊富なるを以て諸般の施設は略ぼ整ひありしも、其外部を覆蔽する村落に至ては不純なる農村にして概ね財政窮乏の状態なりし故に學校、衛生、社會、道路、橋梁、上下水道等の施設殆んど之れなく、甚だ困憊の状態にあり且つ村政を行ふ上にも情實纏綿種々繁害ありて人智の向上土地の發展の極めて遅々たりし。（元大阪府歌島村長）

村長、助役、收入役各一名、書記五名にて町村制に依り總てを處理せり。特に記載すべき事なし。（元愛知縣東山村長）

平野郷町に隣れる純農村にして生産物は主として平野郷町に送り、日用品は亦此の地より供給せられ居り此の地とは昔日より總ての關係最も密接にして大阪市との關係は稍間接的なりしも最近平野郷町南端に南海電車の終點現出し領域内に無線電信局の設置せらるゝに當り商工大都市の中心たる大阪市との關係日々濃厚となり編入の機運を助成せり。

戸數、四百二十。人口、二千餘。年度豫算、壹萬五千圓餘。

昔日より大なる發展なく純農村として存立せり。（元大阪府喜連村長）

併合確定の經緯の一と同斷なり。（元靜岡縣三保村長）

併合前の横田村は明治二十二年四月其の一部を高岡市に強制編入せし殘餘の純農村戸數貳百五拾餘戸（五部落）を區域として編制し一方西條村（三百戸五部落）と聯合して組合役場を組織し協力同心自治に關する諸般の事業を經營し自治實力の涵養に全力を傾注せり同二十九年五月に至り西條村との組合を解き小學校は従前の如く組合の經營となし各役場を獨立せしめたり。

然るに明治二十九年七月に至り未曾有の大水災に遭遇し北陸七大川中の一なる庄川堤防破壊し全川の水流横溢して千保川に落込み延長貳里餘に涉りて田圃一面川床となり其の沿岸町村は全部損害を蒙り殊に本村は其の流末に位せるが爲め全村浸水し建物の流失せしもの百參拾餘棟耕地の流荒六十餘町歩に達し其他の損害を合算せば實に參拾四萬六千四百餘圓に及び全村殆んど破滅の悲運に陥る爰に於て村長は奮然颯起以て之が災害復舊に精勵努力し、同三十一年に至り漸く堤防道路橋梁等の復舊改築修理を完成し、爾來罹災せし荒廢地は忽ち開拓せられて肥沃豐産の耕地と化し千保川の沿岸は商工業者競つて家屋を連築し、附近の殷賑を見るに至れり、其の後遂年人口の激増に伴ひ五部落を十區に改正増加し、明治三十四年三月縣下に卒先して耕地整理を發起し、大正八年に至り全村悉

く整理を完成せり。

明治四十一年四月全村區域の産業組合を組織せしめ昭和二年に於て西條村の二産業組合を併合し亦之に三棟貳百坪の農業倉庫を建設して乾燥機精米機肥料粉碎機打機等を設備して組合員の利用に便ならしむ大正七年十一月理想的なる傳染病隔離病舎を建設し、同十一年十二月消防組を組織して完全なる機械を設備せり。大正十五年十一月四萬圓を投じて公會堂を建設し、昭和二年九月之を完成せり階下は役場を始め産業組合其他有らゆる公益團體の事務所を收容し、階上は村民の公會に之を使用せしめ自治機關の陣容を新にせり、亦昭和二年度に於て村内各區に涉り各幹線道路數十本の新設改修をなして交通の便を拓きたり。

本村は明治四十四年十一月三日内務大臣より優良村として金八百圓を賞賜表彰せられたり。(元富山縣横田村長)

昭和二年度長町の決算左の如し

歳入	一金拾五萬壹千參百九拾七圓六拾七錢	經常部精算高
歳出	一金七萬六千貳百拾圓九拾六錢	臨時部精算高
計	一金貳萬四千九百六拾九圓五拾七錢	
	一金拾萬壹千八百八拾圓五拾參錢	
	差引殘金五萬貳百拾七圓拾四錢	市へ引繼

附。長町原町は人口、戸數、經濟其他に於て近似するもの多く從て合併條件も殆ど共通なりしが南小泉は無條件合併を爲せり

(元宮城縣長町長)

## 五 其他併合措置に關し今後に於て注意を要すべき事項

元町村吏員たりし現市區役所吏員及小學校職員等は大世界中的一員となりたる爲め從前の如く待遇其他精神的に恵まれず、皆異口同音に昔を忍び居る狀態なり。之れ等は市は市長以下皆有給吏員なる關係上人情として勢ひ自己本位となり。昔名譽職町村長助役に仕へ眞に親子或は親分子分的の如き溫情に接する能はざるに至りし結果にして此點誠に同情に堪へざるも凡そ官公吏にして自己を捨て部下を救ふが如き者の少なくなりし世相に照し萬止むを得ざるものとして目をつぶり耳をおうの外なし。然りと雖も心に不満と淋しさを感じるの餘り吏員等の市民に對する應接振りに溫情を缺き事務能率も從て低下の傾向あるは憂ふべき事柄なり。

尙併合條件等も普通貸借關係の如く權利の設定をなし置く譯にも參らず、中に不履行の條件ありとするも財政狀態許さざればそれ迄にて要は相當期間の時日を待つの外なしと愚料す。(元大阪府鷺洲町長)

町村併合は既に市に同化し若くは近き將來に於て同化し得べき見込ある町村に限る可きものにして理事者が一部の虛榮心若くは郡域等に拘泥し、産業、生活、思想、感情等全然背馳せる農村を併合するは自他の不利なるのみならず國家的高所よりするも慎重考慮す可き案件なるを信ず。(元大阪府依羅村長)

今後に於ける注意事項としては編入後十箇年を期し舊市に大差なき程度に到達せしめられたしとの希望條件に對し注意を要す。(元大阪府歌島村長)

市會及市理事者監督官廳上級行政廳の編入の意志意向の當初の計畫に反せざる様留意せられ以て新舊の隔て無き市政を施し大都市の建設に向つて邁進すべきを願ふのみ。(元大阪府喜連村長)

不明。(元愛知縣東山村長)

自己町村民に併合の利害を徹底せしむること肝要なり故に其方法としては相當數の研究員を選擧し利害得失を調査して其結果を周知せしめ併合後に至り遺憾なきを期せしめたし。(元靜岡縣三保村長)

各種條件の主要事項にして較もすれば市が事毎に之を回避する傾きなきにあらざるやを疑はしむ。(元富山縣横田村長)

大阪府東成郡依羅村の併合反對「理由」

一 本村は行政地區上東成郡に屬すと雖地は郡の東南隅に偏在し、南は大和川に枕し北は同郡長居村西は同郡墨江村に接するも各最近部落間の距離は孰れも十町餘を、郡中稍都市化したる住吉村へは一里餘を存するに反し、中河内郡矢田村とは殆んど軒端相連なり、産業上の利害は自郡各町村とは何等の交渉なく却て隣郡と共通の狀にあるは、畢竟地理の然らしむる所にして本村の都市化せざる一適證なり、而も本村は開化帝の皇孫依羅氏を祖宗として、一千七百年來一系の傳統を奉じ惇朴摯實未だ曾て論らざる純農村なり。

顧ふに依羅氏の舊邑は徳川世継中大和川の改修に由り邑域を三分せられ、東の一角は今の中河内郡天美村に歸し南は泉北郡五箇莊村に遷り殘存して舊邑を保てるもの即ち我依羅村なり、降て明治二十二年町村制を施行せらるゝや當時の理事者は地區の分合を企て現在六郷の外堀、前堀、寺岡、の三郷を本村に併合し九郷を一村としたるも、全然立村の信念を異にし風俗民情にも多少の扞格ありし因り、超へて同二十六年上記三郷は再び分離して一村を成せるもの隣村長居村是なり。蓋し分合を濫りにして其弊を嘗めたるもの獨り本村のみならず、中河内郡三木本村は大正五年中河内郡太田村を併合し村名を大正村と改めしも、村内統一を缺き治績の擧らざることを人の周知する所の如し、更に例を市町村の大併合に見んか、大正十年八月實施せられたる名古屋市の無謀なる大膨脹は、嘗に農村の自治を破壊したるのみならず大名古屋市の市政は常に新舊二派の爲めに混亂し、甚しきは市會議場に血を見るの慘を演出するに至れり、苟合流離理事者一朝の功を急ぎ民庶永く其餘毒を嘗む、是れ洵に寒心すべき一事例たるを信ぜんとす。

殷鑑既に斯の如し、然るを今妄りに本村の如き純農村を大阪市内に編入するは、徒らに其包容の大を誇る外何等一都市を形成する共通的素質を有せざるのみか、同一自治體としての生活上、風俗、産業、教育、衛生等皆其軌を異にせるを以て之れが併合は、恰も一黑人に粉黛を施さしめ白人の群中に舞踏を強ひんとするに等しかるべく黑人の迷惑想像に値ひせずや、遮莫粉黛を好愛する黑人の去就は其自由なりと雖、本村は由來無要の粉黛を欲せざる純潔なる黑人なり。我等御民は永く光榮ある黑人たらんことを切望す。

職て案するに、本村は面積僅かに一方哩二分弱にして世帯數六百五十餘、人口三千一百餘に過ぎざるも、多年舉村一致諸般の施設一として向上せざるなく、從來地方長官、稅務官等より他の模範なりとして推賞せられたること數次にして、善行表彰若は農事受賞者等の多きは本村の誇りと云ふを妨げず、蓋し村民相競ふて摯實を旨とし自強を専らとせるに因る、今聊か村治の概況を敘し地理民情共に猝かに都市化し得べき素質を有せざる所以を明かにせんとす。

(一) 本村自治の機關たる村長、助役、村會議員、各種委員、等は皆十年以上二十年の勤續者にして、其選舉は衆望に依り曾て競争の行はれたることなく、報酬は村長、助役は年額五圓、議員、委員は同七圓にして、其給與金は孰れも全部村費以外の村用交際費に充當し、専ら村費負擔の輕減に努めつゝあり、所詮は名譽機關たる實を明かにし共存共榮の意義を徹底的に躬行せんとせるのみ、是れ桃源の名ある所以にして村治の全般先づ此一事に發足す。

(二) 本村税は明治四十三年以降、物價は比年昂騰せるに拘らず法令又は訓示に因る教職員、吏員の給與増額の外略同一低率を以て處辨し、村民の實負擔は郡内稀に見る低位にあり。

(三) 同年學校敷地擴張以來毎年村治上諸多の新建設をなせるも、其財源は逐年の剩餘金を積立て所要を充し得るに及びて始めて著手し、以て起債に依るを避けたり、故に本村は曾て村債を有したることなく年々村有財産を増加しつゝあり。

(四) 本村は經の所謂「無象太平還有象」を村是とし、一利を興さんよりは一害を除くに努め、専ら風紀の改善と産業の發達とを企圖し來りしが其成果の聊か録すべきは、曩年來騷動當時本村は急に應ずべき何等の施設をもなさずして、村内一人の不平の徒を出すことなく終始靜肅を保ち得たり、事後當局の示達に従ひ村吏員及學校職員に臨時手當俸給額十分の五を支給せんとしたるに全員之を辭退して受けず、遂に互讓の結果漸く十分の三を給與するを得たるが如きは以て村風の一斑を例證するに足る。

(五) 本村今日迄の納稅狀態は極て佳良にして府稅營業者は時に納期に後るゝこと絶無にあらざるも、國稅は常に完納せられ府村税も曾て滞納處分者を出したることなし。

(六) 本村兒童の就學歩合は百に達し、一校十學級に對し本科正教員七、尋常科正教員四にして、二部教授を廢したることは既に廿餘年前なり、其外村内に私立一中學、一實科女學校を有し、各郷青年分團會場には教員住宅を附置し夜間青年教育に努めつゝあるは舉村

教育に潜心せる一片影に外ならず。

(七) 我大阪府下に於て開墾助成法に據り開田事業を施行せるものは中河内郡玉川外一村、豊能郡根根莊村、三島郡大冠村の外我依羅村あるのみ、斯て本事業の爲め耕地整理組合法を併用して大正十一、十二年度間に於て金八萬餘圓を投じ、既に完成せる開田五町八反歩餘に及び、本年度も金三萬餘圓を以て其事業を續行し、地方改善事業に於ても亦本年度豫算金五萬八千餘圓を算し既に功程の大半を了せり。

(八) 本村信用購買組合は累年其成績頗る佳良にして、大正八年之を創始してより年六分の配當をなしつゝ、前年度未積立金累計は出資額の八割に相當し、本年度の業績は更に良好の度を加へつゝあり、斯の如きは他に多く類例を見ざる所にして立法の素懷を満足せしむるものと云ふも過言にあらざるべし、其他貯蓄組合(摺貯金又は郵便貯金)、簡易保險組合、學童貯金、等皆他に比類多からざる程度に發達せり。

(九) 他面に於ては本村内公共團體の進歩著しく、孰れも大祖大依羅大神を中心として祖先祭祀の氣高く、凝て尊皇報國の至誠と成り、自彊會、青年團、教育會、軍人會、小學校、神社、佛教團等皆相當の基本財産を有し奉公の微芹唯後れざらんことを虞るゝのみ。

(十) 更に本村農事の進歩は今夏大旱害の時に際し、四周枯稻の差差たるに反し本村のみ其害の極めて僅少なりしは、大正八年中既往十數年來大和川沿岸に裝置したる揚水機に巨費を投じて電力利用を開始したると、井戸用モーター二十九臺、石油發動機三十九臺、揚水唧筒十一個等を備付たること其一因なると共に、舉村晝夜の努力洵に驚嘆すべきものありしに由る、其他共同浴場の設備、青年團の總動員等、社會的共同福利の爲めに盡瘁せる所舉て枚ふべからず、是れ本村の特長と云ふを憚らず。

之を要するに本村は開化帝以來一系の傳統を承け、一千七百年の間大依羅神社を中心として舉村團結し、専ら國法を奉じて唯農を勵み、都門の外二里餘にして惇朴の村風自ら別天地を成せるを、今猝かに行政地區上東成郡に屬せりとを以て、全く立脚を異にせる大阪市内に編入せられんことは、本村の苦痛之より大なるなし。

二 私かに思ふに凡そ市民として都市を形成せんとするものは少くも其産業に於て將た日常生活に於て既に都市化し若くは近き將來に都市化

し得べきものならざるべからず、然るに本村の如き毫も市民たる素質を有せざるもの否都市的浮華を嫌忌するものにして、假に名のみ大阪市民たらんか自他共に生活上寸毫も裨益する所なくして謂れなき盛名に囚はれ各種教育上の施設は勿論産業、衛生、其他各般の福利は、更に増進することなくして先づ現狀の美風を破壊せらるべきは火を見るより炳らかなり、而も大阪府が若し過て本村を編入せんか、勉て學區、農會、避病舎、水道、交通、就中戸籍、納稅等、日常最も頻繁にして手續上住民の便否に至大の關係を有する各施設に於て、市は餘りに過重なる負擔を甘受するの覺悟を要すべきなり、然るを大阪府が其覺悟を有せずして漫然大阪の建設を企劃するものとせば、徒らに新舊市民の負擔を増加するのみにして紛糾一日も絶ゆるの時なかるべく、超時代的な爲政者の大發心の民を賊したること古今其例に乏しからず、蓋し町村を都市に編入せんことは其生活産業、社會組織等の稍都市化したる地區を併合し、依て共同福利の増進を目的とする場合に於てのみ之を行ふべく、然らずして何等の同化なく將來に於ても亦容易に同化し得ざることを著明なる町村を編入し、以て相互の禍根を貽すは斷じて本村の與みする能はざる所なり、或云「其村を市に編入したる上は市は都市化すべき相當施設をなし近き將來に面目を一新せしむべし」と、其抱負の大や敬服すべきも斯の如きは曩に本村の同意を表したる都市計畫の完成したる後尙且幾歲月を経たる曉に待たざるべからず、謂ふ所の都市計畫すら未だ見るべきものなくして今又卒然四周町村の一大包擁を企つるは、王治の大本たる「先づ同化して後ち包容す」との大義に悖り、唯地圖上の輪廓を大にするのみにして到底自治の發達に忠なるものとは信する能はず、所謂不遜に失し恐懼に勝へずと雖、要は上級桃源の一村を提げ自治上の二重人格者たるべき大阪府に嫁し、徒らに其紛糾渦中に投ずるは理義共に容さざる所たるを確信す、若し夫れ東西兩成郡全部の町村が編入を可とし本村のみ殘存すべくんば、本村は中河内郡に編入せられんことを庶幾ふ。

三 人或は東西兩成郡全部を大阪府に編入することに依て行政地區の編成上最も簡易至便なりとなすものあらんも、國家の最小單位たる一町村は法制上獨立せる一公法人なるを以て、公益上絕對に避け難き特種の場合を除くの外、苟くも其意に反して其存立を奪はるべきものにあらず、若し然らずして政黨勢力の消長若は區々行政上の都合に依り、其生殺を濫りにするが如き變態にして隨所に行はるべくんば、帝國の町村自治は其根脚を失ひ何人も自治の爲めに獻身するものなきに至るべし、本村は固より言ふに足らざる一小自治體に過ぎざるも、一思茲に到れば帝國自治の發達上深く憂懼を禁する能はざるなり。

以上の理由に依り本案諮問に對し拒否の決議をなす、若し不幸にして強制處分を受けることあらば本村は自治の爲め別に相當の手段を講ずるの外なきを悲しむ。

第二篇 街路交通統制參考資料



# 凡例

一本篇は左記のものを取纏めたるものである。

(イ) 第二議題に關する諸報告者の報告中、特に重要にして諸都市間の比較をなすを適當と認めたる部分の要點(此の分にはのみ一々報告者名を附記した)。

(ロ) 本議題の研究上特に必要と認めて本會より各地方廳及び市役所に宛て照會調査して得たる資料の要點(此の分には煩雜するを避けて回答者名を附記せぬことにしたが、交通事故其の他警察關係の事項は各地方廳、又交通事情及び街路統計等に關しては各市役所よりの回答によるものである)。

二 本參考資料に於ける地名排列の順は、主要項目毎に東北部より西南部に至る如くするを原則とした。

## 第一 街路交通事情

### (イ) 室蘭市

室蘭停車場より北方約四〇〇間の位置に共同荷揚場、公設市場、私設魚貝市場、野菜市場等ありて朝六時より九時迄は相當繁劇を極め、其の他は特記すべきものが無い。

昭和三年十月二十五日自午前六時至午後十時國道室蘭驛前(道路幅員八間、方向南北)に於ける交通調査の結果は左の如くであつた。

方 向	歩 行 者			自 動 車			荷 車 等			自 轉 車 等		
	一 日	道路幅員一間當	最一時大間	一 日	一 間	最一時大間	一 日	一 間	最一時大間	一 日	一 間	最一時大間
南	五、三三	六四・〇	四二									
北	五、五〇	六六・二	五八									
計	一〇、八三	一三〇・二	九九	二二	二七・九	二二	一〇、一〇	一七・三	一八	二、五三	二四・二	二四

### (ロ) 盛岡市

昭和五年三月二十日自午前六時至午後六時調査街路交通量

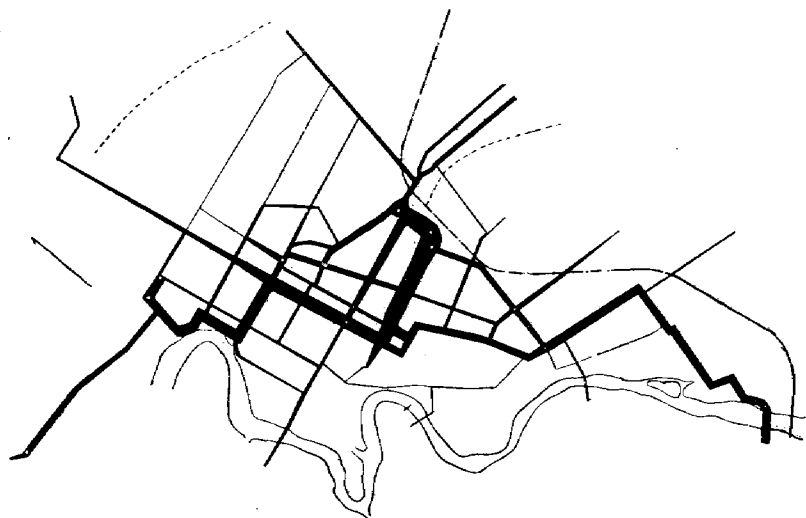
路線名(番號)	幅員(間)	歩行者	自動車	荷車等	自轉車	牛馬
國道四號線(一八)	四・一	五、二八一	二六九	四二三	三、五一五	三七
縣道盛岡(二二)	一〇・二	五、二九九	三一三	八一三	一、七六六	三
停車場線(二二)	四・四	二、六二六	一六四	四九二	一、九五〇	一二四
國道四號線(二二)						

(ハ) 仙 臺 市

大正十四年九月十五日(午前一時より午前五時迄を除く)調査にかゝる歩行者及び自動車の交通量は圖示する如くである。市西北部八幡町方面に於て歩行者交通量の大きなは當日縣社大崎八幡社の例祭によるもので同時に荷車荷馬車等の交通量は減少の状況を示した。尙、同日午後六時十二分より同六時五十五分までの間に於て相當強き降雨あり依て其の後に於ける交通の狀態は一般交通平常より稍少きものゝ如くである。

(ニ) 郡 山 市

左の表は昭和四年七月二十三日(天候晴)午前五時より午後七時に至る間行はれたる同市四〇箇所における交通調査の結果に基き道路幅



仙 臺 市 の 交 通 狀 態  
(上は歩行者・下は自動車)

員最大の箇所二點（原調査表第一一及び第一三號）、歩行者總數の最多なる地點（同第六號）、及び道路幅員一間當歩行者數最多なる地點（同  
一二號）の交通量を示すものである（郡山市長和田潤提出の資料による）。

原調査 番號表	路 線 名	調 査 所	道 路 幅 員 (間)	向 方	歩 行 者			荷 車 等		
					一 日 總 數	一 路 間 當 最 大 時 間	自 動 車 總 數 一 路 間 當 幅	總 數 一 路 間 當 幅	自 轉 車 總 數 一 路 間 當 幅	自 轉 車 等 總 數 一 路 間 當 幅
六	縣道 郡山 車揚 線	九字 地四 先大 番町	五	計西東	二、四九一 二、三五七 四八四八	四九六・〇〇 四七・〇〇 九六・〇〇	一三三 六四九 七六一	一九四〇	二九六〇	五九〇・四〇
一一	市道 スノ 線	字燧 番一 地九 先四 田	九	計北南	一、七二六 一、六八四 三、四〇〇	一九〇・六 一八・一一 三七・七	三七五 一九六 五七一	三二八	五八七	二、三六〇
一二	市道 スノ 線	同燧 番一 地三 先六	一	計北南	五、五五三 一、二八〇 一、二八〇	五五三・〇〇 七二七・〇〇 一、二八〇	一〇八 一八三 一八三	三六	三、〇〇〇	二、八二二
一三	市道 スノ 線	字中 地四 先二 番	九	計西東	一、五一一 一、四三四 二、九四五	一六七・八 一五九・三 三三・三	一〇四 四六 五一〇	二六四	二九・三	二、一八九

備考 荷車等とは半馬車手曳車を云ひ、自轉車等とは自轉車、自動自轉車、サイドカー、附同、俥等を含む。

歩行者交通量の時間的變動を示さば左の如くである（調査地點として前表に掲げたる外に東西又は南北の兩方向の交通量の差異少き二地  
點第七號及び第二四號の分をも併記）。

原調査	表番	調査箇所	方	東	西	計	南	北	計	南	北	計	東	西	計	東	西	計
六	停車場 (縣道)	大町九四	東	三三三	二二二	五五五	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三
七	七ノ四號線 (市道)	柳田一九三	東	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三
一一	スノ二號線 (市道)	燧田一九四	東	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三
一二	ワノ一號線 (市道)	燧田一三六	東	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三
一三	スノ二號線 (市道)	中町四二	東	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三
二四	多田野桑野線 (縣道)	北臺新田二	東	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三	二二二	一三三	三三三

(水) 水戸市

一 水戸市は城下町として漸次地形に應じて發達したるもので、他都市に比し商工業今日に至る迄餘り隆盛ならず、商業地及び住宅地は自

然に區別せられ、工場は點在して居る。

二 春季觀梅日には各處より觀梅客來り市内幹線道路は終日交通量多く、又毎年九月二十四日の有賀神社の渡御の日及び舊六月二十三日夜尊の緣日の如きは夜間の參拜者附近の村落より蟬集し市内雜沓甚だしく一時車馬の通行不可能となる。

三 商業隆盛ならざるため夜間の一般交通は少い。(以上水戸市役所報告による)

水戸市内六路線に於ける昭和三年十一月二十五、二十六、二十七日三日間の平均交通量(水戸市長鈴木文次郎報告)

歩行者	電車	自働車	荷車	自轉車	上六號線 市柵町線	水戸會津線 上戸西町線	水戸磯濱線 下市清水町線	水戸烏山線 上戸谷中線	水戸大宮線 常磐松本線	水戸宇都宮線 上戸久保町線
八、四六六	二二九	五五五	九一八	五、七三三	九五五	一、九八一	三、四六七	一、六一〇	一、五九八	一、三五六

(へ) 足利市

昭和三年十月二十二日午前六時より午後六時に至る足利都市計畫道路交通量調査の結果により、兩毛線鐵道には沿ふ街路上の地點數個所につき交通量を示さば左の如くである。

踏切遮断交通量左の如くである。

調 査 場 所	回 數	時 間	汽 車		人	自 轉 車	手 車	牛 馬 車	自 動 車		人 力 車	牛 馬	人 交 量
			方 向	通 過					入 替	方 向			
前橋街道信越線踏切	三五	六 南北	三五	一	三	五六	四						九七三
中 居 踏 切	一五七	六 同	六五	一三	同	三八	四		二	三			六六三
下 和 田 踏 切	三三	三 同	三三	同	一	四	四		四				五六六

P

右の内永樂町に於ける交通量の隔絶して大なるは該箇所交通系統の集合する地點なるを以てなるべく、淺草廣小路の意想外に交通量少なりしは當所の環境が市内唯一の民衆娛樂地なるため夜間及び一般的休日には交通繁劇なるに反し平日晝間に於て左程多からざるを示すものである。江東龜澤町の甚だしく妙ななりしは該地方が概ね工業地域として發展の過去を有し商業地域乃至住居地域としての結構味乏しきためであらう。當箇所には於ける自動車交通量中貨物自動車の割合特に大なるは右の事情を明にするものなりと思はれる。次に十二調査箇所の自動車の類別交通量につきて見るに總數交通量に對して

乗用自動車六二・三二% (盈車三二・六九%、空車二九・六三%)

内譯 (普通車一七・六%、營業車八二・四%)

乗合自動車一二・七八%

貨物自動車二四・三二% (盈車一五・二四%、空車九・〇八%)

特殊自動車〇・五八%

を占め、廣義の乗用車數は總數の七五・一〇%即ち四分の三の夥多に上る。又市内樞要街路を縱横に疾馳する圓タクの「流し」は實に自動車總交通量の約四分の一を占むることを知る。

次に自動車の交通量を各時間別に觀察するに、午前六時より午後五時迄の十二時間に於て十二調査箇所の平均は午後四時乃至五時迄の間に最も多く同五時乃至六時及び三時乃至四時之に次ぎ、以下午後二—三時、一—二時、午前二—三時、一—二時、午後〇—一時、午前九—一〇時、八—九時、七—八時の順にして午前六時乃至七時に於て最も少い。

## 二 街路交通の形態を支配する各種の條件

(イ) 地域的關係の存否

昭和三年六月十三日東京市電全線交通乘客調査によれば一日の總乘客數百十八萬人にして全線につきて見るに七時より八時迄が最高九萬七千人 (全體の八・五七%) 九時以後は略五萬人前後 (五%) 午後四時より七時迄に再び増加して約九萬人毎時全體の七八%を算し

其れより徐々に低減して終電に及ぶ。

併し是を各路線別に比較する時は其間に地域的特性を觀察する事が出来る。即ち例へば三田出張所屬の三線に於て殆んど朝の混雑時なく三線の合計七時より八時まで約四千人 (四・六五%)、八時より九時迄四千六百人 (五・三七%) となるに過ぎぬ。午後四時迄急激なる變化なく四時より五時迄のラッシュアワーに於て八千九百人 (一〇・三%) の最高を示し五時—六時に八千四百人 (九・八%)、以下漸減する。

之れに反し、新宿出張所屬の三線に於ては朝のラッシュアワー特に強く、三線の合計七時より八時迄の約一萬三千人 (九・一五%)、八時より九時迄の一萬三千六百人 (九・七二%) を最高とし、其れより七千人前後を持続して午後に及び、特に強く夕のラッシュアワーを現出する事なく毎時九千人前後を輸送して七時に及び其れより急減して終電に至る。蓋し三田所屬線は主として小賣商店多き商業地域を通過する爲め午前の通勤交通割合に少なく地方的商業的交通が主體をなすに反し、新宿所屬線は放射線街路の主要なる系統に屬し通過交通の特に多き事を示すものである。

尙大正十四年六月三日東京市内交通の要路二百九十一箇所にて行ひたる交通調査の實績について見れば歩行者總數七百三十二萬三千六百十四人毎時平均六十一萬三百人、一箇所平均二萬五千六百七十七人、其の最多箇所は東京驛前の十六萬七千九百七十八人 (全體の二・三%) を始めとして以下須田町、淺草仲店前、澁谷驛前、道玄坂下、新宿驛前、銀座四丁目交又點、上野驛前、三越前、白木屋前、駿河臺下の順序となる。諸車は其の通過總量四百三十八萬一千九百一十一臺、毎時平均三十六萬五千五百五十九臺、一箇所平均一萬五千五十八臺にして、最多箇所は須田町の六萬一千二百臺を始めとして以下白木屋前、京橋交又點、本石町、銀座一丁目、日比谷、室町、淺草橋南詰、銀座四丁目、小川町の順序となる。又諸車の交通量中二百三十八萬餘臺の總量の五四%に相當する自轉車を最多として以下各總量一〇%強の手荷車、電車、乗用自動車の順となる。

昭和四年十二月五日現在帝都中心地晝間人口調査によれば丸の内、銀座通、日本橋通附近一帯を含み麹町、日本橋、京橋、芝の四區に互る百三萬四千坪の面積の中に晝間人口十六萬九千二百六十二人を算し、其の内通勤通學者は其の數十二萬三千七百一人を占め總數に對し、七三・〇八%に當る。殘餘の四萬五千五百六十一人は市内在住者にして僅に總數の二六・九二%を示すに過ぎぬ。斯の如きは最も

中心地に於ける晝間人口の集中と是に伴ふ交通量の著しき高潮時の現象を示すものと謂ふべく、是等の人口を收容する集團的事務所建築並所謂ビルディングの数は又著しい。其の收容人員五十人以上のビルディング數百七十九を算し、是を更に人員の多寡によりて區別するに二十人以上を收容するもの八（總數の四・二八%に當る）、一千人以上を收容するもの十八（九・六二%）、五百人以上を收容するもの二十五（三・三七%）、三百人以上のもの二十七（一四・四四%）、五十人以上のもの四十七（二五・一三%）で、是等の大半は九の内附近に分布する。

次に右通勤通學者數の内市外に居住するもの七萬三千八百人を算し、内荏原郡約二萬四千人、豐多摩郡約二萬一千人、北豐島郡約一萬八千人等南郊より西郊に漸次に減少し北郊東郊に及べば激減して南足立郡の約一千人南葛飾郡の約三千人北多摩郡の約七百人を算す。離れたる土地にては神奈川縣約四千四百人埼玉縣約一千人千葉縣約七百人等である。

#### （ロ）時間的影響の有無

前述大正十四年六月三日の交通調査について其の時間的變化の割合を見るに、當日の歩行者全交通量に對する歩行者の交通量の變化は午前七時より八時迄の混雑時一〇・七%の後は毎時大體七%前後を持し午後二時より四時迄毎時約九%四時より再び混雑時に入り四時より五時迄一・五八%、五時より六時迄一二・五二%となりて最高潮に達する。諸車の總計は午前九時より十時迄と午後四時より五時迄の高潮時を有し、何れも九%を越え、其の間正午前後に八%前後に減少し、更に午後五時以後遞減を示す。更に是等諸車の交通量の變化を見るに特に其の高潮時は各々特異の形態を示し電車は歩行者より一時間後れて朝八時——九時の間に高潮時を有すれ共、乗合自動車は更に後れて九時——一〇時、一〇時——十一時の間に高潮時を有す。自轉車も略是れと同様である。更に貨物自動車、牛馬車、人力車の如きは一〇時——十一時の間に高潮時を示し人力車は略是れと同様なれ共一〇時——十一時に次ぎて十一時——一二時に繼續する。次に午後の高潮時につきて見るに電車、自轉車、歩行者共に午後四時——五時の間にあり、乗用自動車は最も後れて五時——六時にある。是れに反し貨物用自動車、牛馬車、手車、人力車等は何れも午後二時——三時の間にある。以上の關係は最も明に其の交通者の職業的並に商業的交通關係を示すものと謂ふべきであらう。

#### （リ）横須賀市

一 横須賀市は軍港都市として艦隊の入港船の多寡従つて兵員上陸の如何に依り交通輻輳に著しい變動を生ず。平時に於ては海軍工廠職工並に従業員等の通勤往復時即ち午前六時より同七時、午後四時より同六時の間に於て最も交通輻輳する（圖參照）。諸車の中、自轉車は凡ゆる方面に普く利用せられその交通量は全交通量の七一%を占めて居る。

二 鐵道驛——朝夕のラッシュアワーに於て混雑を極め、春秋二期に於ては團體遊覽者に依り、終日を平均して旅客の出入繁く、夏期は午後に於て近郊所在の海水浴客のため昇降客が多い。

三 大百貨店、大觀工場——公休日以外は午後四時——八時の間に多少混雑を呈するのみ。

四 路店の存する街路——冬期以外午後六時より同十一時頃迄相當混雑するも車馬の交通に影響しない。

五 遊覽地——紀念艦三笠を主とし、春秋二期團體觀覽者を以て賑ふ。

社寺——深田町所在龍本寺は毎月末日緣日として夜間の參詣者を以て混雑する。

中央公園——山地にあり坂路多く考幼女子の歩行困難なるため平日は散策者閑散なるも、展望に富むにより春秋は遊覽者の交通頻繁である。

#### （ヌ）富山市

大正十五年五月二十六日（天候晴）午前六時より午後六時に至る間行はれたる富山市五八箇所の交通調査の結果に基き、歩行者及び車馬數の最多なる地點の交通調査實績を摘記すれば左の如くである（都市計畫富山地方委員會赤司貫一提出の資料による）。表中\*印を附せる

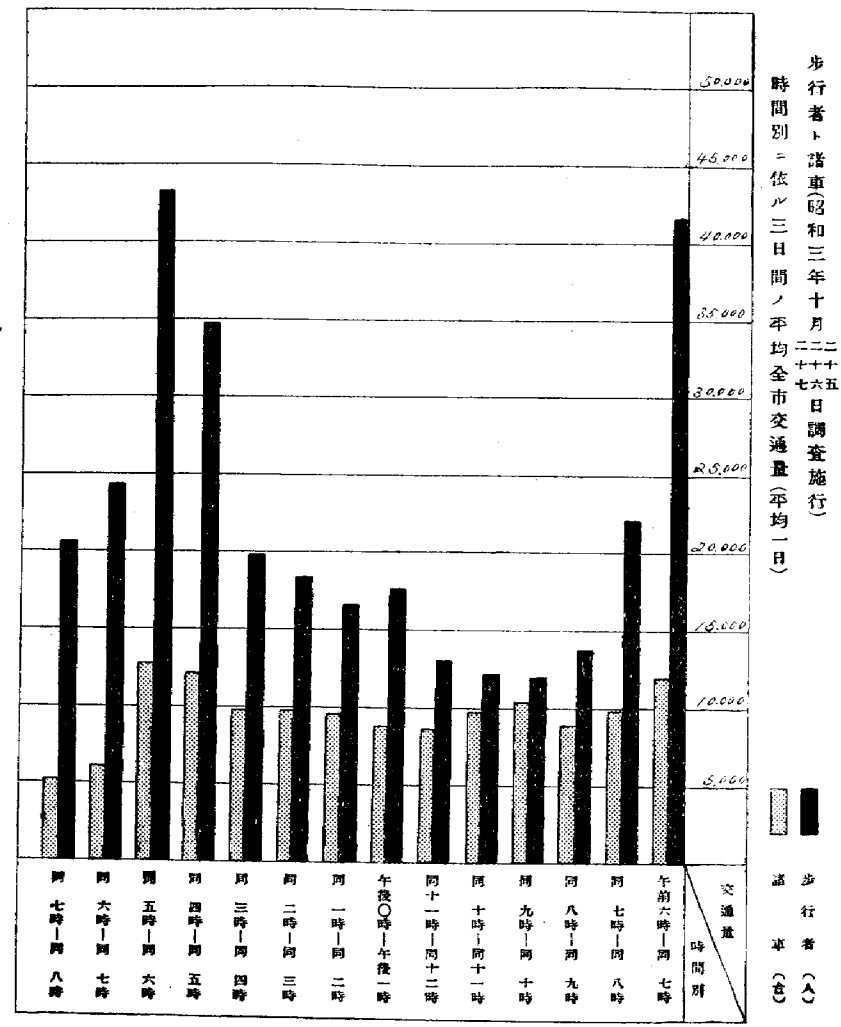
は該値が五八箇所の調査地點の調査成績中の最高値なることを示す。

原調 査表 番號	路線名及調査場所	交通量									
		歩行者	人力車	自轉車	荷車	牛馬	牛馬車	自動車	貨物車	電車	
二	富山停車場線	四、一八〇	九四	一、九二〇	九二〇	一〇	一八三	七	四〇	三五五	
三	櫻岡町	二、七〇	一〇八	一、七〇四	八八〇	一三	一七二	五九	三六	二七八	
五	上國道第十一號立町	四、八七四	三〇	二、五二一	四八四	三	四八	二六	二三		
一	中同	五、七四一	三三	三、三三三	五七七	二	八六	六〇	二六	三五四	
四五	中町鐵砲町輪總曲	* 七、〇六五	二二	二、六六三	二八五	二	一三	七	二		

(ル) 高岡市

大正十五年五月十八日(天候晴) 午前六時より午後六時に至る間行はれたる高岡市交通調査の結果は圖示する如くである(都市計畫富山地方委員會赤司貫一報告)。

(ヲ) 名古屋市



動變的時間の量通交市賀須横



市道中町通菱屋町角（方向——京都市、道路幅員——九間）往復合計交通量 時間的變化左の如し。

時間		歩行者		電車		乗用		貨物		計		二輪		牛馬車等		自轉		自動		人力車		計		合		計	
四	三	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五
五	四	三	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六
六	五	四	三	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五
七	六	五	四	三	二	一	二	一	二	一	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六
八	七	六	五	四	三	二	一	二	一	二	一	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五
九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	一	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六
一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	一	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五
一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六
一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五
一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六
一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五
一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四
一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三
一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一
一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八	九
二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七	八
二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六	七
二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五	六
二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	二	三	四	五
二五	二四	二三	二二	二一	二〇																						

(力) 大 阪 市

第一 大阪市内主要街路平均一時間交通量  
(昭和五年一月三十日より二月十五日迄の調査)

順位	調査箇所	自動車			自轉車	電車	荷車	人力車	牛馬車		歩行者
		自用	乗合	荷積					四輪	二輪	
一	南北線 梅田驛前	六三九	四六七	二七	九	四三三	一一九	二六	五三		二、二五
二	同 堂島北町	二九三	二七四	五三	二三	五二五	六六	一二			九、九三
三	同 肥後橋々上	三〇〇	二一九	五四	二八	八〇五	七七	三五			八一五
四	同 鞆中通一	三五六	一九五	二四	二六	四八八	七六	一			三〇〇
五	同 立賣堀中通一	三三六	一九九	四八	三一	一、三三五	八〇	六九	二		五九九
六	同 北堀江通一浪速江橋	三〇三	二二九	七三	二五	五九九	八五	一九九	七		三三二
七	御堂筋 曾根崎中一	四〇三	三九九	六一	三〇	九〇四	八一	八二	二六	二七	一、四二〇

順位	調査箇所	乗用	自乗	車荷	自動車	自轉車	電車	荷車	人力車	牛馬車	歩行者
八	同 會根崎新地一	四七三	四〇八	七五	三二	一、二八九	九三	一四八	一八	六	一、〇八七
九	同 筋道修町	五二	三八二	六五	六六	一、五四九	一〇五	一	八		一、二五
一〇	同 南久寶寺町	五二〇	三七六	五二	六〇	一、八三一	一一二	四	三		四、四
一一	同 八幡筋	四七二	三九六	六三	四五	二、〇〇六	一〇一	一一	四		一、八〇
一二	同 日本橋筋二	三七	二七九	七六	四九	一、八二五	一〇三	二二	五		四、六
一三	同 日本橋筋五	四一六	二五三	七六	二四	一、四八	一〇四	二七	三		五、四
一四	同 北濱天満線北濱	三三一	四四三	二九	二〇	五、五三	一、二八	四三	二		五、〇
一五	同 京橋三	二〇五	一四五	二五	二二	九、八五	六八	一七一	一〇		五、〇
一六	同 谷町線	八四	七六	九	二	二〇七	六九	一四	一		三、〇
一七	同 谷町四	七二	七九	四	六	四〇五	七一	二二	一		三、〇
一八	同 上本町線	一三〇	一五一	一九	八	四三	八七	四〇	一		二、四
一九	同 上本町三	一五六	一七六	一三	六	一、六五	六三	一三	一		八、二
二〇	同 上本町六南	一〇八	一四一	九	四	一、六五	六六	一七	一		一、六二
二一	同 靱本町線	二四〇	五一	四五	三	六、〇三	五三	二〇六	四		一、三四一
二二	同 靱南通二	二九二	四九	五六	三〇	八、八	五二	六六	一		一、八八
二三	同 本町四	二八六	五九	九三	五七	一、八二	五四	二七四	五		四、〇九
二四	同 内本町二	一九九	五七	三八	二八	一、〇七六	四九	七八	一		三、三
二五	同 長堀線	九一	五三	一一	九	一、七	九四	九	一		一、二五
二六	同 末吉橋通四	一五四	五四	二〇	五	一一一	九八	五	一		一、六四

二七	長堀線	西長堀北通三	二七	六五	一八	四	一〇四	二四	三	一〇	三二
二八	同	同 四	五五	二九	七	五	九七	一四	一	一一	二七
二九	築港線	九條通一	三三	一〇九	六三	三八	八一	二七	四	七一	二、二七
三〇	同	九條南通一	三〇〇	一三六	六九	三三	一一二	二九七	四	八〇	一、三三
三一	同	市岡元町一	二七五	一三八	五二	二五	一〇九	一五六	四	五二	九、八九
三二	同	市岡元町五	三三九	一二五	三四	一七	一〇九	六一	三	三九	五、四七
三三	同	八幡屋元町一	一二三	一二四	一六	四	六八	二二	三	七	三、〇四
三四	同	三條通四	一二三	一一〇	一三	二	六九	一〇	一	四	五、六
三五	同	中ノ島線	一二四	七三	四七	一〇	七一	三五	二	四九	一、六六
三六	同	宗是町 (田箕橋南詰)	一〇九	七〇	三四	七	六九	四	二	七	一、四六
三七	同	中ノ島線	一〇九	五四	一九	七	六九	二	三	二	一、三九
三八	高津線	千日前	四二三	一一一	三八	二二	八二	六八	三	三七	三、六六
三九	同	下寺町	二八九	一六九	二九	一八	八五	九四	二	四九	三、六二
四〇	同	上本町六西	二六四	一〇四	三〇	二四	八五	一一八	一	六五	六、七七

第二 交通指数と許容最大交通量——單一走行幅員(九尺)當りの交通幅員の順序にて

順位	個所	交通指数	許容最大 交通量に 對する比	順位	個所	交通指数	許容最大 交通量に 對する比
一	南久寶寺町(堺筋)	六六・三	六三・三%	一六	京橋三丁目(北濱天満橋線)	四二・〇	四四・七%
二	八幡筋(同)	六四・八	六三・八%	一七	肥後橋々上(南北線)	四四・六	四四・五%
三	道修町(同)	六三・九	六三・三%	一八	本町四丁目(靱本町線)	四四・七〇	四四・三%
四	北濱三丁目(北濱天満橋線)	五九・五〇	五八・八%	一九	曾根崎新地一(御堂筋)	四三・九	四三・四%
五	日本橋筋二(堺筋)	五八・五〇	五七・八%	二〇	中ノ島六丁目(中ノ島線)	四三・三	四二・八%
六	九條南通一(築港線)	五四・六	五三・八%	二一	西長堀北通三丁目(長堀線)	四二・八七	四二・三%
七	日本橋筋五(堺筋)	五四・二六	五三・七%	二二	千日前(高津線)	四一・三八	四〇・八%
八	上本町六西(高津線)	五三・七三	五三・三%	二三	堂島北町(南北線)	四〇・五五	四〇・六%
九	北堀江通一(南北線)	五二・一八	五〇・七%	二四	上本町六南(上本町線)	四〇・五	三九・六%
一〇	梅田驛前(同)	五〇・六八	五〇・三%	二五	靱中通一(南北線)	三九・六〇	三九・三%
一一	九條通一(築港線)	五〇・六五	五〇・一%	二六	末吉橋通四(長堀線)	三六・七〇	三六・三%
一二	上本町三(上本町線)	四七・〇	四七・三%	二七	上本町九(上本町線)	三六・〇五	三五・六%
一三	市岡元町一(築港線)	四七・一	四七・一%	二八	曾根崎中一(御堂筋)	三五・四五	三五・二%
一四	立賣堀南通一(南北線)	四七・〇	四六・八%	二九	靱南通五(靱本町線)	三四・八八	三四・五%
一五	下寺町(高津線)	四七・三	四六・六%	三〇	末吉橋通一(長堀線)	三四・四三	三四・八%

第三 交通指数と許容最大交通量との比——一貫せる路線につき交通幅輦の順位にて

順位	路線	平均交通 指数	許容最大 交通量に 對する比	順位	路線	平均交通 指数	許容最大 交通量に 對する比
一	堺筋線(北濱二—惠美須町)	六四・四	六〇・七%	二	北濱天満橋線(淀屋橋—天満橋)	五三・五	五・七%

三	高津線(賑橋—上本町六)	四七・八	四六・六	八	長堀線(末吉橋—伯樂橋)	三六・五	三六・一
四	南北線(梅田—深里橋)	四七・九	四五・三	九	靱本町線(川口町—谷町三)	三五・三	三四・九
五	上本町線(上本町二—上本町九)	四三・〇	四〇・八	一〇	中ノ島線(大江橋—端藏橋)	三八・九	三六・六
六	築港線(本田—千舟橋)	四三・一	四〇・一	一一	谷町線(天満橋—谷町六)	三七・〇	三・四
七	御堂筋線(梅田—淀屋橋)	三九・七	三九・二				

以上掲げたる調査の結果より見て市域中樞部に於ては一般に交通幅輦の程度高く交通車輛種類大略十種の内自動車交通がその首位を占め、特に一般乗客輸送に従ふ乗用及び乗合自動車数量に於て最も多い。

自動自転車は割合に少数で交通支障の程度も低い。

自転車はその交通數量に於て各調査箇所の種別的交通量の第一位にあるものが多いが交通支障の程度は自動車又は電車の下位を占むるのが通例である。

荷車及牛馬車は、市域中樞部に於ては特種の箇所を除く外は一般に交通量少く、従て交通支障の程度も割合に小である。二者の内、交通車輛數では荷車の方が上位にあるが交通支障程度では兩者略同様の現象を呈してゐる。此の如き緩速運輸車輛は市の周圍部又は特種の箇所

に於て多く用ひられ中樞部にては路線的に特定の時間交通禁止を勵行することにより交通漸減の傾向がある。  
人力車に至りてはその數非常に僅少、而かも年を追つて減少の傾向あり、日ならずして幅輦街頭よりその姿を消し去るものに非らざるか。  
歩行者は種々の條件に支配されてその増減著しきものなれども春秋の候に多く、又一日中にては朝夕に多き一般的状態と同じうして居る。(大阪市長關一報告)

第四 昭和四年六月二十日堺筋線に於ける三越、白木屋、高島屋、松坂屋の四百貨店前に於て街路歩行者數を調査せるに左の如くであつた。

三越前堺筋歩行横斷者調査

時 間	東				西				合 計
	男	子	女	小 兒	男	子	女	小 兒	
午前 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇	一三〇	九三	一三三	一〇八	一二七	九七	一〇五	一七五	二四四
午後 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇	一三〇	九三	一三三	一〇八	一二七	九七	一〇五	一七五	二四四
計	五三六				五三六				一〇七二

松坂屋前堺筋歩行横斷者數調査

時 間	東				西				合 計
	男	子	女	小 兒	男	子	女	小 兒	
午前 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇	一三〇	九三	一三三	一〇八	一二七	九七	一〇五	一七五	二四四
午後 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇	一三〇	九三	一三三	一〇八	一二七	九七	一〇五	一七五	二四四
計	五三六				五三六				一〇七二

白木屋前堺筋歩行横斷者數調査

計	四、六〇七	四、八三八	九、四四五
---	-------	-------	-------

時 間	東				西				合 計
	男	子	女	小 兒	男	子	女	小 兒	
午前 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇	一三〇	九三	一三三	一〇八	一二七	九七	一〇五	一七五	二四四
午後 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇	一三〇	九三	一三三	一〇八	一二七	九七	一〇五	一七五	二四四
計	五三六				五三六				一〇七二

高島屋前歩行横斷者數調査

時 間	東				西				合 計
	男	子	女	小 兒	男	子	女	小 兒	
午前 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇	一三〇	九三	一三三	一〇八	一二七	九七	一〇五	一七五	二四四
午後 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一 〇	一三〇	九三	一三三	一〇八	一二七	九七	一〇五	一七五	二四四
計	五三六				五三六				一〇七二

時 間	東				西				合 計
	男 子	女 子	小 兒	計	男 子	女 子	小 兒	計	
午前	一、三二七	一、二二七	二、二五	二、八八	一、三三〇	一、一八八	三、六六	二、七四	四、四三
午後	一、三二七	一、二二七	二、二五	二、八八	一、三三〇	一、一八八	三、六六	二、七四	四、四三
計	二、六五四	二、四五四	四、五〇	五、七六	二、六六〇	二、三七六	七、三二	五、四八	一一、二四

第五 大阪市内に於ける省線及郊外電車停車場並停留場の乗降人員總計數

昭和四年十一月五日午前七時—午後七時（數量順に列記す）

驛 名	乗 客 數	降 客 數	合 計	一 時 間 平 均 數	最大交通時一時間乗降數	
					午 前	午 後
南海難波	三、六三八	四、九二〇	七、八三八	六、五二〇	一〇、八四三	九、五七九
阪急梅田	三、〇七〇	三、四七五	六、五四五	五、四六〇	九、八二四	八、三三〇
大軌上六	三、八三五	三、四九一	七、三二六	四、〇六七	六、〇〇四	五、二六九
京阪天王寺	一、九八二	三、〇二七	五、〇〇九	三、四〇五	六、〇〇七	五、〇六九
國鐵梅田	一、七五五	二、〇五七	三、八一二	三、一七七	六、一五七	四、八七七
阪神惠美須町	一、七二六	一、八二六	三、五五二	二、九六一	三、八〇一	四、六四五
南海惠美須町	一、三八六	一、五八三	三、九六九	二、四七七	三、五八	三、五七八

新大阪	一、五八六	一、三六九	二、九六五	二、四三〇	三、七二五	四、〇〇八
阪神野田	九、一五七	一〇、〇二一	一九、一七八	一、五九八	二、〇一六	二、五四三
大鐵阿部野	九、〇一六	一〇、〇五三	一九、〇六九	一、五八九	二、六七七	二、四七七
國鐵天王寺	七、三二五	九、三九一	一六、七〇六	一、三九二	二、九五七	二、九五〇
阪神國道野田	四、四二五	五、〇三三	九、四四八	七、八七	九、三二	一、三二
阪和天王寺	三、三三〇	三、八五四	七、四八四	六、二四	一、二〇八	九、六九
國鐵片町	二、九一七	二、八九五	五、八一二	四、八四	八、九七	七、二
國鐵湊町	一、九七三	二、四四三	四、四一五	三、六八	八、三二	七、四
阪堺原橋	一、九七二	二、一四四	四、一五	三、四三	三、九七	四、九四
阪神千鳥橋	一、九八八	一、八六一	三、八四九	三、二二	三、八四	六、五
南海沙見橋	一、八五六	一、七九三	三、六四九	三、〇四	五、六〇	五、〇
阪神出入橋	一、二八一	一、七八三	三、〇六四	二、五五	五、二九	三、四三
京阪野田橋	一、三二二	一、六七六	二、九八八	二、四九	三、九九	四、〇三
計	三、二七九	二、四三八	五、七六七	—	—	—

(3) 西宮市

一 交通量——昭和五年三月至十四日平均交通量、國道第二號線（阪神國道）神樂町（市の西部境界）に於ける調査

總數 （時間一 歩行者） 最少 最多	時刻	發		自轉車	自轉車	電車	雜	總計
		前六 後三	七 四	歩行者	人力車	自轉車	荷車	牛馬車
一、六四 一、四三	一、二四 一、一三	二、七三 二、七三	一、四三 一、二七	二、六五 二、三三	一、九四 二、七四	六、八一 六、二二	一、〇四 一、三三	二、七八 一、八八
二、六五 二、九七	二、九七 二、六八	六、六五 六、六八	六、六八 六、六八	六、六八 六、六八	六、六八 六、六八	六、六八 六、六八	六、六八 六、六八	六、六八 六、六八

二 縣社西宮神社例祭（一月九日より三日間）及び香櫛園海水浴場（七月より八月まで）による交通輻輳著しい。  
三 市内主要街路たる阪神國道は自動車の運行に適し夜間は晝間より運行便宜なるため終夜之を利用する自動車が多い。

（タ） 丸 龜 市

大正十五年七月十五日自午前六時至午後六時、丸龜驛東南方十字街に於ける交通量調

調 査 箇 所（番 號）	道 路 （間 員）	方 向	歩 行 者	自 轉 車	人 力 車	荷 車	牛 馬 車	自 動 車	牛 馬 車	自 動 車	牛 馬 車	其 他
驛に近き方（一四）	一、三三	北	一、三三	六、二六	二、三三	九、二	二	〇	一	一	一	一
驛より來て右の方（一五）	二、三	東	二、三	一、五五	一、七	一、八七	二、七	九	一	一	一	一
驛より來て左の方（一六）	二、四	西	二、四	一、四七	一、八	一、七	三	六	二	二	二	二
驛に遠き方（一七）	二、三	南	二、三	八、七一	二、七	一、〇三	二、四	二	一	一	一	一

（レ） 高 知 市

- 一 葛島橋より鏡川橋に至る東西の電車線及び高知驛浦戸港を結ぶ南北の電車線々路は常に交通頻繁にして、殊に汽船の發着時に於ける浦戸港線は自動車の交通輻輳を極む。
- 二 毎日順次市内樞要の場所數箇處を選びて露天市を開催しつゝあり、其の沿道は何れも交通輻輳するも、特に日曜市は市の中央に位し遠く郊外各町村より出荷するものも多く、平時は勿論殊に春秋好時節或は年末等に於ては特に附近一帯に拂り股賑雜沓を極む。
- 三 神社寺院の平時參拜者は比較的少數なるも、神社の夏秋の大祭日及び寺院の春季花祭及び四國八十八箇所詣等の時季に於ける參拜者は非常に多く交通雜沓を極むる所あり。

（リ） 佐 賀 市

- 一 地形平坦なるも河川並に橋梁暗渠夥しく道路の屈曲多し。
  - 二 歩車道の區別なし。道路狹隘にして不適。
- （佐賀市長 野 口 能 毅 提出の報告による）

（ツ） 平 壤 府

第二篇 街路交通統制參考資料

平壤地方は冬季結氷する關係上大體十一月乃至三月の五箇月間交通稀薄なるも、府の内外に互り名所舊跡多く四月より九月頃迄特に四、五の二箇月は結氷明けと外來遊覽者の爲出入頻繁を極め交通相當輻輳する。尙夏季中の當地方の特色として日中の炎暑に比し夜間氣溫低下甚しきため初夜の外出者特に多く商業地域の交通輻輳する。

同地交通量の時間的變動は左の如くである。

調査場所		大和町通り(商業地區)		山手町(住宅地區)		兼二浦線(工業地區)	
調査年月日		昭和四年九月二十五日		昭和四年十月五日		昭和四年十月三日	
交通種別	計	人		自動車		計	
		人		自動車		人	
午	前	計		計		計	
		人		人		人	
正午	正午	一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇	
		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇	
午	前	一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇	
		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇	

後		計		人		自動車	
正午	正午	一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇	
		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇	
午	前	一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇	
		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇		一〇九八七六五四三二一〇	

備考——大和町通り——一等道路、幅一二間、京義線  
山手町——二等道路、幅六・五間、停車場線  
兼二浦線——三等道路、幅一二間

(ネ) 京 城 府

(京城府尹報告)

京城府内に於ける昭和三年十月十五日午前六時より午後六時に至る最大交通量は南大門通四丁目に於て  
人 二五、二二八人 一時間平均 二、一〇二人  
自動車 一、一〇三臺 同 九二臺  
電車 八二八臺 同 六九臺  
その他諸車 一二、七五〇臺 同 六二臺  
であつた。道路幅員は一九間である。

# 第二 街路交通事故

## (1) 交通事故 累年比較

區 域	昭和元年			昭和二年			昭和三年			昭和四年		
	件 數	事 故	者 負	件 數	事 故	者 負	件 數	事 故	者 負	件 數	事 故	者 負
札 幌 市	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
函 館 市	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
小 樽 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
旭 川 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
室 蘭 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
釧 路 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
山 形 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
米 澤 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
鶴 岡 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
若 松 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
福島市、 信夫郡一部	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

宇 治 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
四 日 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
津 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
清水市、 庵原郡	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
沼 津 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
濱 松 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
靜岡市、 安倍郡	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
大 垣 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
岐 阜 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
上 田 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
松 本 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
長野市、 自動車事故	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
甲 府 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
福 井 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
川 崎 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
横 濱 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
東 京 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
千 葉 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
足 利 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
宇 都 宮 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
水 戸 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
郡 山 市	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二



區 域	昭和四年				昭和三年				昭和二年				昭和元年			
	件数	事故	死者	負傷者	件数	事故	死者	負傷者	件数	事故	死者	負傷者	件数	事故	死者	負傷者
大津市	101	37	1	36	113	40	4	109	123	44	1	119	101	37	1	36
京都府	135	114	1	134	107	135	4	103	135	114	1	134	135	114	1	134
神戸市	196	158	3	155	101	135	4	97	101	135	4	97	196	158	3	155
姫路市	22	19	1	18	27	25	1	26	22	19	1	18	22	19	1	18
明石市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
西宮市	22	19	1	18	27	25	1	26	22	19	1	18	22	19	1	18
和歌山	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
廣島市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
尾道市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
吳市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
福山市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
下関市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
宇部市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
山口市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
徳島市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
松山市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
今治市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15
高知市	29	16	1	15	21	10	1	20	29	16	1	15	29	16	1	15

佐賀市	34	33	0	34	36	28	19	38	23
鹿兒島市	100	87	16	168	144	152	108	50	10
京都市	446	194	13	510	325	267	321	74	24
大連市	446	194	13	510	325	267	321	74	24

備考一 東京駒町日比谷警察署管内交通事故（昭和四年中）

事故總件數	178	死亡總人員	7	負傷總人員	596	治療總日數	574	損害總見積額	26753
-------	-----	-------	---	-------	-----	-------	-----	--------	-------

備考二 大阪市の交通事故

（大阪市長 阪市土木部計畫課長 關山新一 報告）

種 別	年 次	事故數				被害數			
		衝突	接觸	其他	計	死亡	重傷	輕傷	計
汽 車	大正昭和 同 同	4325	8815	4555	5671	5549	6697	574	6767
船 舶	大正昭和 同 同	1545	1631	3295	4557	693	111	131	735

船舶に對する昭和三、四年度の前年に比し著しく事故數の減少せるは統計基礎を變更したるに由る重傷は治療日數十五日以上を要したるものを計上し、輕傷は治療日數十五日未満のものを計上せり

札 幌 市	區 域	面積(平方呎)	人 口	區 域 內 車 輛 數					
				自 動 車	自 動 自 轉 車	自 轉 車	牛 馬 車	人 力 車	總
				二八八	一九	一九、一七六	一、四九三	二九八 一五三	

表中、山形、米澤、鶴岡各市車輛數は警察署區域内數にして郡部を含む。又宇都宮市車輛數は四月一日現在。(面積欄に報告されたる數値には疑はしきものあるも更正の方法なきものについては報告のまゝ又は之を換算して掲記した。)

區	域	面積(平方料)	人	區 域 內 車 輛 數				
				自動 車	自動 自轉車	自 轉車	牛 馬 車	人 力 車
函館市、龜田郡、上磯郡	警署	八四〇・一八	一八四、一五九	一六五	三〇	七四〇	一、六三三	九六
小樽市、警署	警署	〇〇六	一四七、一〇一	一三五	六	四、七四三	一、〇四四	一〇八
旭川市、警署	警署	四二・七一	一五九、二五九	一七三	三	一、八二一	五、九七一	五七
室蘭市、警署	警署	五、〇五八・九八	五八四、六七	三七	五	一、四四三	三、三三三	三三
釧路市、警署	警署	一九九・九六	八七、〇三三	七六	四	一、〇九六	一、〇三三	一六
山形市	署	一八・七七	—	一四	九	一〇、八二二	三、三三三	一六
米澤市	署	一五九・九六	—	九四	五	一〇、八二二	三、三三三	一六
鶴岡市	署	一八・七七	—	九四	五	一〇、八二二	三、三三三	一六
福島市、信夫郡一部	署	六・〇〇	四三、二四	九四	五	一〇、八二二	三、三三三	一六
郡山	署	四三・三五	一〇一、七七八	二七	八	四、八〇一	二、八〇一	一六
水戸市	署	一九八・五五	四六、一〇四	六七	三	四、八〇一	二、八〇一	一六
宇都宮市	署	五、五五	四九、二九七	二四	三	四、八〇一	二、八〇一	一六
足利市	署	一七九・九	七七、三九六	一九六	七	一〇、八二二	三、三三三	一六
千代田市	署	八八・二	四、三五五	一〇一	七	一〇、八二二	三、三三三	一六
東京市	署	一・三四	四、三五五	一〇一	七	一〇、八二二	三、三三三	一六
横濱市	署	二、四三・八七	五、九四七・七	一〇八・〇〇	三	五、〇〇九・七	一、七六五・四	一七・七
横濱市	署	一、三六・七四	九七、九六〇	一七・八	二	四、八〇一	二、八〇一	一六
須賀川市	署	一一・七五	一〇九、九二	一三六	二	一〇、八二二	三、三三三	一六
川崎市	署	三二・八七	九七、九六〇	一三六	二	一〇、八二二	三、三三三	一六
福井市	署	四・六七	六、一二六	一三一	二	一〇、八二二	三、三三三	一六
甲府市	署	五・八六	八、一二一	一四三	二	一〇、八二二	三、三三三	一六
岐阜市	署	九・三五	八、〇三〇	一四三	二	一〇、八二二	三、三三三	一六

大垣市	署	四・四七	一〇三、五三三	三八七	一六	一、六二九	一、四四五	一四八
静岡市、安倍郡	署	—	一〇一、八八二	二九三	一五	一、六二九	一、四四五	一四八
濱松市	署	一四・五三	一〇一、八八二	二九三	一五	一、六二九	一、四四五	一四八
沼津市	署	一三・六三	三八、五三七	一三三	四	一、六二九	一、四四五	一四八
清水市、庵原郡	署	三・五七	一八、四〇九	一三五	二	一、六二九	一、四四五	一四八
津市	署	〇・〇六	五四、四二八	八〇	三	一、六二九	一、四四五	一四八
四日市市	署	〇・〇三	四三、五二四	八九	三	一、六二九	一、四四五	一四八
宇治市	署	三八七・五九	一六、四六三	二〇六	三	一、六二九	一、四四五	一四八
大津市	署	一五・四三	三九、六九三	一六	三	一、六二九	一、四四五	一四八
大津市	署	—	—	—	—	—	—	—
神戶市	署	八・三三	七五、二〇〇	一、五八	一六	一、六二九	一、四四五	一四八
姫路市	署	一・二八	六〇、三〇〇	一五六	四	一、六二九	一、四四五	一四八
明石市	署	七・三五九	四三、七三六	四〇	二	一、六二九	一、四四五	一四八
西宮市	署	七・七九	三三、二二	四三	二	一、六二九	一、四四五	一四八
西宮市	署	五・二九	三六、四七三	七五	三	一、六二九	一、四四五	一四八
和歌山	署	一七・一八	一三、〇四三	八二五	八	一、六二九	一、四四五	一四八
廣島市	署	六九八・五	二五、〇八九	九八一	二	一、六二九	一、四四五	一四八
尾道市	署	三七・五	二六、九〇四	五二	二	一、六二九	一、四四五	一四八
吳市	署	四八・六三	一五、九三七	九一	二	一、六二九	一、四四五	一四八
福山市	署	五・八七	三四、〇八〇	八四	二	一、六二九	一、四四五	一四八
下關市	署	一五・六五	一〇、八〇一	一五八	二	一、六二九	一、四四五	一四八
宇部市	署	三・五四	六〇、一〇〇	七六	二	一、六二九	一、四四五	一四八
山口市	署	四八・九一	三三、八八〇	九三	二	一、六二九	一、四四五	一四八
徳島市	署	一五・八九	九〇、九一	一三七	二	一、六二九	一、四四五	一四八
松山市	署	一八・〇三	七九、六四四	一〇八	二	一、六二九	一、四四五	一四八

區 域	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十一 月	十二 月
札 蘭 縣、 庫 倫 市、 錫 林 河 鐵 道 局、 小 樽 警 旭 川 警 室 蘭 市、 劉 路 警 山 形 市	五二四二〇〇	九七〇〇〇一	一一三一〇〇	六一三一二	六一三八五〇	七七七九二三	一一三五七一	八一六六九	六一五〇三	七八七五二	七四六〇二	一〇五五六二

津	清水市、庵原市	沼津市	濱松市	静岡市、安倍郡	大垣市	岐阜市	上野市	松本署	長野署	甲府市	福島市	川崎市	横濱市	横濱市	東京市	千葉市	足利市	宇都宮市	水戸市	郡山	福島市、信夫郡一部	若松市	鶴岡市	米澤市
三	二	二	五	一	〇	三	二	二	一	四	一	五	九	一〇	一八	五	二	三	五	一	一	一	〇	〇
三	二	二	五	九	二	五	五	四	〇	一	一	七	八	三	七	二	三	二	三	二	二	〇	〇	〇
四	七	二	九	一〇	〇	四	六	〇	一	七	九	一	五	八	二〇	七	三	二	四	三	二	〇	〇	〇
五	三	六	一	七	四	五	二	三	〇	六	七	六	七	八	二〇	六	〇	七	一	二	一	七	一	〇
四	六	二	一	八	六	三	六	四	一	一	二	二	九	八	二〇	〇	二	四	四	二	一	三	一	〇
一	一	〇	一	八	九	二	九	二	三	二	四	八	七	五	九	二	〇	一〇	七	一	四	五	一	二
二	一	四	五	九	五	八	四	三	三	五	一〇	一	二	一	二	八	二	七	一	二	〇	二	一	三
三	三	五	五	一	六	四	八	〇	八	二	八	四	七	一	三	六	一	八	三	二	〇	六	四	三
四	六	六	九	七	二	三	二	二	四	四	一〇	五	七	九	〇	五	五	〇	六	二	一	四	二	五
五	五	五	一	八	〇	二	五	〇	一	八	二	九	一	五	一〇	一〇	〇	四	三	三	一	三	〇	二
六	八	四	七	二	〇	一	四	五	二	八	四	九	一	九	二	二	〇	六	一〇	三	二	三	〇	三
七	一〇	二	八	一	〇	三	〇	四	二	四	一	一	一	一〇	一〇	七	五	一	五	二	一	三	二	二



大鹿佐高宇今松德山宇下福吳  
兒 和  
連 賀 知 治 山 島 口 部 關 山  
島 島  
市市市市市市市市市市市市市市市市

---

五〇六 一八七 三〇 三二 一六 二〇 一六 六三 一三六 五六 八七 五五 七五

---

二七八 五四 八 一五 八 一 四 二四 八三 九 〇 一七 三七

---

二七三 一二四 一九 三三 一三 一五 一四 三八 一三 一四 五四 三七 五九

---

一五八 二七 四 一三 六 一 五 一三 四 三 〇 一一 三四

---

一九 六 一 三 〇 〇 四 七 二 〇 〇 二 五

---

八 四 一 〇 〇 〇 〇 二 〇 三 〇 三 〇

(昭和四年)

區 域	總 件 數	路 面 狀 態						照 明 狀 態				
		鋪 裝	有 無	乾 燥	雨	撒 水	雪	氷	晝 間	薄 暮	夜 間、 無良	照 明 施 設 不 良
札幌市、函館市、釧路市、上磯郡、磯谷郡	九四 九二	一 五九	三 三二	五三 二九	六 四一	〇 〇	三五 一一	〇 〇	五三 一八	一〇 七	一五 一三	二三 三三

區域	總件數	鋪裝		路面狀態				照明狀態	
		有	無	乾燥	雨	撒水	雪	水	晝間薄暮
小樽警察署	四六	〇	二〇	三	五	二	九	二	二
旭川警察署	六五	〇	二二	四	六	三	二	〇	二
室蘭市、幌別	一三	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
釧路警察署	二二	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
若松市	三九	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
福島市、信夫	二八	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
郡部	二四	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
水戸市	四八	〇	二六	三	四	八	二	〇	〇
宇都宮市	七〇	〇	三〇	四	二	六	三	〇	〇
足利市	一三	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
千葉市	四八	〇	二六	三	四	八	二	〇	〇
福井市	二六	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
甲府市	七二	〇	三〇	四	二	六	三	〇	〇
岐阜市	五七	〇	二六	三	四	八	二	〇	〇
大垣市	三三	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
靜岡市、安倍	二八	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
濱松市	一三	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
沼津市	四〇	〇	二六	三	四	八	二	〇	〇
清水市、庵原	七六	〇	三〇	四	二	六	三	〇	〇
津市	四七	〇	二六	三	四	八	二	〇	〇
四日市市	二五	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇
宇治山田市	一七	〇	一〇	三	五	〇	〇	〇	〇

大津市	二一五	〇	二五	八五	一五	七	三	一	七	八	二	一
神戸市	二、五六五	一、七三三	七二二	一、七六七	四七一	二五四	五五四	一九三	一、五五五	三五九	六〇二	一六七
姫路市	二二七	二八	一八九	一九	五二	四四	四四	二九	二一八	一四	四二	二四
尼崎市	三三	一五	一〇	一八	一一	〇	〇	〇	二七	三	四	五
明石市	三三	一五	一〇	一八	一一	〇	〇	〇	二七	三	四	五
西宮市	三三	一五	一〇	一八	一一	〇	〇	〇	二七	三	四	五
下關市	八七	〇	六六	七四	五〇	〇	〇	〇	一八	〇	〇	〇
宇部市	六五	〇	六六	七四	五〇	〇	〇	〇	一八	〇	〇	〇
山口市	二九	〇	三六	四四	五〇	〇	〇	〇	一八	〇	〇	〇
徳島市	八七	〇	六六	七四	五〇	〇	〇	〇	一八	〇	〇	〇
松山市	二〇	〇	二〇	二二	二二	〇	〇	〇	二六	四	三	〇
今治市	二二	〇	二二	二二	二二	〇	〇	〇	二六	四	三	〇
宇和島市	二四	〇	二二	二二	二二	〇	〇	〇	二六	四	三	〇
高知市	四六	〇	四六	四六	四六	〇	〇	〇	二六	四	三	〇
佐賀市	三八	〇	三〇	三〇	三〇	〇	〇	〇	二六	四	三	〇
鹿兒島市	二四	〇	二四	二四	二四	〇	〇	〇	二六	四	三	〇
大連市	七四	〇	三八	二六	三五	一〇〇	〇	〇	四五六	七六	九五	七

(木) 交通事故件數 天候狀態別 (昭和四年)

區 域	晴 天	曇 天	雨 天	雪	暴 風	雷 雨	霧	計
札幌市、札幌市、上磯市	二四	二九	二六	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
小樽警察署	二七	三八	二六	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
旭川警察署	三四	三三	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
室蘭市、幌別村	四五	三五	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
釧路警察署	四六	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
若松市	六八	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
福島市、信夫郡一部	八六	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
郡山	八六	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
水戸市	三八	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
宇都宮市	五〇	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
足利市	三三	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
千代田市	三三	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
岐阜市	三三	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
大垣市	二四	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
静岡県、安部郡	二二	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
津市	二二	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
大津市	二二	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
神戶市	二二	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
姫路市	二二	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
明石市	二二	三八	二九	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四
計	二四	二九	二六	三五	〇〇	〇〇	〇〇	九四

區 域	晴 天	曇 天	雨 天	雪	暴 風	雷 雨	霧	計
西宮市	二	一〇	一	〇	〇	〇	〇	一二
下關市	二	一〇	一	〇	〇	〇	〇	一二
宇都宮市	二	一〇	一	〇	〇	〇	〇	一二
今治市	二	一〇	一	〇	〇	〇	〇	一二
松山市	二	一〇	一	〇	〇	〇	〇	一二
山形市	二	一〇	一	〇	〇	〇	〇	一二
和歌山市	二	一〇	一	〇	〇	〇	〇	一二
兒島市	二	一〇	一	〇	〇	〇	〇	一二
大鹿市	二	一〇	一	〇	〇	〇	〇	一二
計	二	一〇	一	〇	〇	〇	〇	一二

(ハ) 交通事故件數 發生箇所別 (昭和四年)

區 域	街路交叉點内	横断歩道上	安全地帯内	歩 道 上	坂路にて	軌道鐵道ある街路にて
札幌市、札幌市、上磯市	一九	三四	〇	〇	〇	五二
小樽警察署	一二	七〇	〇	〇	〇	四七
旭川警察署	七	三	二	〇	〇	二五
室蘭市、幌別村	〇	一	〇	〇	〇	〇
釧路警察署	〇	〇	〇	〇	〇	〇
若松市	〇	〇	〇	〇	〇	〇
計	一九	三四	〇	〇	〇	五二



區 域	街路交叉點内	横断歩道上	安全地帯内	歩道上	坂路にて	軌道鐵道ある 街路にて
福島市、信夫郡一部	一〇六	〇	〇	三	〇	一四
郡山	一〇	〇	〇	四九	〇	〇
水戸市	二六	〇	〇	四〇	一六	〇
宇都宮市	二六	〇	〇	四六	〇	〇
千代田市	二二	〇	〇	七九	二〇	一五
福井市	三五	〇	〇	四六	二二	二四
岐阜市	二五	〇	〇	七五	〇	二六
大垣市	八〇	〇	〇	一七	〇	〇
静岡市、安倍郡	三七	〇	〇	八三	〇	〇
濱松市	一〇	〇	〇	〇	一八	〇
沼津市	二五	〇	〇	四〇	〇	〇
清水市、庵原郡	二五	〇	〇	一九	〇	〇
津市	二二	〇	〇	一四	〇	〇
四日市	〇	〇	〇	〇	〇	〇
宇治山田市	二〇	〇	〇	一四	〇	〇
大津市	三九	〇	〇	五七	五	〇
大阪市(自動車)	七四	四〇六	六六	四二	一九七	一七六五
神戸市	八六	〇	〇	〇	三五	〇
姫路市	一六	〇	〇	〇	〇	〇
尼崎市	一	〇	〇	〇	〇	〇
明石市	一	〇	〇	〇	〇	〇
西宮市	二	〇	〇	〇	〇	〇
和歌山市	三	〇	〇	一七	〇	〇

廣島市	一〇八	〇	〇	三一	〇	〇
尾道市	八	〇	〇	一五	〇	〇
吳市	二四	〇	〇	五八	〇	〇
福山市	一五	〇	〇	三三	〇	〇
宇部市	二〇	〇	〇	四三	〇	〇
山口市	一七	〇	〇	四四	〇	〇
徳島市	三三	〇	〇	一三	〇	〇
松山市	一五	〇	九	〇	〇	〇
今治市	八	〇	〇	二〇	〇	〇
佐賀市	三	〇	〇	二四	〇	〇
大庭市	四一	七	〇	二九	〇	〇
大連市	四一	七	〇	二九	〇	〇

(ト) 交通事故件数 車輛種類別 (昭和四年)

表中、△印を附せるは該事故による死傷が最も多きことを示す。

區 域	軌道鐵道	乗自動車合	一般乗用自動車	貨自動車	乗用馬車	荷半馬車	荷車	人力車	自轉自動車	自轉車	其の他
札幌市、幌田郡、上市	三八	△	四〇	五八	〇	△	二	〇	〇	二	〇
函館市、龜田郡	一〇	五	三	五	〇	△	一	〇	〇	二	〇

[illegible]

區 域	軌道鐵道	自乘 動 車	合一般 動 車	自貨 動 車	乘用馬車	荷牛馬車	荷 車	人 力 車	自轉 車	自轉 車	其 他
小樽警察署	△		七								
旭川警察署			五								
室蘭市、幌別村			一								
釧路警察署			一								
山形市			二								
米澤市			二								
鶴岡市			一								
若松市			二								
福島市、信夫郡一部			八								
郡山市			四								
水戸市			七								
宇都宮市			一								
足利市			五								
千代田市			二								
東京府			四								
福島市			三								
甲府市			二								
岐阜市			二								
大垣市			四								
静岡市、安倍郡			〇								
濱松市			一								
沼津市			四								
清水市、庵原郡			三								

東 京 府	千 葉 市	足 利 市	宇 都 宮 市	水 戸 市	郡 山 市	福 島 市	若 松 市	鶴 岡 市	米 沢 市	山 形 市	釧 路 市	室 蘭 市、 幌 別 村	小 樽 警 察 署	區 域
一一、六二	四六	一	二八	三七	五	二二	二二	二六	一一	一九	七	五	二	計
一三四	〇	〇	二	〇	一	一	〇	二	〇	一	〇	〇	〇	電車停留場 雑沓の場所 不注意
三九	〇	〇	二	〇	〇	〇	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	車輛故障
四〇一	一五	〇	三	五	〇	〇	〇	一	〇	一	〇	一	〇	逆行又は 追行又ハ 突
一四八	九	〇	一	〇	一	五	〇	〇	〇	一	二	二	〇	制限外の 速
〇	〇	〇	二	〇	〇	〇	五	一	一	一	〇	〇	三	未 熟
一三〇	〇	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	一	二	〇	〇	二	無 免 許 運 轉
二九八	〇	一	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	二	〇	〇	一	軌道横斷 意 踏 切 不 注
二七三	〇	六	一九	三	一	二	一一	二	四	三	〇	〇	〇	計
一五八五	〇	三	九	二	〇	〇	一	二	四	一五	〇	〇	〇	歩行者等に 直後横斷 車の直前 軌道及び 道路横斷
四三五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五	〇	〇	六	〇	〇	〇	

[illegible]

大鹿 連兒 島市 市	區 域	計	操縦者等に過失ある場合					歩行者等に過失ある場合		
			電車停留場 雑沓の場所 不注意	車輛故障	逆行又は 突制 速限外 の力未 熟	運無免 轉許	軌道横斷 踏切不注意	計	車の直前 直後横斷 道路及 び軌道横斷	
一〇五 三七八		〇 一七	一 八	一三 四	二 三〇	八 九	二 一三	〇 三三	一九 四七	〇 一

(リ) 交通事故死傷者數 年齡別 (昭和四年)

區 域	七未滿	七以上	一五以上	二〇以上	三〇以上	四〇以上	五〇以上	六〇以上	七〇以上	計
札 館 市、 龜 田 郡、 上 市	三三	一六	二一	一七	二〇	一四	二七	一六	二	八三
磯 郡、 警 察 署	一五	七	四	八	一	二	七	一	〇	四六
小 樽 警 察 署	一五	七	四	八	一	二	七	一	〇	四六
旭 川 警 察 署	一五	七	四	八	一	二	七	一	〇	四六
室 蘭 市、 幌 別 村	一五	七	四	八	一	二	七	一	〇	四六
釧 路 警 察 署	一五	七	四	八	一	二	七	一	〇	四六
山 形 市	一五	七	四	八	一	二	七	一	〇	四六
米 沢 市	一五	七	四	八	一	二	七	一	〇	四六
鶴 岡 市	一五	七	四	八	一	二	七	一	〇	四六
若 松 市	一五	七	四	八	一	二	七	一	〇	四六
福 島 市、 信 夫 郡、 一 市	一五	七	四	八	一	二	七	一	〇	四六

郡 水 戸 市	八	三	二	〇	一	二	四	三	三	三〇
宇 都 利 市	一五	二	〇	一	一	〇	〇	〇	〇	三三
足 利 市	七	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	一〇
千 葉 市	一三	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
東 京 府	一四	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
横 濱 市	一六	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
横 濱 市	一四	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
福 井 市	一八	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
甲 府 市	一〇	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
岐 阜 市	一〇	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
大 垣 市	一五	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
静 岡 市、 安 倍 郡	一三	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
濱 松 市	一三	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
沼 津 市	一三	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
清水 市、 庵 原 郡	一三	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
津 市	一四	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
四 日 市	一六	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
宇 治 市	一六	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
大 津 市	一六	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
神 戶 市	一六	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
姫 路 市	一六	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
尼 崎 市	一六	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三
明 石 市	一六	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	三三

(イ) 交通警察の組織権限 (昭和四年末)

報 告 者	區	域	課 係——課 係員數
茨城縣	足利市	二。	一般交通事故取調（警部補）一、一般交通整理（巡查）一 庶務係。 庶務（交通）係二、交通事務一 保安課。 自動車技手一（他は兼任） 保安課長—地方警視。交通係（交通警察全般、區別せず）四 保安課長—警視、交通係長—警部。交通事務に關する係八 保安課交通係（警部補）二、同（內自動自轉車係二）（巡查部長）四、同（巡查）六 保安課交通係（巡查部長五） 市内交通係長（警部補）二、同（巡查部長）五、同交通取締事務（巡查）六 九（内、乗馬によるもの五）
山梨縣	山梨市	神戶市	阪神國道及び管内一般交通に關する係二 交通安全關係—保安課一、西警察署一、東警察署一、宇品警察署一 尾道警察署一 吳警察署一 福山警察署一 地方警視一、警部一、巡查部長一。一般交通三、自動車一、自轉車一、驛取締二、外一九 交通安全事務二、交通事務六 保安課、交通係三。高知警察署交通に關する係一 交通安全課は普通警察官にて兼ねて勤務、特設したるもの無し 保安課。自動車に關する係四、電氣軌道に關する係一
廣島縣	廣島市	尼崎市	
德島縣	德島市	山口縣	
高知縣	高知縣	佐賀縣	
鹿兒島縣	鹿兒島縣	警察部	

報告者	區域	巡查の數	警察部又は 警察署内勤 務のもの	上記の内の交通關係に於ける勤務
北海道廳	小樽警察署 旭川警察署 室蘭市、幌別村 釧路警察署	二七 一〇五 五六 六九	二 七三 二 三三	兼務 兼務 三〇 四七
茨城縣	水戸市	九九	一	一
栃木縣	宇都宮市	一二二	一	二
千葉縣	足利市	四八	二	二
警視廳	東京市	六六	二〇	六六
神奈川縣	横濱市(水上署を除く) 横須賀署	一一四 九三 九五	一 九 一〇	六八 七一
福井縣	川崎署	九一	九	一四
山梨縣	甲府市	九六	一	一〇
計				

[illegible]

(ハ) 改善に關する提案

カード式事故表制定に關する鹿児島署の提案

鹿児島署に於ては大正十年以降交通火災犯罪其の他の警察事故を一事件一表式にカードを作成し必要事項を記入保存しあるも未だ不十分なるを免れず、豫め總ての警察事故に對し綿密なる統計資料を得る手段として細部に渉る様式を備へたるカードを作成し事故發生の都度取扱者に於て精細に記入する様規定し置く必要あり。

第四 街路統計

(イ) 延長、面積、勾配、屈曲半徑及び街燈數 (昭和四年末)

都 市 名	總延長	歩車道の別ありもの	延長 (米)	鋪裝のもの	軌道鐵道のありもの	照明設備ありもの	街燈數	最急勾配	車道最急横斷勾配	屈曲半徑 中心線 (米)	街路面積 (平方米)	市面積 (平方呎)
室蘭	12,395	427	2,736	0	0	1,299	1,300	1/6	1/2	1,300	1,300	1,300
弘前	4,482	1	0	0	0	1,095	1,095	1/6	1/2	1,095	1,095	1,095
盛岡	2,671	244	0	0	0	4,331	4,331	6%	3%	4,331	4,331	4,331
仙臺	20,121	1,124	8,338	7,421	6,858	4,331	4,331	6%	3%	4,331	4,331	4,331
郡山	28,510	1,124	8,338	7,421	6,858	4,331	4,331	6%	3%	4,331	4,331	4,331
水戸	5,858	10	10	10	10	65	65	1/8	1/8	65	65	65
高崎	3,007	1	1	1	1	782	782	1/8	1/8	782	782	782
東京	1,355,419	32,554	1,212,699	1,744,559	59,375	2,164	2,164	1/8	1/8	2,164	2,164	2,164
横濱	2,004,753	64,944	88,735	45,828	59,375	2,164	2,164	1/8	1/8	2,164	2,164	2,164
横濱須賀	2,147,711	5,155	4,100	4,100	3,856	4,100	4,100	1/8	1/8	4,100	4,100	4,100
金澤	3,011,711	1,021	1,021	1,021	5,471	5,471	5,471	1/8	1/8	5,471	5,471	5,471
福井	73,967	110	110	110	730	730	730	1/8	1/8	730	730	730
濱松	3,850,000	1,455	1,510	1,510	4,800	4,800	4,800	1/8	1/8	4,800	4,800	4,800
沼津	1,079,766	1,121	1,121	1,121	4,800	4,800	4,800	1/8	1/8	4,800	4,800	4,800
名古屋	2,569,369	3,411	6,594,404	6,594,404	3,411	3,411	3,411	1/8	1/8	3,411	3,411	3,411
古屋	2,569,369	3,411	6,594,404	6,594,404	3,411	3,411	3,411	1/8	1/8	3,411	3,411	3,411

一 豐	二 瀬	三 大	四 大	五 西	六 松	七 尾	八 福	九 丸	十 高	十一 平	十二 鎮	十三 京	十四 大
橋	宮	戸	津	阪	宮	江	道	山	山	知	塙	浦	城
二八、〇五五	一六八、三九六	一四〇、八九九	四九、三三五	二、三六〇、六七四	一〇七、四六〇	七、〇六三	七、〇六〇	一〇四、七九八	五、二六七	九、三三三	一、五三三、五九九	九、五〇七	五、七〇〇
〇	〇	〇	〇	〇	一、二〇〇	一、一三二	〇	〇	〇	〇	一、六四三、八	一、六四三、八	一、六四三、八
〇	〇	〇	〇	二〇八、二五〇	三、〇五〇	一、一三二	〇	〇	〇	〇	一、五八六、〇	一、五八六、〇	一、五八六、〇
四、一六四	一、二一八	〇	一、一〇〇	九、五七六	一、八二〇	〇	〇	〇	〇	〇	一、六七九	一、六七九	一、六七九
三、四〇九	〇	〇	〇	一、四七、五五四	一、八二〇	一、二二二	〇	〇	〇	〇	一、八〇二	一、八〇二	一、八〇二
三、六九	〇	〇	〇	市設 二、一七八	一、一三三	一、八〇	〇	〇	〇	〇	二、六五八	二、六五八	二、六五八
一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	六、六%	五、%	三、%	〇	〇	〇	〇	一、〇%	一、〇%	一、〇%
一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	二、五%	三、%	三、%	〇	〇	〇	〇	一、二%	一、二%	一、二%
幅七米以上の分	同	同	同	一、五二〇、一四五、五九	三、〇〇〇	七、三	一、三六六、〇七	一、九五、二二	二、三三、八〇	九、一四三	六、九四、六三	六、三、八〇三	二、七四、八五
一、九、六九	八、一三	二、八四	一、三、六	一、八、三	五、二九	五、四九	一、〇、七	一、〇、七	一、〇、七	一、〇、七	一、〇、七	一、〇、七	一、〇、七

# (口) 舗装の種類別延長、面積及び耐久力 (昭和四年末)

表中、耐久力は、過去の経験又は推定による耐久力(壽命)を示す。

都市名	種 類	延長(米)	面積(平方米)	耐久力(年)	種 類	延長(米)	面積(平方米)	耐久力(年)
室 蘭	シート・アスファルト	四七	三、四七	年々小修理を施して	タール・マカダム	二、三三九	一、四〇八	同

仙 臺	ワレンナイト、ビ チエーリシツク	一、八四三	二、九八四	八	ワレンナイト、ビ チエーリシツク簡易	二三八	四、二二	八
横 須 賀	金剛アスファルト プロツク(人道)	一、九	四、八	八	金剛アスファルト プロツク(人道)	一、四八七	四、六六	八
福 井	アスファルト塗布 砕石道(車道)	二、一三八	二、六三八	三	アスファルト塗布 砕石道(車道)	六二八	七、八二八	一〇
滋 賀	アスファルト塗布 砕石道(車道)	二、一三八	二、六三八	三	アスファルト塗布 砕石道(車道)	六二八	七、八二八	一〇
名 古 屋	アスファルト塗布 砕石道(車道)	二、一三八	二、六三八	三	アスファルト塗布 砕石道(車道)	六二八	七、八二八	一〇
大 阪	アスファルト塗布 砕石道(車道)	二、一三八	二、六三八	三	アスファルト塗布 砕石道(車道)	六二八	七、八二八	一〇



都市名	種類	延長 (米)	面積 (平方米)	耐久 (年)	種類	延長 (米)	面積 (平方米)	耐久 (年)
大阪	小舗石	八〇	四四九	—	石塊	六九	三二五	二五
	コール・タール	二、九八	一七、七	—	ソリダット	四〇	二六	二五
	ブラツク・ベース	二二	六元	—	アストン	四、七三	二六、四四	—
	アスファルト	一、四五	六、六三	—	アスファルト類	一、七	一五、〇九	—
	ビチューマルス	七、七九	四二、六四	—	試験舗装	三、八三	二、二九	—
西宮	シート・アスファルト	一、二〇	五、八七〇	—	簡易アスファルト	一、〇〇	六、〇五〇	—
	マカダム (アスファルト)	九〇	九、九〇	—	アスファルト、煉瓦、ブロック等試験舗装	四〇	一、八〇	—
高知	コンクリート	四、三九	一六、九六	—	クリンガー	七六	五、七八	—
	アスファルト	一七	九二	—	アスファルト、ブロック	二七	二、二六	—
	木塊	一七	二九	—	ストーン	三〇〇	一、六八七	—
平壤	混凝土ブロック (人道のみ)	二、七四	七、一	—	計	四、八四	一八、八九六	—

備考 一 名古屋市の分、面積は軌道敷を含まず、歩車道全部の舗装工事を施行せるもの。橋梁其他部分的舗装を施せるものを除く。  
備考 二 大阪市舗装道路面積及び舗装費用(昭和五年三月現在)

(大阪市土木部計畫課長 内山新之助報告)

舗装種別	面積	百分比	単価 (坪當)	舗装種別	面積	百分比	単価 (坪當)
木塊	一五、四〇〇	二九、〇〇	三、二四	コンクリート	五、三〇〇	一〇、一四	二、五—三
煉瓦	三〇、〇〇〇	五、七	二、七	ソリダット	七〇	〇、〇一	—
コンクリート	八〇、五〇〇	一五、四六	一、五	ブラツクベース	一、二〇	〇、〇四	—
板石	五九、五〇〇	一一、四三	一、七	アスファルト	七、六〇〇	一、五三	—
シートアスファルト	八〇、三〇〇	一五、四二	一、五	アスファルトブロック	二、〇〇〇	〇、三七	—
アスファルトコンクリート	二八、三〇〇	五、四三	一、六	アスファルト類	四、八〇〇	〇、九一	—
ターピア、マカダム	一、五〇〇	〇、二八	—	ビチューマルス	一、三〇〇〇	二、四九	—
セメントコンクリート	七、〇〇〇	一、三三	一、五	試験舗装	六〇〇	〇、一三	—
小舗石	一五〇	〇、〇一	—	合	五、一、〇〇〇	一〇〇、〇〇	—
石塊	一、一〇〇	〇、二一	七〇	計	—	—	—

追記 その他都市に於ける街路の主なる舗装材料は次の如くである。(東京市)瀝青混凝土、木塊等、(横浜市)トベカ式アスファルト、グリーナイト・ビチューリシク式アスファルト等、(金澤市)混凝土塊等、(松江市)高級舗装シートアスファルト、(松山市)アスファルト簡易、(鹿兒島市)アスファルト・ブロック。

## 第五 交通安全施設

——交通標識及び信號機等交通安全施設に關する各地の實情(報告者別)——

- 仙臺 市—安全地帯及び照明施設あり。
- 茨城 縣警察部—水戸市内方向標一八、警戒標六あり、相當の效果を認む。
- 千葉 縣警察部—千葉市内重要の地點各所に交通標識を掲ぐ、信號機なし。
- 警視 廳交通課—東京市内用として、交通信號機九五(内、三五は寄附)、交通整理柱三五八、測秒時計七八、ロードメーター(貨物自動車積算測定用)四組あり。又信號機以外の交通標識は一定の様式による。
- 神奈川 縣警察部—横濱市内に交通信號機一あり。交通標識は大正十一年内務省令道路警戒標に關する件の圖案に基き自動車協會に於て作製中(横濱五〇餘、横須賀一五、川崎一三)。
- 福井 縣警察部—街角等交通複雜の箇所へ「左側通行」標識を建設。
- 名古屋 市—市中央部主要幹線路に標識燈を附したる電車乗降用安全地帯、重要地點に照明施設あり。
- 之等施設は既設街路に於ては往々理想の實現上困難の場合がある。本市に於ける最重要幹線路は幅員約二四・五米に過ぎず、故に之に安全地帯として、一五米を占用するときは該地に於ける車道有効幅員は疾行車輛一車線と僅かなる餘地を存するのみにして車道交通の有効率を減する虞あり。現在の街路照明建設位置は概ね歩道の車道側に建設するを常とするも斯の如きは歩道の有効面積を減する缺點を有する故、照明設備は各店舗に取付くる特別の方法を講じ歩道利用効率を大ならしむる工夫を要する。
- 機斷歩道施設採用の計畫あり。
- 西宮 市—安全地帯及び横斷歩道については未だその必要なきにつき施設なし。
- 松江 市—照明燈は各街路共殆んど設置せり。交通安全に及ぼす效果大である。
- 尾道 市—主としてアーチ形の照明燈を街路の一部分に存するのみなるも、交通安全に相當效果あり。
- 山口 縣警察部—山口自動車組合にて踏切注意標三箇建設。
- 愛媛 縣警察部—各郡市内の要所に左側通行の標示をなす。
- 高知 市—安全地帯、横斷歩道等の設けなし。高知驛より潮江橋に至る區間の新設街路にのみ沿道關係住民の寄附に依る街燈の設けあり交通安全に一般に效果あるものと認む。
- 鹿児島 縣警察部—豫め事故發生の虞ある場所街角坂路等には各種組合に交渉し其の費用を以て標識を建て又は點燈し専ら交通の安全を期す。
- 鹿児島 市—應急策として極要なる街角の剪除を行つて居る。
- 大平 府—府費を以て街燈六八五燈施設す。交通安全に及ぼす效果大である。
- 大邱 府—街燈を施設す。效果極めて大である。

## 第六 交通安全運動

——交通取締に關し公衆訓練の方法並に交通安全に關する公私團體の活動の概要(報告者別)——

北海道廳警察部—札幌市に於ては警察署長を會長とせる交通協會あり、會員一五〇名より成り、交通雜沓の場合會長の指揮の下に公衆に對し交通上の訓練並に交通事故防止に努め成績良好である。函館市に於ては交通安全協會を組織し毎週金曜日を以て交通安全デーと定め當日道路沿道に左側通行の旗を樹て公衆に注意を促し、第三金曜日には署員並に協會員協力し左側通行等道路沿道の整理に努む。

茨城 縣警察部—警察部保安課各警察署茨城縣自動車協會連絡して一年二回乃至三回(一回は一日又は二日間)交通安全デーと稱して各交通頻繁なる場所にポスターを貼布し印刷物を撒布又は配布して公衆の訓練を行つて居る。

又水戸警察署、水戸市役所、茨城縣自動車協會水戸支部等協同して右交通安全デーに準じ交通取締に關する公衆訓練を爲す。

茨城縣自動車協會水戸支部(自動車營業者の團體)ありて交通事故防止のためポスター貼布ビラの撒布、自動車を利用する交通安全の宣傳交通標識の樹立等交通安全に活動して居る。

千葉 縣警察部—千葉縣に於ては自動車協會あり、千葉市に千葉支部を設け交通安全デー等を實施し警察署と協力して交通事故防止に努めて居る。

警視 廳交通課—交通事故防止其の他一般交通整理上に貢獻し業界の發展向上を圖る目的を以て象潟警察署管内に於ける自動車所有者、オートバイ所有者、車庫賃貸業者、運轉手を以て組織せられたる象潟警察署管内交通事故防止會、其の他此の種の團體約四〇あり。

神奈川 縣警察部—隨時各所に交通に關する講演會映畫會を開催。ポスターの掲示、ビラの配布を行ふ。公私聯合の神奈川縣自動車協會あり、縣下自動車運輸營業の發達改善を助長し會員相互の連絡親睦を圖り危害防止の方法を講じ交通の安全を期するために前項事業の外優良自動車運轉手養成の講習會(年二回)開催並に同表彰及び安全に關する諸般の施設をなす。

福井縣警察部―祭禮等交通混雑時在郷軍人團青年團等を使役して左側通行の訓練をなす。  
山梨縣警察部―交通協會なる私設團體あるも不振。  
廣島縣警察部―廣島縣及び同縣下主要交通業者を以て組織せる廣島縣交通安全協會あり。  
山口縣警察部―山口自動車組合、山口青年團あり、祭禮其の他雜沓時交通安全の任に當り、その成績概して良好。  
愛媛縣警察部―宣傳ポスター或はビラ等を配付し交通觀念の訓練普及に努む。  
各市町村の保安組合消防組等に於て祭典綠日其の他雜沓の場合警察官を援助し相當の成績を擧げて居る。  
鹿兒島警察部―鹿兒島市には殆んど各町全部に安全組合組織せられ各組合を統一せる聯合會あり専ら交通火災盜難防止等安全を期すべく訓練に努めつゝあり。時々安全週間等を設け青少年團員等をして警察官と共に街頭に立たしめ左側通行勵行に當らしむ。  
自動車自動車人力車荷馬車事業者等各同業組合組織せられ専ら交通事故防止に就て各組合協力し又は前記團體と協力し安全週間施行等の場合は小旗又はマーク等を適宜掲揚し交通訓練の宣傳に努む。  
安全週間等の施行に當りては各中小學校幼稚園等へ交渉して交通上の規則遵守方法として訓話し又はマーク等を胸間に附せしめ宣傳に努めしめ學生兒童の違犯事項を平素に於て各學校別に統計し置き時に之を示して反省を促して居る。  
同署に於ては毎年一回「警察の渠」と題する冊子を作成し平易なる警察統計を示して國民警察普及の手段として各官公署學校各種組合等へ講話資料として配布して居る。

關東廳警察部―大連市に於ては、毎月一回乃至二回交通訓練デーを定め警察署長以下全員出勤交通整理に當り、之に關し新聞雜誌を利用して交通記事掲載せしめ、又宣傳ポスター、パンフレット等の頒布、活動寫眞館發行プログラム餘白に交通標語警句等を記入せしめ或は交通關係映畫を上映せしめ、各學校長をして時々交通訓話を爲さしめて居る。昭和五年六月設立せられたる滿洲交通協會ありて、交通施設の改善、公衆及び小學校兒童への訓話、交通問題に關する調査研究等を行ふ。昭和五年七月組織せられたる大連自動車營業組合、大正十三年創立の滿洲電氣株式會社等も交通改善に關係して居る。

### 第七 道路占用規程比較

本事項に關しては後段「街路交通取締に關する地方廳令比較」參照

報告者名及び規程の名稱	適用の範圍	占用料を減免し、又減免し得る範圍	占用期間 限度(年)	備	考
水戸市 道路占用規程	市道及び附屬物	公益となるべき事業、市長に於て特別の事由ありと認めたるもの(減免)。 占用期間三日以内のもの(免)	五		
宇都宮市 道路占用規定	市道として市長の認定したる道路及び附屬物	公益と認むべき事業、單に家屋の出入に供するものにして交通上支障なきもの、市長に於て特別の事由ありと認むるもの(免)	五		
千葉縣 道路占用規程 (大正十一、六、二十、縣令)	國道府縣道及び附屬物	公共の利益となるべき事業のため、又は特別の事由ある場合(減免)	五		
横須賀市 道路占用規程 (大正十、八、三、告示)	市長の管理に屬する市域内の道路及び附屬物	社寺學校病院其の他學藝美術及び慈善又は一時限のもの(免)	五		
福井市 道路占用規程 (大正十二、五、二十三)	市長の管理に屬する道路及び附屬物	公益の用に供するもの、期間十日に滿たざるもの(減免)	五		
名古屋市 道路占用規程 (大正九、十、三十一、告示) (大正十二改正昭和四告示)	道路法に依る道路及び其の附屬物	公共の利益となるべき事業又は特別事由ありと認めたるもの(減免)	五		祝祭日綠日等慣行に依る一時の占用にして路端より三尺以内の占用は許可を要せず。

神奈川縣——道路商地域として、從來慣行ある地域にして而も交通上多大の支障なき場所及び、從來慣行ある地域にして交通

備考三 西宮市に於ける街路占用の主なるものは電燈電力供給會社の電柱建設、瓦斯管の埋設、上水道酒造用水輸送管（市内には酒造用原料に適する湧出井水ありて該井戸端より酒造藏又は他地方に搬出のため港灣附近の搬出場に至る間に埋設せる土管延長約一萬間に及ぶものあり）にして其の他は建築用板圍緣日に於ける露店等一時限りのものなるが許可取扱上別に内規を設けたるものなく各出願に當り交通上の支障を調査して許可を決定する。但し市内の街路は各狹隘なるを以て毎夜閉店する露店の如きは之を許したるものなし。又街路上兩側人家の屋根より屋根に張る布帛製天幕（地上十五尺以上）のためにするもの及び公益とする照明點燈用燈柱は占用料を免除して居る。

追記　以上掲げたる以外の地方に於ける概要——（金澤市）「道路占用料標準」による。（宮市）「道路占用規程」により道路の占用は次の制限に依るべきこと——路面を占用する場合（一）電柱は道路の同一側に建設し對側に路上建設物あるときは五間以上錯立せしむること（二）電柱は道路縁より二尺以上を隔りたる場所に建設せざること等、又地下を占用する場合は（一）電線路又は瓦斯管路本線は道路幅員の中央六分の四の地下に支線は兩側六分の一の地下に築設すること（二）電線路及び瓦斯管路の本線の頂部は路面との距離は八尺以上たらしむること等。なほ占用期間は三箇年以内。（松江市）大正九、十二、十六「市道及其附屬物占用規程」による。（福山市）「道路占用規程」により祭典縁日等地方慣行々事の場合露店等のため警察官吏の承認を得て一時路端を占用するは市長の許可承認を要せず。（松山市）内規により電柱は道路の同一側とし對側に路上建設物あるときは五間以上錯立のここと等定む。

## 第八 街路に關する工事及び維持

—その交通に及ぼす影響並に之が施行方法取締—

仙 臺 市 宮城縣警察部、仙臺逓信局、同警察署、同瓦斯株式會社、市電氣局、同水道部、同土木課、同都市計畫課の間に協議決定したる「道路占用並工事施行に關する協定事項」(昭和二年十二月)あり、占用手續、占用位置、工事施行上一般、掘鑿工事施行方法、跡埋工事施行方法、路面補修舊並同費用負擔、橋梁添架に關する件につき定めて居る。次に之により其の主要なる協定事項を掲げる。

工事施行上一般に關する件——長距離に亘る工事は相當間隔を置き一工區の長さは軌道工事及び電線直接埋設のためには二百間、管路埋設のためには五十間を超過せざる範圍に於て成るべく之を短縮し且其の工區間に於ても必要なる横斷交通設備をなすこと。交通頻繁なる道路に在りては晝夜兼行其の他作業力の増加に依り成るべく短期間工事の竣功を努め已むを得ざる場合は夜間交通減少したる時に於てのみ作業を施行すること。

東 京 市 東京市道路協議會の街路掘鑿に因る交通障礙對策に關する協定左の如くである(東京市土木局長近新三郎報告)。

街路掘鑿に因る交通障礙の對策に關する件(昭和四年十一月一日第五十二回道路協議會に於て協定)

- (一) 掘鑿工事は堀坑部を片押式に逐次速に埋戻し開放の時間を短縮する様努むること。  
堀坑部にして掘鑿後三日以内(特定夜間施行區間は即日)に埋戻し難き箇所は充分なる土留を施し安全に交通し得る様板張覆工を爲すこと但し板張覆工を爲すに因り堀坑の目的を達し難きとき其の他必要止むを得ざる場合は特に道路管理者の承認を受け之を爲さざることを得。
- (二) 電車軌道交叉點の中心より路幅(交叉道路の路幅は其の廣きものに據る)の二倍に亘る區間及別に定むる區間を特定夜間施行區間とし右區間に於ては左の場合を除くの外午後十一時より翌午前五時迄の間に工事を施行すること。

- (イ) 板張覆工下に於て工事又は作業を爲すとき。
- (ロ) 沿道宅地と連絡し同時に引込管線工事の施行を要するとき。
- (ハ) 突發事故に對し應急の措置を必要とするとき。
- (ニ) 其の他道路管理者に於て
  - (一) 交通上支障なしと認めたるとき。
  - (二) 工事の性質上已むを得ざるものと認めたるとき。
  - (三) 工期短縮の爲晝夜兼行の必要を認めたるとき。
- (三) 特定夜間施行區間に於ては掘鑿土、不用材及殘材を道路上に堆積せざること但し特に必要ある場合は道路管理者の承認を受け二十四時間以内に限り路上に之を假置し得ること。
- (四) 止むを得ずして工用器具機械類、使用材料を特定夜間施行區間の道路上に假置する必要がある場合は道路占用の位置、期間及面積に關し所轄土木局道路課區出張所の指示を受け之を決定すること。
- (五) 特定夜間施行區間に於ては特別の事由なき限り混凝土の現場練及現場にて石拵へ其の他工用材料の加工を爲さざること。
- (六) 掘鑿工事中豫期せざる路下支障物件現出したる場合は其の管理者に速に措置の要求を爲すこと。  
前項の要求を受けたる者は速に其の措置を完了すること若し要求の日より三日以内(特定夜間施行區間は即日)に其の措置に著手せざるときは要求者は遲滞なく堀坑を埋戻し又は充分なる土留を施し安全に交通し得る様板張覆工を爲すこと。
- (七) 電車軌道交叉點の外左區間は特定夜間施行區間とす(左の區間略)。

〔なほ本市には警視廳、逓信省逓信局、東京逓信局、臨時電信電話建設局、東京市道路局、同電氣局、同水道課、同水道擴張課、同下水課、東京電燈株式會社、東京瓦斯株式會社の間に於て協議決定せる「道路占用並工事施行に關する協定事項」がある。〕

機 須 賀 市 地下埋設物及び地上施設整理のため關係官廳會社等相互打合の上同一系統に屬するものは可及的同時施行の方法を採る。

名古屋 市―街路に關する工事に關しては中心部交通頻繁なる個所に對しては可及的短期間に施工し同一系統交通路線に對しては同期間に一箇所以上執行せざる様留意する外、鋪裝工事等に關しては晝夜共施工し、且つ交叉點等交通上重要な箇所は深夜施工する。街路兩側店舗の種類に依り即ち小賣店盛り場等に在りては比較的營業閑散なる二月、八月の時期を選び市場街に在りては八月、九月の時期を選ぶ。郊外と市心を連絡する街路にありては交通輻輳する朝夕を避け比較的閑散なる日中に於て執行する。

街路掘鑿に關しては官公署及び私會社との連絡方法として凡て掘鑿前に於て必ず照會及び願書を提出せしめ管理者たる本市に於て調査の上施工期間及び時期等交通上大なる支障なき程度に施行せしめ特種の箇所には夜間作業をなさしむる等關係係員と連絡を密にし執行して居る。年末年始の掘鑿は十二月十五日より翌年一月十五日迄の間許さず。

特に關係を及ぼす事著しき物に對しては管理者主催の下に地下埋設物並に道路占用關係者其の都度協議會を開催し街路掘鑿並に地下埋設物等工事の實施及び手續に關する具體的協議を遂げ現在及び將來の方針を協議しつゝあり。(將來は毎月一回管理者主催の下に關係者協議會を開催する計畫あり。)

清掃作業は夜間交通閑散なる時刻(午後十一時より午前五時迄)を選び實働平均五時間の豫定を以て撒水自動車を使用し鋪裝面洗滌をなし五日に一回、一箇年七三回の内降雨利用三五回に及ぶ。

撒水自動車は晝間作業にして、飛沫防止等の點よりして從來後部に設備せし放水管を頭部に變更し、特に本車に限り右側通行を行ひ交通阻害と危險の緩和をはかりつゝあり。尙本市撒水指定路線は幅員一三・五間もの大部分を占め、兩側は歩道中央は電車軌道敷にして、車道片側鋪裝幅員一五尺四寸に設定されたる關係上片側溝敷を加へ延幅一七尺一寸にして馬車手車等常に此の部に停止或は逆行しつゝあるを以て其の幅員三尺乃至四尺は阻害さるゝ故放水幅員一二尺を以て適當と認め撒水交通上の安全をはかつて居る。

豐 橋 市―連續地區内に於ける諸工事は春秋の蒔撤出期に行はす。

瀬 戸 市―街路に關する工事は晝間に限り行ひ交通頻繁なる箇所は片側づゝ施行するも、交通上差したる影響なし。街路掘鑿に關しては關係方面と豫め打合せの上行ふ。

尾 道 市―(一)瓦斯會社等に於て街路掘鑿の場合に於ては其の時期を豫め通知せしめ係員立合の下に之を執行せしめて居る。

(二) 清掃撒水除雪等の街路交通に及ぼす影響は無い。

高 知 市―晝間工事施行上支障を來す場所に於ては夜間一般交通杜絶の時刻を俟て執行。

佐 賀 市―家屋建築改築替替等の場合は目隠板圍等を施設せしめ交通に害を及ぼさず且つ支障なき程度に許可して居る。(佐賀市長野口能毅報告)

#### ○追 記

機 演 市―街路掘鑿に關しては、電話電信電燈瓦斯水道事業者と協議し一年度内掘鑿箇所の豫定表を作成し其の連絡統一を計る。

鹿 兒 島 市―年末に於ては市街交通頻繁なる街路の工事は之を見合せ支障の緩和を図る。

## 第九 街路交通取締に關する地方廳令比較

- 一 左記は街路交通取締上比較的閉却され又重要な若干の事項につき地方廳令の比較を試みたものである。
- 二 表中、警は警視廳令、交は交通取締規則、道は道路取締令施行細則の類、街は街路取締規則、自は自動車取締令施行規則の類を表はす。

### (イ) 車馬操縦者の信號

右折せんとするときは右手を舉げること(關東廳、自)。右手を開き右方水平に舉げること(警、交)(鹿兒島、道)。左折せんとするときは左手を舉げること(關東廳、自)。左手を開き左方水平に舉げること(警、交)(鹿兒島、道)。

曲角右折左折時(自動車)には一八・一八米前より高聲の音響器を鳴らし舉手を以て信號をなしつゝ徐行すること(茨城、自)。

他の車馬を追越せんとするときは音響器を使用するか又は掛聲其の他の合圖をなすこと(警、交)。

後者をして追越せしめんとするときは右手又は左手を開き右方又は左方水平に舉げ之を前後に動かすこと(警、交)。同、掌を前方に向けて前後に動かすこと(鹿兒島、道)。

停止せんとするときは右手又は左手を斜下に出すこと(鹿兒島、

道)。同、握りて斜下に出すこと(警、交)。

道路の交叉點に於て前進せんとするときは右手又は左手を前方水平に舉げること(警、交)(鹿兒島、道)。

警察官吏の信號に従ひ車馬の進行又は停止せんとするときは左手を舉げて後続車馬に告知すること(兵庫、道)。

道路の交叉點、曲角、橋梁、坂路(陸道内)若は雜沓の場所では自動車は絶へず音響器を鳴らすこと(山形、自)(兵庫、自)。泥濘の道路に於ても同(神奈川、自)。同、屢音響器を鳴らすこと(關東廳、自)同三〇間以上の距離より音響器を鳴らすこと(岐阜、自)自動車、行進の前方約一〇間以内に人牛馬又は諸車の通行するものあるときは相當警告を與ふること(福井、自)。

### (ロ) 併列進行、避讓

車馬は(濫りに)併列進行すべからざること(山形、道)(茨城、交)(警、交)(神奈川、道)(福井、道)(長野、道)(兵庫、自)(愛媛、道)(鹿兒島、道)。

自動車は諸車と並行すべからざること(神奈川、自)(岐阜、自)(關東廳、自)。

自転車及び自動車は並行し若は人に接近して疾走せざること(福井、道)。

貨物を積載せる荷雪舟に行き違ふときは空雪舟に於て避讓すること(山形、道)。

出火場に赴く消防車接近し來りたるきは車馬は避讓し進行を停止すること(警、交)。

### (ハ) 右折、左折、轉迴

車馬街角を通行するときは右は大廻り、左は小廻りをなすこと(佐賀、街)自動車につき同(福井、自)(朝鮮、道)(關東廳、自)。

道路の交叉點に於て右折せんとする車馬は車道の左側に一時停止し進まんとする方向の交通の開かるゝを待つて進行すること(警、交)。

交通頻繁なる道路に於ては止むを得ざる場合を除く外後退して方向を轉換せざること(神奈川、道)(愛媛、道)。

交通頻繁なる道路に在つては交叉點以外に於て車馬は反對方向に轉迴進行すべからざること(警、交)。

### (ニ) 交叉交通

車馬の進路交叉し衝突の虞あるときは他の車馬を左に見るものに於て一時停止し其の通過を待つこと(警、交)。

### (ホ) 車馬通行道路幅員制限

牛馬諸車は市街地に在りては各其の車輛幅員の二・五倍以上の道路たること(神奈川、道)(同、自)。

人家連檐の場所では車馬自體又は積荷の最突出したる部分の幅員の二・五倍以上の幅員の道路たること(警、交)。

一般の自動車については

九尺以上(千葉、自)。三・五米以上(山形、自)。三・六三米以上(茨城、自)。

並木溝渠敷を除き二間以上(岐阜、自)(佐賀、自)。

市街地及び人家連檐の場所四間以上、他三間以上(關東廳、自)特に指定したる市街地二・五間以上、其の他二間以上(長野、自)神戸市内三間三尺以上、其他都市二間三尺以上。長さ一六尺未満の車輛は神戸市内三間以上。他都市二間以上(兵庫、自)。同一車體のもの二輛以上並行し得る道路(福井、自)。

自動車幅員外法六・五尺以内は一五尺以上、同五・七尺以内は一  
二尺以上、同四・五尺以内は九尺以上（愛媛、自）。

人家連檐の場所にして歩車道の區別ある道路に在つては車道幅  
員五米以上、同歩車道の區別なき場合六米以上。人家連檐せざ  
る場所に於ては自動車幅員の二・五倍以上。車輛幅員一・六七米  
長さ三米未満のものはその幅員の二・五倍以上（警、自）。

一定の路線又は區間に據る營業路線に運轉する自動車については  
一二尺以上（千葉、自）。五米以上（山形、自）。

#### (ハ) 横斷歩道通行

車馬は横斷歩道に停止せしこと（警、交）。

車馬は歩行者に危険なきことを確かめたる後に非ざれば横斷歩道  
を通過せしこと（警、交）。

自動車は横斷歩道上に於ては徐行すること（警、自）。

#### (ニ) 電車停留場傍通過

市街地の停留場に在る乗客乗降中の電車の側方を通過せんとする  
疾行車馬は停留場の後方に於て一時停止し電車の發車を待つこと  
（警、交）。

安全地帯の設けある場所に在つては交通上危険なきことを確めた

#### (チ) 軌道敷内通行

車馬は電車の通行を妨害せざる様注意すること（兵庫、道）。

牛馬諸車は軌道敷を通行すべからず。但し自動車及び自動自轉車  
にして軌道運轉車の妨害とならざる様通行するは此の限でない  
（岐阜、道）。

軌道敷内は已むを得ざる場合の外通行せざることを。但し貨物自動  
車（郵便物、新聞紙輸送中のものを除く）及び牽引自動車以外の  
疾行車馬は電車の進行を妨げぬ限り通行し得（警、交）。

自動車は鐵道又は軌道の踏切を通過せんとするときは一旦停車し  
汽車又は其の他の車輛の接近せざることを確認したる後通過する  
こと（茨城、自）（愛媛、自）。線路を見透し得ざる箇所につき同（兵  
庫、自）。

自動車、番人の配置なき鐵道又は軌道の踏切を通過せんとする  
ときは危険なきことを確認したる上通行すること（福井、道）。

#### (リ) 車馬連續進行時保持間隔

自轉車及び自動自轉車——一問以上（福井、道）。

荷車——六尺以上（岐阜、道）。

牛馬車——二問以上（愛媛、道）（鹿兒島、道）。

諸車——相當の距離（神奈川、道）（滋賀、道）（兵庫、道）。

疾行車馬——一〇米以上、緩行車馬——三米以上（警、交）。

自動車——一〇問以上（神奈川、自）（兵庫、自）（愛媛、道）。三〇  
問以上（佐賀、自）。四〇米以上（山形、自）。安全距離（關東廳、  
自）。

#### (ヌ) 速度制限（自動車）

市街地又は人家連檐の箇所毎時一二哩（福井、自）。

市街地毎時一四哩、他一六哩。京濱間第一號國道中川崎市六郷橋  
より鶴見町生麥ガード下に至る間人家連檐區域を除き毎時二五哩  
（神奈川、自）。

市街地及び人家連檐の場所毎時一六哩、他二五哩（關東廳、自）。

市街地及び人家稠密の場所毎時一〇哩（但し道路幅員四問以上に  
して交通頻繁ならぬ箇所は一五哩）、他交通頻繁ならぬ箇所は交通  
上支障なき限り二〇哩（愛媛、自）。

市街地毎時一二哩、他一六哩。夜間八哩（岐阜、自）。

市街地毎時一〇哩、夜間八哩。他一六哩、同夜間一〇哩（佐賀、  
自）。

市街地及び人家稠密の場所及び夜間毎時一二哩。街角、橋上、下

り急坂、又は雜沓の場所に於ては歩行者と同一の速度にて徐行す  
ること（長野、自）。

有效幅員五・四五米以上の道路では毎時三二・一八軒、五・四五米  
未満では二五・七四軒、三・六三米未満では一六・〇九軒。市街地  
又は人家稠密の場所では有效幅員五・四五米以上の道路にて二五・  
七四軒。交叉點、曲角、坂路、隧道、橋梁又は公園學校附近其の  
他交通頻繁なる場所では各一二・八七軒（茨城、自）。

乗用自動車、市街地毎時一四哩、他一六哩。人家連檐せざる有效  
幅員六米以上の屈曲少き道路にして所轄警察署長の指定したるも  
の一八哩。貨物自動車一四哩（千葉、自）。

積載量二四〇貫以上の貨車、市内及び人家連檐の場所毎時一〇哩、  
他の場所一二哩。他の自動車市内及び人家連檐の場所一二哩、他  
一六哩（兵庫、自）。

積載量一噸超過貨車又は乗車定員一二二人超過客車毎時二三軒以  
下、人家稠密又は路面幅員三・五米未満の場所及び斷崖上、夜間暴  
風雨雪時二〇軒（山形、自）。

毎時左記の通り。但し交通稀疎にして他に危害を及ぼす虞なき場  
合は八軒以内超過し得（警、自）。



道路の幅員	歩道の幅員			歩道の幅員	歩道の幅員
	有	有	無	有	無
道幅員	一、一米以上	六、六米以上	六、六米以上	六、六米以上	六、六米以上
歩道幅員	三、三寸	二、四寸	一、九寸	一、六寸	一、三寸
歩道幅員	二、六寸	一、九寸	一、六寸	一、三寸	一、三寸
歩道幅員	一、九寸	一、六寸	一、三寸	一、三寸	一、三寸
歩道幅員	一、三寸	一、三寸	一、三寸	一、三寸	一、三寸

(ル) 停車

交通の妨害となるべき場所に停車せざることを(關東廳、自)。  
自動車乗客の乗降又は積荷の積卸をなすときは路端若は歩道に接近して停車すること(警、自)。

(ヲ) 駐車

道路の左側端に道路と並行して置くこと(岐阜、道)。(兵庫、道)。  
進行方向に向け車道の左側端に駐むること、但し二輪自動車は歩

道上車道側に駐め得(警、交)。  
道路の交叉點、曲角、ガード又は橋梁より五米以内に駐めぬこと(警、交)。  
火災報知機、消火栓又は人孔より三米以内に駐めぬこと(警、交)。  
電車停留場側に於て其の標示柱より三六米以内に駐めぬこと(警、交)。  
建設物の出入口に駐めぬこと(警、交)。  
車道幅員一、一米未満の道路に在つては兩側に相對して駐めぬこと(警、交)。  
已むを得ずして交通頻繁なる場所又は危険の發生する虞ある場所に自動車に駐むるときは運轉者は運轉姿を離れぬこと(警、自)。

(ワ) 車輛構造

荷車について

四輪車は前後兩車輪の軌軌が重踏せざる構造とすること(山形、道)。  
四輪車は左右輪帶の中心距離前部と後部四寸以上の差を設けること(岐阜、道)。  
四輪車は前車輪と後車輪との車軸を異にし且つ前車輪は左右に廻轉するの構造となすこと(福井、道)。

自轉車及び自動自轉車について

音聲五〇米以上に達すべき音響器を裝置すること(福井、道)。  
自動車について

營業用自動車には常に豫備タイヤを備付けること(ソリッドタイヤ)使用の場合を除く(茨城、自)。

作業用自動車又は牽引自動車以外の自動車は護謨製以外の轍を使用せざること、ソリッドタイヤは厚さ四厘以上たること(警、自)。

泥除裝置を備ふること【此の規定は大多數の府縣令に見られる故一々掲記せず、たゞ特に之に關する詳細なる規定につきて此處に掲ぐ】。雨雪泥濘の際には厚さ一分以上横車輪の直徑に等しき良質護謨板又は鞣皮を用ゐ上部に金屬板を附したる泥除器を車輪と共に回轉せしめる下端は地面と一寸以内車輪外側と一寸五分以上の距離を保有し左右に動搖せざる取付けとし必要なときは車體内に藏置すること(福井、自)。

音響器は二個以上備ふること(茨城、自)(長野、自)(愛媛、自)(佐賀、自)。音響器は二種以上を設備し軟調の音を發するものたること(山形、自)。消防自動車以外は軟調の喇叭音を發するものなること(警、自)。軟調の音響器を備ふること(關東廳、自)。前面燈火は車輛の左右兩端に取付け通行者を眩惑せしめざる様

適當なる調光裝置を施すこと(警、自)。左右兩端に取付け前方一五間の距離に於て地上四尺以下を照射すべきこと(長野、自)(愛媛、自)。同三〇米に於て地上一米以下を照射すべきこと(山形、自)。同前方三六・三六米の距離に於て物體を明示すべき程度の光力を有するものたること(茨城、自)。  
車輛の前面左右に二箇の點燈裝置をなし、之にはアンケレンャーレンズを用ふること(關東廳、自)。

(カ) 車馬操縱者

年齢に關する制限について

荷車——一〇歳以上たること(岐阜、道)。一二歳同(滋賀、道)。一五歳同(鹿児島、道)。實車は一六歳以上たること(積載量三〇貫未満の小型車を除く)(愛媛、道)。  
荷牛馬車(及び同雪舟)——一四歳以上たること(山形、道)(福井、道)。一八歳同(神奈川、道)。

自轉車——一〇歳以上たること（神奈川、自轉車取締令）（茨城、交）。

自動車——一八歳以上たること（自動車取締令）（關東廳、自）。願書には視力聴力色盲等に關する醫師の診斷書を添ふこと（茨城、自）（岐阜、自）。

### (E) 車庫（自動車用）

車庫の位置は幅員三間以上の道路に面するか又は道路及び其の前面の空地を加へて三間以上ある場合たること（長野、自）。

室面積一〇〇平方メートル以上のもの又は三階以上の建物内に設くるものに在つては其の壁體、柱、階段、屋根又は直上階の床を耐火構造と爲すこと（警、自）。

室面積五〇平方メートル以上のものに在つては其の外壁を耐火構造とし屋根又は直上階の床は耐火構造に非ざるときは不燃材料を以て構成すること。但し不燃材料を以て被覆せる天井を設くるものに在つては此の限に在らず（警、自）。

前二號に規定する車庫の外壁の窓及び出入口の扉は鐵筋網入硝子造と爲すこと。但し其の面する隣地境界線、隣接建物若は道路の對側にある建築線より六メートル以上の距離を有するもの又は甲種防火戸を備ふるものに在つては此の限に在らず（警、自）。

室面積五〇平方メートル未満のものに在つては其の内面を不燃材料を以て被覆すること（警、自）。

建物の一部を車庫と爲すものに在つては之と他の用途に供する部分とを壁體を以て區劃し他の用途に供する部分には車庫を通過せしめて容易に屋外に出づることを得る様階段又は出入口を設くること（警、自）（茨城、自）。

床はコンクリート造其他警視廳に於て適當と認むる構造となすこと（警、自）。

車庫内部は地上五尺以下を不燃質物を以て構造若は覆被し且消火設備を爲すこと（千葉、自）。

### (タ) 廣告、宣傳

道路に廣告、宣傳ビラ等を撒布すべからざること（茨城、交）（警、交）。

道路に於て自動車上より廣告紙類を撒布せんとするときは警察官署の許可を要し、數臺の自動車を以てする場合は最後尾の自動車の外撒布せざることを（岐阜、道）（兵庫、道）。

市街地に於て航空機又は自動車により印刷物其他の物を撒布せんとするときは出發地警察官署の許可を要する（神奈川、道）。

車馬を特に裝飾して廣告、宣傳等の目的を以て通行せぬこと（警、

交）。

### (チ) 道路占用一般

道路管理者より道路占用の許可又は承認を受けたる者と雖、所轄警察官署の許可を受けざれば占用を開始し得ない（警、交）。

道路に神輿、山車又は踊屋臺の類を置き又は進行せんとするとき、竹木、土石類を置かんとするとき、道路に沿ひ風雨除又は雪除を設けんとするとき等は警察署の許可を受くべきこと。但し道路の占用に關し管理者の許可又は承認を受けたるものは此の限に在らず（滋賀、道）。

道路に廣告塔、街燈の類を建設せんとするとき、店出をなさんとするとき道路を掘鑿せんとするとき等、同右（兵庫、道）。

道路に於て荷造又は荷解を爲す場合には警察署に届出ること（茨城、交）。

道路に支柱を用ひ日除風除を設けんとするとき、工事のため道路に板圍繩張足場等を設けんとするときは道路管理者（國道府縣道は所轄土木出張所）を經由し所轄警察署の許可を受くべきこと（愛媛、道）。

### (ツ) 標燈、日除、看板の類の突出制限

第二篇 街路交通統制參考資料

標旗、標燈、看板、日除、雨除の類——路面上二・四二メートル以上の高さに於て六一種以内（警、交）。八尺以上に於て二尺以内（神奈川、道）（長野、道）（岐阜、道）（兵庫、道）（鹿児島、道）。

釣看板は地面上八尺以上の高さに於て二尺以内、日除は支柱を用ひず地面上七尺以上に於て二尺以内、掲燈は地面上七尺以上に於て二尺以内（山形、道）。

釣看板は地盤上一丈以上に限り二尺以内、軒檐は九尺以上は二尺、六尺以上は一・五尺以内、日除は七尺以上は三尺以内、掲燈は六尺以上は一尺以内（佐賀、街）。

標旗、標燈、看板等路面を距る高さ一〇尺以上に於て二尺以内、日除は路面上二三尺以上、又は一〇尺以上に於て二尺以内（愛媛、道）。

道路幅員三・五間以上の場合、標旗標燈看板の類は路面上八尺以上の高さに於て二尺以内、日除は同八尺以上に於て三尺以内（茨城、交）。

標燈、看板の類は路面上八尺以上に限り二尺以内。日除は道路幅三間以上の場所に於て路面上七尺以上に限り三尺以内、道幅三間以内二間迄は二尺以内、全道張通のものの路面上一五尺以上。支柱なき吊街燈は路面上一五尺以上（福井、道）。

道路に出したる竹木の枝條は路面より高さ一五尺まで之を伐り拂

ふべし。但し歩道車馬道の區別ある場合は歩道に限り路面九尺迄とす（福井、道）。

（ツ）露店（露店を出す者の遵守すべき事項）

店——間口二米、奥行一米以内たること（警、交）。

間隔——一二米毎に一米以上の間隔を保つこと（警、交）。

道路の交叉點、曲角、横斷歩道又は電車停留場側に於て其の標示柱より一米以内ならぬこと（警、交）。

火災報知機、消火栓、人孔等より三米以内ならぬこと（警、交）。

祭典縁日又は慣行に據る場合幅員（溝を含む）五間以上の道路に在りて兩側四尺以内、三間以上の道路に在りて片側四尺以内を占用し屋臺店、露店を設けることに對しては警察官署の許可を要せず（鹿兒島、道）。

露店屋臺店は路端より三尺以内道路に出すことを得。一月の松飾は前年十二月二十八日より一月七日迄に限り路端より二尺以内

（福井、道）

道路商人は市街地に在りては警察官署の指定したる時間地域の外營業せざること（行商を除く）、道路商の用に供する屋臺店は長六尺幅三尺、屋臺車は長八尺巾三尺以下たること（神奈川、道）。

（ホ）道路に於ける工事並に道路の維持

工事區域は掘上土砂、機械、器具、材料等の置場並に復舊工事未完成の部分を含し左の制限を超えぬこと（警、交）。

延長——電線路埋設工事七二・二七米（掘坑三六三・六四米）、軌道工事三六三・六四米、管路埋設工事二七・二四米（掘坑九〇・九一米）。

幅員——道路幅員の六分の一

數工區同時に工事を行ふときは各工區に五四・五四米以上の距離を保つこと（警、交）。

施行區域長きに涉る場合に於ては之を數回に區分し一區毎に施工し其の部分の工事又は作業終りたる後に非ざれば他の部分に著手せざること（山形、道）。

道路の積雪は午前八時迄に掃除すること（福井、道）。

### 第三篇 受益者負擔金制參考資料

凡 例

第一 受益者負擔規程比較

- 一 本表は、現行受益者負擔規程の要綱比較に使せんとするものである。
  - 二 都市計畫事業受益者負擔規程比較は、昭和五年八月末日現在、道路法に依る受益者負擔規程比較は、市の分は同五年二月一日現在、府縣の分は同年八月末日現在のものに據る。
  - 三 事業若くは工事執行者の配列順は、都市計畫事業受益者負擔規程の部にありては、大體、省令發布の年月日順に據り、道路法に依る受益者負擔規程の部にありては、便宜上市の分を前にし、府縣の分を後に一括し、且つ長崎、別府の兩市（資料不明のため）を除いては、大體、市告示及び府縣令の發布年月日順に據る。
  - 四 道路法に依る受益者負擔規程比較に於ては、道路法第四十條に依る所謂道路損傷負擔の例も、参考として掲ぐ。
  - 五 規程の詳細については「3 參考資料乙編」を参照されたい。
- 第二 受益者負擔制の實情に關する諸調
- 一 本表に輯録せる受益者負擔制の實情に關する諸調は、同制度の實績、現況を明らかにせんとするものである。
  - 二 一二其他の項には、「1 研究報告」との参照上、便宜と考ふるもののみを特に一括輯録す。

第一 受益者負擔規程比較

一 都市計畫事業受益者負擔規程比較

番號	事業執行者 根據規定	事業種類	受 益 者	負 擔 區 域	負擔額 總金額	負擔金賦課標準額	増減免規定	賦課方法
(一)	大正八・四・五 都市計畫法六 條二項	都市計畫事業	都市計畫事業ニ依リ著 シク利益ヲ受クル者	一	受クル利益ノ 限度ニ於テ事 業費ノ全部又 ハ一部	受クル利益ノ限度ニ於テ	一	一
(二)	大正八・一・二・六 都市計畫法施 行令九條（及 十條）	都市計畫事業	(1) 行政官廳ノ施行事 業ニ因ツテ著シク受 益スル公共團體 (2) 事業地ノ公共團體 以外ノ公共團體（又 ハ上級ノ公共團體）ヲ 統轄スル行政廳カ執 行シタル事業ニ依ツテ 著シク利益ヲ受クル事 業 (3) 事業ニ因リ生シタ 營業物（例ハ下水 カ他ノ工作物（例ハ ハ道路）ト效用ヲ兼 ネル爲ニ著シク受益 スル者又ハシテノ營 造物ヲ利用スル爲ニ 著シク受益スル者 (4) 都市計畫事業ニ因 リ著シク利益ヲ受クル ノ指定スル者	一	一	一	一	一

番 號	事業執行者 根據規定	事業種類	受 益 者	負 擔 區 域	負擔金額	負擔金賦課標準額	増減免規定	賦課方法
(三) 一	大正九・九・六 内務省令二八 號(大正一四 二六號ニ依リ 改正)	都市計畫事業 (1)道路廣場 (2)新設廣場 (3)路面改良 (3)河川運河 新設改修	(1)有租地所有者 (2)賃借者 (3)十年以上 永年永作權 土地賃借者 又ハ賃借人 (事業)上 手ノ日ヨリ起 算)無租 (4)負擔區域 内ノ公共租 地ニシテ公用 又ハ公共 ル土地ニ就テ ハ賃借人 又ハ賃借人 手ノ日現在ニ 於ケル工事 負擔者	道路、廣場、河川、又ハ運 河ノ附近ニ於テ別ニ内務大 臣ノ定ムル區劃	一	一	一	一
(四) 大 阪 市 長	大正一一・八七 内務省令一七 號	道路ノ新設擴 築	負擔者 手ノ日現在ニ 於ケル工事 負擔者	道路ノ兩側ニ於テ道路境界 ヨリ道路幅員ノ五倍 (例)外規定ハ内務大臣カ別 ニ定ム	新設：工事費 擴築：工事費 ノ平均 幅員ノ三倍以 上ノ擴築ハ 新設ト看做 (ス)	(1)負擔區域ヲ負擔區ニ細 分シ各負擔區ノ工費ニ就 キ負擔額ヲ定ム (2)各負擔區ノ利益ノ厚薄 ニ從ツテ地帶ニ細分シヨ ッテ配分ス (3)道路隣接地帶ノ同 地帶負擔額ノ1/2ヲ間口 ニ比例シ1/2ヲ面積ニ比 例シテ各受益者ニ負擔セ シム (4)其他ノ地帶ノ同地帶 負擔額ヲ面積ニ比例シテ 各受益者ニ負擔セシム	重複負擔及ヒ 寄附金ノ限度 ニ於テ減額ス ル工事着手ノ 日ヨリ五年以 内ノ分納ヲ認 ム	一
(五) 大 阪 市 長	大正一一・八七 長路面改良	路面改良	負擔者 手ノ日現在ニ 於ケル工事 負擔者	道路ノ兩側ニ於テ道路境界 ヨリ道路幅員ノ五倍 (例)外規定ハ内務大臣カ別 ニ定ム	道路片側ニ於 テ工事費ノ1/2 但シ六間テ 各受益者ニ負擔 セシム	(1)負擔區域ヲ負擔區ニ細 分シ各負擔區ノ工費ニ就 キ負擔額ヲ定ム (2)各負擔區ノ利益ノ厚薄 ニ從ツテ地帶ニ細分シヨ ッテ配分ス (3)道路隣接地帶ノ同 地帶負擔額ノ1/2ヲ間口 ニ比例シ1/2ヲ面積ニ比 例シテ各受益者ニ負擔セ シム (4)其他ノ地帶ノ同地帶 負擔額ヲ面積ニ比例シテ 各受益者ニ負擔セシム	重複負擔及ヒ 寄附金ノ限度 ニ於テ減額ス ル工事着手ノ 日ヨリ五年以 内ノ分納ヲ認 ム	一
(四)ノ規定ニ同シ								分納ヲ認ム

番 號	事業執行者 根據規定	事業種類	受 益 者	負 擔 區 域	負擔金額	負擔金賦課標準額	増減免規定	賦課方法
(六) 東 京 市 長	大正一〇・五・三 内閣認可四谷 (新橋)土地區 劃整理事業ニ 關シテ (大正一三・三 七同六號昭和 二七同三號 ニ依リ改正)	道路ノ新設擴 築	(1)有租地所有者 (2)賃借者 (3)十年以上 永年永作權 土地賃借者 又ハ賃借人 (事業)上 手ノ日現在ニ 於ケル工事 負擔者	(1)道路幅員三間以下ノ場 合ハ道路兩側ニ於テ道路 境界線ヨリ奧行十間ノ場 合ハ道路幅員三間以上ノ場 合ハ同様ニシテ奧行十五 間	(1)三間以下 ノ道路ニ事 業費(豫算) ノ2/3 (2)三間以上 ノ道路ニ事 業費(豫算) ノ1/2	(1)負擔區域ヲ負擔區ニ細 分シ各負擔區ノ工費ニ就 キ負擔額ヲ定ム (2)各負擔區ノ利益ノ厚薄 ニ從ツテ地帶ニ細分シヨ ッテ配分ス (3)道路隣接地帶ノ同 地帶負擔額ノ1/2ヲ間口 ニ比例シ1/2ヲ面積ニ比 例シテ各受益者ニ負擔セ シム (4)其他ノ地帶ノ同地帶 負擔額ヲ面積ニ比例シテ 各受益者ニ負擔セシム	重複負擔ノ場 合ハ一部免除 ヨリ七年以 内ノ分納ヲ 認ム	一
(七) 大 阪 市 長	大正一一・三・三 内務省令二四 號	下水水道事業	負擔者 手ノ日現在ニ 於ケル工事 負擔者	排水區域内 下水カ道路ノ 效用ヲ兼ヌル 場合ハ道路兩 側ニ於テ下 水境界線ヨリ 奧行二十間ノ 場	工事費ノ1/2 以內ニ於テ内 務大臣ノ定ム ル	(1)各排水區ニ就キ工事費 ヲ負擔セシム (2)二區共通工事費ハ排水 區面積ニ按分ス (3)受益者ノ土地面積ニ比 例シテ各受益者ニ負擔セ シム	(1)増課規定 下水カ道路 ノ効用ヲ兼 ナル場合ハ 道路兩側ニ 於テ下水 境界線ヨリ 奥行十間ノ 場 域内ノ工費 ノ1/2ニ付 ソノ1/2ヲ 間口ニ比例 シ1/2ハ面 積ニ比例シ テ負擔セシ ム (2)減額ハ (四)ノ規定 ニ同シ	一
(八) 大 阪 市 長	大正三・一〇・三 内務省令四〇 號(七ノ特 別規定ナリ)	一	一	一	工事費ノ1/6	一	一	一





番號	事業執行者 根據規定	事業種類	受益者	負擔區域	負擔金額	負擔金賦課標準額	増減免規定	賦課方法
(三三)	堺市市長 昭和三・三・三 務省令三・三 九(昭和三・三・三) 二號=依り改 正)	道路ノ新設擴 築	(四)ノ規定ニ同シ	(1)(一九)ノ規定ニ同シ (2)(一〇)ノ規定(3)ノニ 同シ (3)例外規定(二〇)ノ(2) ノ規定ニ同シ(並行道路 間隔ヲ十四倍以内トス)	(四)ノ規定ニ(四)ノ規定ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ
(三二)	岡山市市長 昭和三・二・六 内務省令四號	道路廣場ノ新 設擴築	(四)ノ規定ニ同シ	(1)道路又ハ廣場ノ周圍ニ 於テ其ノ境界線ヨリ (a)道路ノ路幅ノ五倍 (b)廣場ノ路幅ノ五倍 最大幅員道路ノ幅員ノ 五倍 (2)(一〇)ノ(3)ノ規定ニ 同シ (3)例外規定(二二)ノ(2) ニ同シ	(四)ノ規定ニ(四)ノ規定ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ
(二四)	大阪府知事 昭和三・二・四 内務省令五號	道路ノ新設擴 築	(四)ノ規定ニ同シ	(三三)ノ規定ニ同シ	(四)ノ規定ニ(四)ノ規定ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ
(二五)	清水市長 昭和三・一・一 二八內務省令 四二號	道路ノ新設擴 築	(四)ノ規定ニ同シ	(1)(一〇)ノ規定ニ同シ (並行道路間隔ハ二倍以 内トス) (2)事情ニヨリ區域ヲ擴張 スル場合必要ヲ認メタル 時ハ路幅ノ十倍以内ニ於 テ内務大臣之ヲ決ス (二五)ノ規定ニ同シ	(四)ノ規定ニ(四)ノ規定ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ
(二六)	靜岡市長 昭和三・一・一 二八內務省令 四三號	道路ノ新設擴 築	(四)ノ規定ニ同シ	(二五)ノ規定ニ同シ	(二五)ノ規定(四)ノ規定ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ	(二二)ノ規定(二〇)ノ規定 ニ同シ

(二七)	王子町長 昭和三・六・一 五內務省令二 〇號	下水道改良事 業	(三)ノ規定ニ同シ 別ニ定ムル期日ニ於 ケル現在ノ受益者	排水區域内	事業費 <sup>1</sup> / <sub>3</sub>	(二七)ノ(3)ノ規定ニ同シ	増課規定 (一七)ノ(2) ノ規定ニ同 ム	負擔金ヲ十四 等分シテ毎年 二回ニ納メシ ム
(二八)	東京府知事 昭和三・六・一 五內務省令二 一號	目黒川改修工 事	(二七)ノ規定ニ同 シ	(1)原則トシテ河川ノ境界 線ヨリ其ノ兩側ニ於テ河川 幅員ノ五倍ノ地域 (2)例外規定ハ内務大臣別 ニ定ム	事業費ノ <sup>1</sup> / <sub>4</sub> 大體(二八)ノ規定ニ同シ	(二七)ノ(3)ノ規定ニ同シ	減額規定 (一七)ノ規定 ニ同シ	負擔金ヲ十四 等分シテ毎年 二回ニ納メシ ム
(二九)	仙臺市長 昭和三・七・一 七內務省令二 七號	道路新設擴築	(四)ノ規定ニ同シ	(二五)ノ規定ニ同シ	新設事業費 <sup>1</sup> / <sub>3</sub> 擴築事業費 <sup>1</sup> / <sub>3</sub> ノ擴築平均幅 員二倍以上ノ 場合ハ新設ト 看做ス	(四)ノ規定ニ同シ	(二〇)ノ規定 ニ同シ	相當ノ擔保及 利子ヲ付シテ 擔額決定日ヨ リ五年以内ノ 分配ヲ認ム
(三〇)	東京市長 昭和三・八・一 號內務省令三 四號	道路新設改修 (大正一〇・〇 五內閣認可東 京都市計畫事 業街路ノ新設 改修及昭和三 八內務省告示 四〇九號東京 市計畫道路ノ 新設改修)	(二七)ノ規定ニ同シ	(1)道路ノ境界線ヨリ道路 幅員ノ五倍 (2)市區域外ノ土地ニ於テ ハ必要ニ應ジテ路幅ノ七倍 迄擴張スルヲ得 (3)(一〇)(2)ノ(a)ニ同 シ	新設事業費 <sup>1</sup> / <sub>3</sub> 擴築事業費 <sup>1</sup> / <sub>3</sub> ノ擴築平均幅 員三倍以上ノ 場合ハ新設ト 看做ス	(一四)ノ規定ニ同シ (七)倍マテニ擴張シタル 時ハ開口負擔額ヲ <sup>1</sup> / <sub>3</sub> 迄 低下スル事ヲ得	1.土地利用ノ 狀況又ハ建 物ノ階層ニ 依リ五倍以 上ノ増課スル 事ヲ得 2.減免ハ(四) ノ規定ニ依 ル地形ニ依 ル斟酌	1.土地利用ノ 狀況又ハ建 物ノ階層ニ 依リ五倍以 上ノ増課スル 事ヲ得 2.減免ハ(四) ノ規定ニ依 ル地形ニ依 ル斟酌
(三一)	東京市長 昭和三・八・一 號內務省令三 五號	古川改修	(二七)ノ規定ニ同シ	(1)河川ノ境界線ヨリ其兩 側ニ於テ三十間ノ地域ト ス (2)例外規定ハ内務大臣別 ニ定ム	(1)事業費ノ <sup>1</sup> / <sub>100</sub> 線ヨリ兩側 六間以内ノ 有租地内所 有者ハ事業 費ノ <sup>1</sup> / <sub>17</sub> ノ <sup>1</sup> / <sub>100</sub>	(四)ノ(1)及(2)ニ同シ	(三〇)ノ(2) ニ同シ	均等ニ二十分 シ毎年二回現 在受益者ヨリ 納付セシム





番號	事業執行者	事業種類	受益者	負擔區域	負擔金額	負擔金賦課標準額	増減免規定	賦課方法
(三七) 廣島市長	昭和五・八・一 昭和一内務省令二 六號	道路新設擴築	(四)ノ規定ニ同シ	(三五)ノ規定ニ同シ但シ幅員ヲ五倍ノ地域トス	(三五)ノ規定ニ同シ但シ幅員ヲ五倍ノ地域トス	(一)(四)ノ規定ニ同シ (二)但シ隣接地帯ニ於ケル負擔額ノ $\frac{1}{3}$ ハ面積ニ比例ス 例シ $\frac{1}{3}$ ハ面積ニ比例ス	(三五)ニ同シ	(三五)ニ同シ
(三八) 京都市市長	昭和五・八・一 昭和二内務省令二 七號	下水道事業	(七)ノ規定ニ同シ	(一七)ノ規定ニ同シ	事業費 $\frac{1}{2}$	(一)(七)ノ規定ニ同シ (二)但シ下水道兼カ道路トシテノ路界線ヨリニ場合ハ道路兼用地事受役者ヲ以テルニ附キ、當該事業費ノ $\frac{1}{2}$ ハ土地ノ内口ニ比例シテ負擔セシム 比 $\frac{1}{2}$ ラ地域内口ニ比例シテ負擔セシム 比 $\frac{1}{2}$ ラ土地ノ内口ニ比例シテ負擔セシム 比 $\frac{1}{2}$ ラ土地ノ内口ニ比例シテ負擔セシム	(四)ノ規定ニ同シ 外ニ更ニ設ケル利當ノ負擔保及 況ヲ利用ノ利當ノ負擔保及 減免ヲ認ム	納付年限 五年以内ノ延

二 道路法に依る道路受益者負擔規程比較

番號	事業執行者	事業種類	受益者	負擔區域	負擔金額	負擔金賦課標準	増減免規定	賦課方法
(一) 大阪市長	大正一〇・八・二 大正九號 大正一〇・八・二 大正一〇・八・二 〇六號	(イ)道路ノ新設、擴築	土地所有者但シ工事着手ノ日ヨリ起算シテ十年ヨリ長キ期間ノ内小作人ハ賃借權ノ目的タル土地ニ付テハ地上ハ賃借人	土地ノ状況ニ依リ別ニ區域ヲ定ムルコトアルヘシ	工事費ノ二分	半額ハ路線ニ接スル土地ノ長さニ比例シ他ノ半額ハ土地ノ面積ニ比例シテ定ム	(イ)間口ニ比シ奥行狹小ナルモノハ間口負擔額ヲ減少スルコトヲ得 (ロ)二線以上ノ新設擴築ニ要スル費用ヲ負擔スルハ關係ノ土地ヲ負擔スル要スル費用ノ一部ヲ得 (ハ)免除スルコトヲ得 (ニ)國、府、縣、市、町、村、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三)佛、堂、神社、寺院、學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一〇)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一一)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一二)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一三)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一四)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一五)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一六)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一七)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一八)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一九)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (二〇)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (二一)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (二二)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (二三)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (二四)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (二五)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (二六)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (二七)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (二八)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (二九)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三〇)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三一)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三二)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三三)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三四)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三五)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三六)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三七)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三八)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (三九)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四〇)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四一)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四二)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四三)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四四)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四五)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四六)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四七)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四八)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (四九)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五〇)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五一)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五二)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五三)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五四)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五五)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五六)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五七)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五八)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (五九)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六〇)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六一)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六二)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六三)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六四)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六五)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六六)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六七)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六八)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (六九)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七〇)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七一)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七二)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七三)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七四)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七五)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七六)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七七)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七八)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (七九)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八〇)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八一)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八二)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八三)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八四)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八五)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八六)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八七)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八八)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (八九)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九〇)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九一)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九二)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九三)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九四)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九五)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九六)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九七)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九八)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (九九)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得 (一〇〇)學、校、敷地、其ノ他公共團體ニ對シテハ費用ヲ徴收セサルコトヲ得	工事著手ノ日ノ現在ノ受益者ニ依リ三年以内ニ分納セシム



番號	工事執行者	事業種類	受益者	負擔區域	負擔金額	負擔金賦課標準	増減免規定	賦課方法
(六) 岡山市長	道路ノ新設、改築、鋪裝	土地所有者、但シ實權ノ目的タル土地ニ於テハ實權者十年ヨリ長キ期間者又ハ賃借權ノ目的タル土地ニ付テハ賃借權者	土地所有者、賃權者、工事著手ノ日ヨリ起算シ十年ヨリ長キ期間ノ定小作人但シ權利ヲ登記セルモノ	新設、鋪裝ハ工事費ノ二分以内、修繕工費ノ五分ノ間以上ハ六分ノ間、道路ノ負擔額同額	線ニ接スル部分ノ原積ニ他ノ半分ヲ土地面積ニ比例シ其ノ他ノ地面積ハ面積ニ比例シテ配分ス	(イ) (一) (ハ) ト同シ (ロ) 同 (ハ) 工事費ヲ寄附シタル者、適當ナル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ寄附シタル者 (ニ) (ロ) ト同シ (ホ) 倉庫業者、運送業者、自動車業者、其ノ他著シク利益ヲ受クル者ニ鋪裝工費ノ一部ヲ負擔セシム	工事竣功ノ日ニ於ケル現在ニ依リ精算シ工費ハ依リ納付セシム但シ工費納付セシムコトアルヘシ	工事著手ノ日ニ於テハ毎年繼續ノ工事費ヲ其ノ年度ノ工費ニ於テ負擔金ハ一モ時宜ニ納付セシムルコトアルヘシ
(七) 門司市長	道路ノ新設、改築、鋪裝	土地所有者、賃權者、工事著手ノ日ヨリ起算シ十年ヨリ長キ期間ノ定小作人但シ權利ヲ登記セルモノ	土地所有者、賃權者、工事著手ノ日ヨリ起算シ十年ヨリ長キ期間ノ定小作人但シ權利ヲ登記セルモノ	道路ノ新設、鋪裝ハ工事費ノ二分以内、修繕工費ノ五分ノ間以上ハ六分ノ間、道路ノ負擔額同額	線ニ接スル部分ノ原積ニ他ノ半分ヲ土地面積ニ比例シ其ノ他ノ地面積ハ面積ニ比例シテ配分ス	(イ) (一) (ハ) ト同シ (ロ) 同 (ハ) 工事費ヲ寄附シタル者、適當ナル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ寄附シタル者 (ニ) (ロ) ト同シ (ホ) 倉庫業者、運送業者、自動車業者、其ノ他著シク利益ヲ受クル者ニ鋪裝工費ノ一部ヲ負擔セシム	工事著手ノ日ニ於テハ毎年繼續ノ工事費ヲ其ノ年度ノ工費ニ於テ負擔金ハ一モ時宜ニ納付セシムルコトアルヘシ	工事著手ノ日ニ於テハ毎年繼續ノ工事費ヲ其ノ年度ノ工費ニ於テ負擔金ハ一モ時宜ニ納付セシムルコトアルヘシ

番號	工事執行者	事業種類	受益者	負擔區域	負擔額	負擔金賦課標準	増減免規定	賦課方法
(一) 豐橋市長 大正一三・五 號 二三告示三一	維持修繕工事 倉庫業者運送業者 其ノ他道路ヲ損傷 スル原因ヲ爲ス事 業者	倉庫業者運送業者 其ノ他道路ヲ損傷 スル原因ヲ爲ス事 業者	維持修繕費ノ 三分ノ二以内	工費ノ百分 ノ七十	三分ノ二ヲ道路ニ面接 スル間口ノ長ニ比 例シテ配分ス	(イ) 同一ノ土地力重複 負擔スルトキハ減免 (ニ) 金錢勞力工事ヲ寄 附シタルトキハ市長 ノ認定ニ依リ減免ス	毎年四月一日現在ノ事 業者ニ賦課ス	工事業者手ノ日ニ於ケル 受益者ヨリ納付セシム 但シ場合ニ依リ納付 工費ノ年々度割内ニ於 ルヘシ
(二) 岡崎市長 大正一三・一〇 號 七告示二四二	維持修繕工事 倉庫業者其ノ他道 路ヲ損傷スル原因 ヲ爲ス事業者	倉庫業者其ノ他道 路ヲ損傷スル原因 ヲ爲ス事業者	維持修繕費三 分ノ二以内	工費ノ二分 ノ一以内	負擔金ハ奥行二十米ノ 面積ニ依リ配分ス 例シテ配分ス	(イ) 岡崎市長ノ所有地 (ロ) 岡崎市長ノ特別 アリト認ムルトキ	負擔金ハ工事著手ノ日 於ケル土地所有者ヨリ 徴収ス 決算額カ豫算額ニ比 シテ大差ヲ生シタル場 合ハ精算後一年以内ニ追 徴ス	負擔金ハ工事著手ノ日 於ケル土地所有者ヨリ 徴収ス 決算額カ豫算額ニ比 シテ大差ヲ生シタル場 合ハ精算後一年以内ニ追 徴ス

(一) 宮市長 大正一三・一 〇號 六告示六	道路及附屬物 ノ新設、改築	道路幅員ノ三倍	新設ハ工費 三分ノ一以 内、改築ハ 四分ノ一以 内	(イ) 各路線ノ土地ノ 面積ノ比 (ロ) 負擔區ノ面積ノ 比 (ハ) 負擔區ノ人口ノ 比 (ニ) 負擔區ノ人口ノ 比 (ホ) 負擔區ノ人口ノ 比	(イ) 二線以上交叉スル 場合ハ主タラシ (ロ) 負擔ノ重キモノ ニ依リ減免ス (ハ) 負擔ノ重キモノ ニ依リ減免ス (ニ) 負擔ノ重キモノ ニ依リ減免ス (ホ) 負擔ノ重キモノ ニ依リ減免ス	負擔金ハ工事著手ノ日 於ケル土地所有者ヨリ 徴収ス 決算額カ豫算額ニ比 シテ大差ヲ生シタル場 合ハ精算後一年以内ニ追 徴ス	負擔金ハ工事著手ノ日 於ケル土地所有者ヨリ 徴収ス 決算額カ豫算額ニ比 シテ大差ヲ生シタル場 合ハ精算後一年以内ニ追 徴ス	
(二) 大垣市長 大正一四・一 七告示二號	道路ニ關スル 工事	奥行二十間	工費ノ二分 ノ一以内	三分ノ二ハ間口ノ長ニ 比例シテ配分ス 積界線ヨリ三分ノ一ハ 面積ノ比	(イ) 同一ノ土地力重複 負擔スルトキハ減免 (ニ) 金錢勞力工事ヲ寄 附シタルトキハ市長 ノ認定ニ依リ減免ス	負擔金ハ工事著手ノ日 於ケル土地所有者ヨリ 徴収ス 決算額カ豫算額ニ比 シテ大差ヲ生シタル場 合ハ精算後一年以内ニ追 徴ス	負擔金ハ工事著手ノ日 於ケル土地所有者ヨリ 徴収ス 決算額カ豫算額ニ比 シテ大差ヲ生シタル場 合ハ精算後一年以内ニ追 徴ス	
(三) 宇治山田市長 大正一四・二 五告示五號	道路新設、擴 充工事、路面 改良工事	奥行二十間 土地ノ状況ニ 必要アリト認 ムルコトアル ハ均幅員ノ三 倍、擴充工事 ハ均幅員ノ三 倍	工費ノ三分 ノ一以内、 擴充工事ハ 四分ノ一以 内	(イ) 同一ノ土地力重複 負擔スルトキハ減免 (ニ) 金錢勞力工事ヲ寄 附シタルトキハ市長 ノ認定ニ依リ減免ス	負擔金ハ工事著手ノ日 於ケル土地所有者ヨリ 徴収ス 決算額カ豫算額ニ比 シテ大差ヲ生シタル場 合ハ精算後一年以内ニ追 徴ス	負擔金ハ工事著手ノ日 於ケル土地所有者ヨリ 徴収ス 決算額カ豫算額ニ比 シテ大差ヲ生シタル場 合ハ精算後一年以内ニ追 徴ス	負擔金ハ工事著手ノ日 於ケル土地所有者ヨリ 徴収ス 決算額カ豫算額ニ比 シテ大差ヲ生シタル場 合ハ精算後一年以内ニ追 徴ス	
(四) 側溝工事	側溝ノ道路對側 ノ土地	側溝ノ道路對側 ノ土地	側溝工事費ノ 二分ノ一以 内	側溝工事費ノ 二分ノ一以 内	側溝工事費ノ 二分ノ一以 内	側溝工事費ノ 二分ノ一以 内	側溝工事費ノ 二分ノ一以 内	側溝工事費ノ 二分ノ一以 内

[illegible]









番號	工事執行者	事業種類	受益者	負擔區域	負擔金總額	負擔金賦課標準	增減免規定	賦課方法
(三三三)	京都府知事	道路及附屬物 新設、改築	土地又ハ立竹木ノ 所有者 但シ質權者、存續 期間二十年以上ノ 地上權者又ハ永小 作人	(イ)市街地及之ニ 準スヘキ地域奥 行二十間以内 (ロ)ノ地域外 ノ土地又ハ山林 原野ノ立竹木	工事費ノ十分ノ三ノ以	(イ)ノ負擔金ハ受益土 地ヲシテ等乃至十等ニ 區分シテ價ニ依リ一 定ノ率ヲ定ム (ロ)ノ負擔率亦同シ	キ免除又ハ輕減スル コトヲ得	(イ)工事及豫 算額ヲ告示 シタル日ノ 現在ノ受益 者ニ課ス (ロ)二期ニ徴 收シ半額ハ 豫算ニ依リ 半額ハ精算 ニ依ル (ハ)審査委員 會ヲ置キ工 事費ニ對ス ル負擔金ノ 割合負擔金 課スヘキ 地域、土地、 立竹木ノ時 價、土地ノ 受給等級、 免除スヘキ 土地ヲ諮問

[illegible]



ス  
ニ「負擔區域」(イ)、  
(ロ)ノ但書ニヨリ地  
域ノ縮少シタル場合  
亦同シ

二三四





## 第二 受益者負擔制の實情に關する諸調

### 一 土地負擔の現況と其負擔力

#### (イ) 東 京 市

明治四十三年宅地價修正當時と昭和四年とに於ける宅地の收益を比較するに左表の如し。

區 分	明治四十三年										昭和四年	割 合
	一坪當 地價	收 入 (賃 貸 料)	支 出	地 租	府 稅 附 加 稅	市 稅 附 加 稅	小 計	其 他	引 利	差		
	七・三六〇	九・六〇	三・五〇	一・八四	一・一〇	〇・〇八	三・〇二	〇・四八	六・一〇		七・三六〇	
		九・六八〇	八・四〇	一・八四	〇・八六	〇・八六	三・五六	四・八四	八・六四〇		九・六八〇	
		一〇・〇八三	二・四〇〇		七・八一	一〇・七五〇	一・一七八	一〇・〇八三	一四・四九一		一〇・〇八三	
合												

區分	明治四十三年	昭和四年	割合
収入に對する利益割合	・六三五	・九一三	
地價に對する利益割合	・〇八二	・一二〇一	
利益に對する經費割合	・五七三	・〇九五	
利益に對する租稅負擔割合	・四九五	・〇四〇	

備考 収入は政府が宅地價修正法又は土地賃貸價格調査法に依り決定したる市内に於ける平均額なり

右に示す如く利益増加割合實に十四倍以上なるに鑑み相當負擔餘力あるを認む

(口) 大 阪 市

大阪市に於ける土地に對する受益者負擔以外の公租公課其の他の公費負擔現狀の概要

地目	地租	附加稅租	特別附加稅	農會費	水合費	水防費	計	地價に付	一坪に付
宅地	最高・五八〇 最低・〇〇八 平均・二・一三	六・九七 六・〇九 三・三三	四・七三	四・七	・七九 ・〇一 ・〇一	・二七 ・〇一 ・〇一	一・六三 ・〇一 ・〇一	五・八〇 二・八六 二・八六	一・三六 ・〇六 ・〇六
田	一段・付 平均・二・四五	六・二三	四・七三	四・七	・五五 ・〇一 ・〇一	・二七 ・〇一 ・〇一	一・六三 ・〇一 ・〇一	二・九〇 二・八六 二・八六	・〇三 ・〇三 ・〇三
畑	一段・付 平均・二・四五	三・五九	二・七四	・四三	・五五 ・〇一 ・〇一	・〇六 ・〇一 ・〇一	六・三三 ・〇一 ・〇一	二・九〇 二・八六 二・八六	・〇三 ・〇三 ・〇三

山	池	雑種	原野
・五三 ・〇七 ・〇七	・五三 ・〇七 ・〇七	・五三 ・〇七 ・〇七	・五三 ・〇七 ・〇七
一・三三 ・〇六 ・〇六	一・三三 ・〇六 ・〇六	一・三三 ・〇六 ・〇六	一・三三 ・〇六 ・〇六
一・〇五 ・〇一 ・〇一	一・〇五 ・〇一 ・〇一	一・〇五 ・〇一 ・〇一	一・〇五 ・〇一 ・〇一
一・八〇 ・〇六 ・〇六	一・八〇 ・〇六 ・〇六	一・八〇 ・〇六 ・〇六	一・八〇 ・〇六 ・〇六
一・九四 ・〇六 ・〇六	一・九四 ・〇六 ・〇六	一・九四 ・〇六 ・〇六	一・九四 ・〇六 ・〇六

附

大阪市内に於ける地價額の最高最低並平均

地目	種別	最高額	最低額	平均額
田	畑地	八五・六六六	一・七〇〇	五四・五五六
畑	地	六三・四六七	・二二四	三一・七一六
宅	地	二三五・二一〇	・三〇〇	四・五〇四
池	沼	六四・九一〇	・一四六	・五〇二
山	林	二〇・〇〇七	・四九七	九・六五七
原	野	一六・八一六	・二四〇	五・八五七
雑	種	七八二・七五八	・二〇〇	八二・三六〇

備考 一、本表地價格は宅地は一坪其の他は一段に付き示す。

二、本表地價格は大阪稅務監督局に付昭和五年度現在高を示す。

三、農會費は大阪市農會、水利組合費は西成普通水利組合、水害豫防費は淀川左岸水防組合の例に依る。



(八) 京 都 市

二四四

京都市に於ける地價最高最低調 (昭和五年一月現在)

種別	區名	地價最高ノ土地			地價最低ノ土地		
		地名	坪當 地價 の割合	坪當 納税額 の割合	地名	坪當 地價 の割合	坪當 納税額 の割合
田	上京區	紫野初音町	四・三〇	四・一六	大北山字原谷	一・三〇	一・一六
	左京區	北白川池田町	三・〇〇	二・一〇	下鴨膳部町	一・〇〇	一・〇〇
	中京區	壬生松原町	三・〇〇	二・一〇	西ノ京上合町	一・〇〇	一・〇〇
	東山區	福稻柿本町	三・〇〇	二・一〇	今熊野字南谷	一・〇〇	一・〇〇
	下京區	西九條北内町	三・〇〇	二・一〇	唐橋高畑町	一・〇〇	一・〇〇
畑	上京區	加茂玄以町	三・〇〇	二・一〇	小山花ノ木町	一・〇〇	一・〇〇
	左京區	聖護院圓頓美町	三・〇〇	二・一〇	高野清水町	一・〇〇	一・〇〇
	中京區	西ノ京月輪町	三・〇〇	二・一〇	壬生高德町	一・〇〇	一・〇〇
	東山區	今熊野南日吉町	三・〇〇	二・一〇	修道妙法院前町	一・〇〇	一・〇〇
	平	均	三・〇〇	二・一〇	均	一・〇〇	一・〇〇

種別	區名	地價最高ノ土地			地價最低ノ土地		
		地名	坪當 地價 の割合	坪當 納税額 の割合	地名	坪當 地價 の割合	坪當 納税額 の割合
宅	上京區	南上善寺町	一・七〇	一・六〇	紫野蓮臺野町	一・〇〇	一・〇〇
	左京區	聖護院山王町	一・〇〇	一・〇〇	北白川字重石	一・〇〇	一・〇〇
	中京區	立誠學區仲之町	一・〇〇	一・〇〇	西ノ京中合町	一・〇〇	一・〇〇
	東山區	彌榮學區中之町	一・〇〇	一・〇〇	修道學區上馬町	一・〇〇	一・〇〇
	下京區	御旅宮本町	一・〇〇	一・〇〇	西七條中野町	一・〇〇	一・〇〇
山	上京區	大宮聚栖町	一・七〇	一・六〇	大北山原谷	一・〇〇	一・〇〇
	左京區	銀閣寺町	一・七〇	一・六〇	北白川南ヶ原	一・〇〇	一・〇〇
	中京區	西ノ京中保町	一・七〇	一・六〇	西ノ京島ノ内町	一・〇〇	一・〇〇
	東山區	今熊野日吉町	一・七〇	一・六〇	栗田谷川町	一・〇〇	一・〇〇
	下京區	七條御所ノ内町	一・七〇	一・六〇	西九條島町	一・〇〇	一・〇〇
林	上京區	平	一・七〇	一・六〇	平	一・〇〇	一・〇〇
	左京區	均	一・七〇	一・六〇	均	一・〇〇	一・〇〇
	中京區	均	一・七〇	一・六〇	均	一・〇〇	一・〇〇
	東山區	均	一・七〇	一・六〇	均	一・〇〇	一・〇〇
	下京區	均	一・七〇	一・六〇	均	一・〇〇	一・〇〇

京都市に於ける土地價格及租稅調

(段當)

(昭和五年一月現在)

種別					田					畑					宅				
區名					地名					地名					地名				
上					上					上					上				
中					中					中					中				
東					東					東					東				
下					下					下					下				
京					京					京					京				
山					山					山					山				
西					西					西					西				
今					今					今					今				
熊					熊					熊					熊				
野					野					野					野				
柳					柳					柳					柳				
森					森					森					森				
北					北					北					北				
九					九					九					九				
條					條					條					條				
北ノ内					北ノ内					北ノ内					北ノ内				
町					町					町					町				
紫竹芝本町					大宮栗柄町					橋ノ上町					下提町				
南禪寺草川町					吉田河原町					立誠學區					下大阪町				
西ノ京内畑町					西ノ京左馬寮					彌榮學區					中智學區				
今熊野柳森町					今熊野柳森町					開智學區					奈良學區				
西九條北ノ内					西九條北ノ内					小山下總町					吉田泉殿町				
町					町					町					町				
衣笠天神森町					大宮泉堂町					初音學區					松屋學區				
下鴨半木町					下鴨中川原町					貞數學區					正德學區				
西ノ京上合町					西ノ京笠殿町					岩戸山町					紫野中柏野町				
今熊野南日吉					今熊野南日吉					北白川平井町					壬生江町				
町					町					町					町				
西七條石ヶ坪					西七條御領町					西九條橫町					今熊野寶藏町				
町					町					町					町				
衣笠鏡石町					衣笠開町					紫野中柏野町					北白川平井町				
北白川重石町					北白川仕伏町					西ノ京中合町					泉涌寺山ノ内				
西ノ京日輪町					西ノ京中合町					東九條松ノ木					東九條松ノ木				
今熊野南谷					今熊野南谷					東九條松ノ木					東九條松ノ木				
町					町					町					町				
唐橋高畑町					唐橋高畑町					唐橋高畑町					唐橋高畑町				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△					△					△					△				
△																			

京都市に於ける土地價格並課税額に對する賃貨料割合調

(坪當)

(昭和五年一月現在)

種別	上					中					下					總平均
	區					區					區					平均
	地名	地價	地價に對する賃貨料割合	地價に對する課税額に對する賃貨料割合	賃貨料	地名	地價	地價に對する賃貨料割合	地價に對する課税額に對する賃貨料割合	賃貨料	地名	地價	地價に對する賃貨料割合	地價に對する課税額に對する賃貨料割合	賃貨料	
田	紫竹芝本町	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	衣笠天神森町	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	衣笠鏡石町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	南禪寺草川町	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	西ノ京上合町	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	北白川重石町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	西ノ京内畑町	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	今熊野南日吉	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	西ノ京日輪町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	今熊野柳森町	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	下鴨牛木町	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	今熊野南谷	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	西九條北ノ内	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	町西七條石ヶ坪	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	唐橋高畑町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
畑	大宮栗栖町	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	大宮泉堂町	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	衣笠開町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	吉田河原町	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	下鴨中川原町	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	北白川仕伏町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	西ノ京左馬寮	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	西ノ京笠殿町	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	西ノ京中合町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	今熊野柳森町	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	今熊野南日吉	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	泉涌寺山内町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	西九條北ノ内	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	町西七條御領町	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	東九條松ノ木	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
宅	橋ノ上町	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	小山下總町	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	紫野中柏野町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	下堤	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	吉田泉殿町	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	北白川平井町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	立誠學	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	初音學	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	壬生辻町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	彌榮學	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	松音學	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	今熊野寶藏町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	中智學	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	正教學	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	西九條橫町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
地	奈良物學	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	岩成學	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	平	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	開智學	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	成德學	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	西九條橫町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	平	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	岩成學	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	西九條橫町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	平	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	岩成學	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	西九條橫町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330
	平	△ 2,000	1.33倍	1.33倍	256	岩成學	△ 2,000	1.55倍	1.55倍	310	西九條橫町	△ 1,500	1.75倍	1.75倍	264	△ 1,330

京都市に於ける地價最高、最低、總平均課及稅額調

(昭和五年一月現在)

種別	區名	最高					最低					總平均					課稅				
		地價					地價					地價					地價				
		地名	一段歩	課稅	市稅附加稅額	計	地名	一段歩	課稅	市稅附加稅額	計	地名	一段歩	課稅	市稅附加稅額	計	地名	一段歩	課稅	市稅附加稅額	計
田	上京區	紫野初音町	△六、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	大北山學原谷	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西ノ京上合町	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇	西ノ京島ノ内	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇
		北白川池田町	△六、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	下鴨膳部町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	今熊野字南谷	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	栗田谷川町	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇
		壬生松原町	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇	西ノ京上合町	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇	唐橋高畑町	△一〇、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西ノ京島ノ内	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇
		福稻柿本町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	今熊野字南谷	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	唐橋高畑町	△一〇、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	栗田谷川町	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇
		西九條北ノ内	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇	唐橋高畑町	△一〇、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	唐橋高畑町	△一〇、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	栗田谷川町	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇
	中京區	賀茂玄以町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	小山花木町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	高野清水町	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇	壬生高穂町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇
		聖護院圓順美	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	高野清水町	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇	壬生高穂町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	修道妙法院前	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇
		西ノ京月輪町	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇	修道妙法院前	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇	西九條川原城	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西九條川原城	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇
		今熊野南日吉	△三、〇〇〇.〇〇〇	△〇、〇〇〇.〇〇〇	△三、〇〇〇.〇〇〇	△六、〇〇〇.〇〇〇	西九條川原城	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西九條川原城	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西九條川原城	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇
		西七條唐橋町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西九條川原城	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西九條川原城	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西九條川原城	△七、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇
下京區	南上善寺町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	紫野蓮臺野町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	紫野蓮臺野町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	北白川宇重石	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	
	聖護院山王町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	北白川宇重石	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	北白川宇重石	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西ノ京中合町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	
	立誠學區	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西ノ京中合町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西ノ京中合町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	上修道學區	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	
	彌榮學區	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	上修道學區	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	上修道學區	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	上修道學區	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	
	中ノ之町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西七條中野町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西七條中野町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西七條中野町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	
上京區	大宮栗柄町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	大北山學原谷	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	大北山學原谷	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	大北山學原谷	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	
	銀閣寺町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	北白川南ヶ原	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	北白川南ヶ原	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	北白川南ヶ原	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	
	西ノ京仲保町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西ノ京島ノ内	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西ノ京島ノ内	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西ノ京島ノ内	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	
	今熊野日吉町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	栗田谷川町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	栗田谷川町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	栗田谷川町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	
	西七條御所ノ内	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西九條島町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西九條島町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	西九條島町	△九、〇〇〇.〇〇〇	△一、〇〇〇.〇〇〇	△二、〇〇〇.〇〇〇	△五、〇〇〇.〇〇〇	

備考

一、一段歩地價欄に△印せるは一段歩時價を掲げたものなり。  
二、課稅額欄に△印せるは一段歩時價を地價と假定し課稅算出せるものなり。

(三) 名古屋 市

本市都市計畫第一期道路新設擴築事業（本市五幹線と稱す）受益者負擔區域八十一萬坪に對し調査したる概要左の如し

(1) 公費負擔の現況

一坪當平均 土地臺帳地價	地 租	縣市附加稅（特別稅共）	計	調 查 年 次
四、七三錢	、一一八厘	、一三〇厘	、二四八厘	昭和三年分

（備考）前記の外不動産取得稅、相續稅等を賦課せらるゝも是所謂流通稅にして偶發的事故の發生を原因とし其性質普遍的ならざるを以て本調査に算入せず

(2) 事業計畫發表前後に於ける土地價格騰貴の關係

地 指	價 數	大正八年事業計畫 發表前坪當平均價格	大正十三年十一月事業 の大半完成後の坪當平均價格	昭和三年七月調 坪當平均價格
	七五 一〇〇		二一八 二九〇	二六八 三五七

（備考）本表は第一期事業受益者負擔區域内に於て各負擔區及各地帶に亘り適實と認むる場所に對し調査したる平均額。

## 二 現行受益者負擔金の種別並徴収実績

市名	事業種類	法根	施行年度	事業費	負擔金總額	既往に於ける負擔金調定額	既往に於ける負擔金収入額	負擔金収入額の調定額に對する割合
横須賀市	道路改良	道路法	自大正十三年至昭和四年	三三、四四〇事業費の六分の一	一九、七六四	一七、九三三	九〇・〇	
濱松市	道路新設擴張	都市計畫法	自昭和二年至昭和十三年	八、四六五事業費の二分の一	五七、六〇一	四〇、〇三三	七二・二	
名古屋市	道路擴張	都市計畫法	自大正二年至昭和二年	一、三二、六二二事業費の二・二%	一八、三三七	一三、六〇九	九七・〇	
	道路新設擴張	同	自大正八年至自大正十三年	二、九三、四七〇	二、〇〇五、四三三	二、〇〇九、一三三	九七・七	
	運河	同	自大正十三年至昭和五年	一、四〇、〇三六	三、八四、七三三	三、六八、六三三	九八・九	
	道路鋪裝	道路法	自大正十三年至昭和五年	六五、三九六	一六、四〇六	一七、四七五	九三・二	
	道路擴張	同	自大正十三年至昭和五年	一、四八、三〇六	一四、一三六	一三、四七五	九四・四	
	道路新設	同	自大正十三年至昭和五年	三六、四九六	三三、三三三	六、六六六	九八・〇	
豊橋市	道路擴張	道路法	自大正十五年至昭和四年	一、二一〇、六五九事業費の百分七十	—	—	—	—
京都市	道路新設擴張	都市計畫法	自大正十四年至昭和四年	—	—	—	—	—
	道路鋪裝	都市計畫法	自大正十四年至昭和四年	九、〇〇〇、〇〇〇事業費の二分の一	二、三三三、〇六六	二、〇四七、五五五	八八・八	
大阪市	道路新設擴張	同	自大正十年至昭和八年	二六、二五六事業費の二分の一	三、四四一、八〇〇	三、四四四、六〇〇	九八・〇	
	道路新設擴張	同	自大正十年至昭和八年	二六、二五六事業費の二分の一	七、五五七、五七〇	六、八八八、九〇〇	九一・〇	

昭和十三年施行

馬山府	道路新設	都市計畫法	昭和三年	一四、一三〇	一割一分六厘	一、一六四	四三・八%
神戸市	道路擴張	都市計畫法	自大正九年至昭和五年	二四、三、六九	事業費の六分の一	四、〇〇三、七〇	八〇・二%
	道路新設擴張	道路法	自大正十一年至昭和九年	一三、四、〇〇〇	二分の一	一、七、九二〇	九五・〇%
	道路新設擴張	同	目下徴収手續中	同	同	同	同
	高速軌道	同	自大正十一年至昭和十二年	一七、九〇〇、〇〇〇	四分の一	四、四七五、〇〇〇	二五・〇%
	第三回下水工事	同	自大正十一年至昭和五年	七、七三、六八	六分の一	一、二五、七五五	一六・〇%
	第一第二回下水工事	同	自大正十一年至昭和五年	同	同	同	同

## 三 各種負擔金徴収機關の構成及負擔

市名	費用額	構成人員
横須賀市	不名	昭和四年度まで各市町村役場に於て徴収せるも昭和五年度より縣土木出張所に於て徴収す
濱松市	同	
豊橋市	同	
大邱府	同	
馬山府	同	

ロ、	特別徴収機關を置かず一般徴税機關を利用し其の費用をば當該事業費より支出するもの	高崎市 昭和四年度 一圓	賦課は庶務課に於て兼掌し徴収のみを徴税機關に委す
ハ、	特別の徴収機關を設置し、其の費用をば當該事業費より支出するもの	名古屋市 昭和五年度豫算二、七七七圓 神戸市 昭和四年度約五、三八八圓	主事一人、書記十一人、技手四人雇四人、助手十四人
		大阪市 昭和四年度約三七五〇〇圓	

#### 四 負擔金の分納をなす場合買却其他に伴ふ權利の移動を生じたる時には何人を以て負擔義務者たらしむるやに ついで之處置

神奈川縣 受益者負擔金賦課後負擔の原因たる土地又は權利を譲渡したる時は負擔金納付の期限に拘らず一時に之を徴收す。(同縣令第十四號第十五條)

大阪市 負擔金分納期間中權利移動の場合には其權利取得者に負擔義務を繼承せしむる事を適當なりと思ふ。

負擔金徴收に關し負擔能力を考慮し分納を許可する事は已むを得ざるべく特に現時財界不況時に於ては益々其必要の度を高むるものである而して相當長期の分納期間中特に近時の財界不況時に於ては賣買其他により所有權の移轉するもの激増し其の多くの場合には元所有者たる本件負擔義務者は無資産状態となり、徴收上莫大の手数を要し、尙且つ徴收不能に陥るもの尠からず斯でも尙現行法は負擔義務の繼承を認めず故に事業執行者は常に財政を脅かさるゝ事甚大なるを

以て負擔金完納前に於て所有權移動ありたる時は其土地の取得者に未納部分の負擔義務を繼承せしむるを可なりと思ふ。殊に其利益なるや永久に享受すべき總てを指稱し又本制度公布の曉所有權移轉の場合に於て本件納附未済額は當然賣買代金の内に考量せらるべく従つて買受人の二重負擔に歸すが如き事なし。

(備考) 別掲規程「賦課ノ方法」參照

#### 五 負擔金を課徴せる土地に於ける權利移動の實況及負擔 金制運用の土地投機に及ぼせる影響

横須賀市 權利の移動については目下其の實況を認めず。

土地投機を抑制するの傾向あれども差したる影響を認めず。

濱松市 權利移動は別段變る事なし。

名古屋市 事業計畫發表の前後に於ては投機的傾向により權利の移動頻りに行はるゝも、事業に着手し負擔金決定の前後に至りては權利の移動靜止するものゝ如し、總じて負擔金制の運用は投機を挑發し又は抑制する事に直接影響なきものと認めらる。

豊橋市 別になし。

大邱府 財界不況より土地の賣買件數激減したる爲新に開鑿されたる道路等あるも土地騰貴の傾向僅少にして之を目的とする權利移動殆んどなし、從來地上物件移轉補償費及工事費の莫大なりしものありて、土地投機を多少抑制せり。

## 六 負擔金課徴をなして施行したる事業により受益せずに受損したるものありや、有りとせば其に對する處置並その原因

横須賀市 目下該當事項なし。  
 濱松市 目下該當事項なし。  
 馬山府 目下該當事項なし。  
 名古屋市 事業施行により特に受損したるものを認めず。  
 神戸市 受損地なきものとして取扱ひ居れり。  
 大邱府 受損者に對する對策は目下考究中なり。

## 七 負擔金が土地の賃貸價格又は賣買價格に如何なる影響を及ぼせるか

横須賀市 現在差したる影響を認めず。  
 濱松市 土地の賃貸價格は自然の結果として高率となり賣買價格は從つて低下する理由なるも大なる相異はなし。但し賃貸價格賣買價格は廣況に互るを以て掲載困難なり。  
 名古屋市 本市都市計畫第一期道路事業受益地總筆數六千九百二十五筆の内適當と認むる場所について調査せる賃貸價格騰貴せるもの一九八筆現狀維持のもの一七筆にして賣買價格は二百九十八筆とも騰貴せるを見る。

神戸市	賃貸價格漸騰の傾向あるも急に實現せず、賣買價格も漸騰の傾向あるも具體的數字については不明。					
馬山府	賃貸價格	騰貴筆數	現狀維持筆數	調查筆數計	賣買價格	騰貴筆數
	二四七	七二	一七五	二四七	一七二	七五

## 八 負擔金が重疊して課された場合に於ける土地負擔の最高限度を如何に決定し且つこれが補償に關する處置

濱松市 負擔金が重疊して課されたる土地に對しては五箇年以内なれば其課額の低き分を免除す。  
 名古屋市 負擔金重疊の場合は即利益重疊の場合なるを以て受益關係より觀する時は敢て減免の要なきに似たるも、短期間に多額の負擔金を支出するは過重の感あるを以て其の負擔金の一部を減免するの必要あり、本市施行規定は同一の土地にして道路若くは廣場の新設擴張の費用を重複して負擔すべき關係に該當する時は其の輕き負擔金を免除すとあるも、五年以内に重複負擔に該當するときは其の一部を免除し得べく省令改正の申請中なり。  
 豊橋市 重複負擔に對しては高率なるもののみを課す。補償に關する處置なし。  
 神戸市 同年度に於て重疊する場合は輕き部分を免除し重き部分のみを課す。  
 六年以内に於て重疊したる場合は新に賦課するも其率を低下す、未だ此例なし。  
 大邱府 同一路線の同種の工事については重ねて土地坪數割を賦課することを得ず、但し後の工事に依り賦課せらるべき額が前に賦課したる額を超過する時は其の超過額の限度に於て賦課する事を得。



## 九 公用制限ある土地（例へば市街地建築物法第十一條都市計畫法第十一條の如き）に對して負擔金の課徴について如何に處理するや

横須賀市 目下該當事項なし。

濱松市 別段處理法を講せず、規定なし。

名古屋市 特例なし。

大阪市 是等の土地に對し負擔金を相當輕減するが妥當なりと思ふ。然し現行制度に於ては大阪都市計畫路面改良事業の負擔規定即ち大正十二年八月内務省令第十七號中に他の新設擴張の道路の境域内の土地に對し負擔の全部又は一部免除するを得る事を規定せられたる外其の減免制度なし。

神戸市 特例なきも市の他の經濟において買収する場合は其の分を實質上負擔するを常例とす。

### 一〇 負擔金賦課標準決定の實況

（イ）受益の有無及厚薄の算定上規準となしつゝある法ありや （ロ）負擔區域の決定に關する現行準則の適否 （ハ）負擔金總額の決定方法

濱松市 イ、受益の有無及厚薄の算定について確たる規準なし。

ロ、負擔區域の決定について現今の省令に依れば道路幅員の三倍、廣場にありては之に接續する幅員最大の道路の三倍の地域とされてゐるが本市の如き小都市には適當と考ふ。

ハ、受益限度に依る。

名古屋市

イ、受益の有無及其厚薄の算定は土地の價格及貨賃料の影響を考慮して其範圍を定め事業用地及付近地の時價附近地の狀況並に其社會的利用價值を綜合し是等の總歩合を考覆して其程度を定め負擔額を配分するの外特定したる基準なし。

ロ、現行負擔區域は道路の新築擴張に在りては其の境界線より幅員の各七倍、路面鋪裝にあつては兩側各二十間の地域とするも負擔地域を幅員に比例して劃一的に限定する事は實際に適合せざる場合あるべし。

ハ、受益限度による。

大阪市

イ、都市計畫法施行令第九條第四號、道路法第三十九條並同施行令第二十條及内務省令に基いてなす。

ロ、負擔區域は現行省令及市告示をもつて適當なりとすれども、省令の場合もしその區域變更を要する場合は市長裁量に委任せられん事を望む。現に執行中に係るものは大阪舊市域を主としたるものにして其負擔區劃としては適當なり然れども相當廣大なる負擔區劃内には種々の地物に依り土地の狀況を區分せられ著しきは其の地物の容面には何等利益を及ぼさざる場合多々あり、現行制度は此場合内務大臣が別の負擔區劃を決定する事とせり、然れどもかかる場合に一々之を内務大臣の決定に俟つが如きは事實上不可能なるが故に大阪市長に於て決定し得る様改正すべき要あり。

ハ、受益限度及市財政の都合を考慮して決定する。

神戸市

イ、受益有無の算定上の規準なし、厚薄の算定上の規準は各地帯を設けこれに負擔率を定めてこれを決定す。

ハ、受益限度による。

大邱府

イ、方法なし。

ハ、府財政の都合に依り決定す。

馬山府

イ、當府に於ては現在五人の評議員（府議員）を置き決定の方法としては先づ近地賣買の實例、其の他に照し工事竣功後の時價を評價し同評價額より工事着手當時の價格及土地改良費（事業施行のため特に土地の入手を要するに至りたる費用）を控除したる額を以て賦課標準額とせり、又事業の爲殘地の利用價值減殺されたものには受益額減免

- に付裁量の方法を講ず。  
 ロ、現行條例にて別に不都合なし。  
 ハ、受益限度に依るものとす。

## 一一 現行賦課率決定方法

高崎市	間口、面積、距離主義併用。
横須賀市	間口主義と距離主義の併用。
濱松市	間口主義、面積主義距離主義の併用。
名古屋市	間口主義、面積主義、距離主義併用。
豊橋市	名古屋市に同じ。
大阪市	名古屋市に同じ。
神戸市	間口、面積、距離主義により評價主義は直接に之を用ゐざるも負擔區の決定に用地の評定價格の大差なき範圍をもつて定むるを常とするが故に多少用地買收價額により負擔額が左右せらるゝを免れず。
大邱府	間口主義面積主義併用。
馬山府	評價主義による。

(備考) 一、別掲規程「負擔金賦課の標準」参照。

二、横須賀市課金算方法の詳細は次の如し。

### 道路受益者負擔金賦課金額算定法 (乙編別掲規程参照)

式 =

$$\begin{aligned} \text{矩形地算定方法} & \quad x = \frac{S}{2} \times \frac{a \cdot P}{A \cdot P} \\ \text{三角割地の算定方法} & \quad x = \frac{S}{2} \times \frac{a \cdot P}{A \cdot P} \cdot \frac{1}{P} \end{aligned}$$

- X = 一定の土地に對する負擔額  
 S = 負擔金總額  
 A = 賦課すべき地域の間口總延長  
 P = 賦課すべき地域の奥行に對する漸減率  
 a = 賦課すべき一定の土地の間口  
 P = 賦課すべき一定の土地の奥行に對する漸減率  
 P = 底邊の道路に近き三角割地の矩形に對する負擔漸減率  
 (註間口及奥行の延長の單位は尺を以て爲すこと)

例

- 一、工事施行區間 [工事施行道路延長 1,200尺 (200間)]  
 [工事施行後道路幅員 54尺 (9間)]  
 二、賦課金額 ¥ 10,000.00

- 三、賦課區域 {間口延長 1,200尺 (200間)}  
 {奥行幅員 270尺 (45間)}

(道路の兩端に於て道路境界線より新設又は改築後に於ける道路有效幅員の各五倍)  
 四、賦課區域の片側負擔 (片側の賦課金額) ¥ 5,000.00 (賦課總額の二分の一)

分母 {片側間口延長 1,200尺 此の百分率は 127.40  
 {奥行長 270尺 (第1表270尺を參照)}

五、各土地一筆毎の賦課金算定方法

分子 例の一

甲の土地は間口10尺奥行10尺なり

(片側負擔金) (間口) (奥行矩形率) 答  

$$¥ 5,000.00 \times \frac{10}{10} \times \frac{25.00}{127.40} = ¥ 8,176$$
 (間口總延長) (全奥行矩形率)  
 (註分子の奥行率は第一表10尺の率を参照のこと)

例 二

乙土地は間口10尺奥行10尺なり  
 (間口) (奥行矩形率) 答  

$$¥ 5,000.00 \times \frac{10}{10} \times \frac{8.22}{127.40} = ¥ 2,688$$
 (間口總延長) (全奥行矩形率)

本土奥行の最後は道路境界より15尺なるを以て奥行矩形率33.33(第一表15尺の率を参照)なるも甲地の奥行10尺此奥行矩形率35.00を差引たる殘矩形率8.33が即ち乙地の奥行の漸減率なり

例 三

丙土地は間口10尺奥行15尺なり  
 (片側負擔金) (間口) (矩形奥行率) (三角割地奥行漸減率) 答  

$$¥ 5,000.00 \times \frac{10}{10} \times \frac{33.22}{127.40} \times \frac{52.76}{100} = ¥ 5,731$$
 (間口總延長) (全奥行矩形率)  
 (註土地が三角割地なるときは先づ之を與へられなる間口と奥行を有する矩形として負擔額を算定し更に之へ三角形奥行率を乗すること)

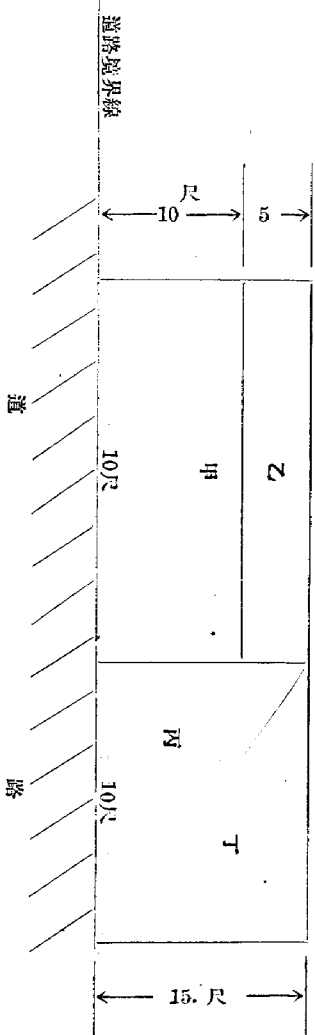
例 四

丁土地は間口10尺奥行15尺なり  
 (片側負擔金) (間口) (矩形奥行率) (三角割地奥行漸減率) 答  

$$¥ 5,000.00 \times \frac{10}{10} \times \frac{33.22}{127.40} \times \frac{47.25}{100} = ¥ 5,133$$
 (間口總延長) (全奥行矩形率)

三角割地の次點が街路に近き場合は前同斷の方法にて先づ矩形のものとして其の負擔額を求め之を100%として其れよ

六、此の三角形の奥行に相當する第二表の百分率を引去りたる殘りの數を乗じて算出する  
 多角形又は圓形の土地は矩形若は三角形地を幾個にも作り算定したる後合計するものなり



二 其 他

(1) 東 京 市

一 現行負擔金の種別

種 別	規 程
路面改良費負擔金	大正十一年十月七日市告示第一七五號 道路鋪裝工事費受益者負擔規程

種別	規程
2 側溝費負擔金	大正十三年二月十三日市告示第四八號 側溝工事費受益者負擔規程
3 都市計劃事業四谷區燒失跡地負擔金	大正十二年一月三十一日內務省令第四號 東京都市計畫土地區劃整理事業に行ふ道路新設擴築受益者負擔に關する件
4 同街路修築費負擔金	昭和四年八月一日內務省令第三四號 東京都市計畫事業道路受給者負擔に關する件
5 同古川筋改修費負擔金	昭和四年八月一日內務省令第三五號 東京都市計畫事業古川改修受給者負擔に關する件
6 下水道改良費負擔金	大正十四年十二月五日內務省令第二八號 東京都市計畫東京市下水道事業受給者負擔に關する件

## 二 各種負擔金總額の各事業費に對する割合

- 路面改良費負擔金 一坪當豫算工費に道路幅員に依る係數を乘じて得たる一間當負擔標準額に基き沿道土地の滑道間數、坪數及地位に應じて定む
- 側溝費負擔金 事業費の三分の一
- 四谷區燒失跡地負擔金 幅員三間以下の道路の兩側に在りては三分の二、幅員三間を超える道路の兩側に在りては二分の一
- 街路修築費負擔金 道路新設の場合は三分の一、道路擴築の場合は四分の一
- 古川改修費負擔金……………十分の三
- 下水道改良費負擔金 事業費の三分の一

## 三 自大正十一年度至昭和五年三年度道路鋪裝工事受益者負擔金收納成績表（昭和五年三月末日現在）

種別	年度	種別	年度
調定（人金）	十一年度正	調定（人金）	十一年度正
收納（人金）	十二年度正	收納（人金）	十二年度正
未納（人金）	十三年度正	未納（人金）	十三年度正
未納（人金）	十四年度正	未納（人金）	十四年度正
未納（人金）	昭和元年度	未納（人金）	昭和元年度
未納（人金）	昭和二年和	未納（人金）	昭和二年和
未納（人金）	昭和三年和	未納（人金）	昭和三年和
未納（人金）	昭和四年和	未納（人金）	昭和四年和
未納（人金）	計	未納（人金）	計

（備考） 收納歩合は收納額の調定額に對する割合なり

## 四 自大正十二年度至昭和五年三年度側溝工事費受益者負擔金收納成績表（昭和五年三月末日現在）

種別	年度	種別	年度
調定（人金）	十二年度正	調定（人金）	十二年度正
收納（人金）	十三年度正	收納（人金）	十三年度正
未納（人金）	十四年度正	未納（人金）	十四年度正
未納（人金）	昭和元年度	未納（人金）	昭和元年度
未納（人金）	昭和二年和	未納（人金）	昭和二年和
未納（人金）	昭和三年和	未納（人金）	昭和三年和
未納（人金）	昭和四年和	未納（人金）	昭和四年和
未納（人金）	計	未納（人金）	計

種別	年度	收納 歩合 人金 員額	未 納 人金 員額	缺 損 人金 員額	收 納 人金 員額	調 定 人金 員額
	大正十二年正	一、三三三				
	大正十三年正	三、三三三				
	大正十四年正	七、二二二				
	大正十五年正	四、三三三				
	昭和二年和	三、三三三				
	昭和三年和	三、三三三				
	昭和四年和	三、三三三				
	計	三、三三三				

五 自大正十二年度至昭和五年三月末日現在 道路及側溝負擔金分納利子收納成績表 (昭和五年三月末日現在)

種別	年度	收納 歩合 人金 員額	未 納 人金 員額	缺 損 人金 員額	收 納 人金 員額	調 定 人金 員額
	大正十二年正	五、五五五				
	大正十三年正	六、六六六				
	大正十四年正	二、二二二				
	大正十五年正	三、三三三				
	昭和二年和	三、三三三				
	昭和三年和	三、三三三				
	昭和四年和	三、三三三				
	計	三、三三三				

種別	年度	收納 歩合 人金 員額
	大正十四年度	一、一〇〇
	昭和二年度	〇・〇六六
	昭和三年度	〇・〇九九
	昭和四年度	〇・〇九九
	計	〇・〇九二

六 四谷區燒失跡地負擔金徵收實績 (昭和五年四月末日現在)

種別	年度	收納 歩合 人金 員額	未 納 人金 員額	缺 損 人金 員額	收 納 人金 員額	調 定 人金 員額
	大正十四年度	一、一〇〇				
	昭和二年度	〇・〇六六				
	昭和三年度	〇・〇九九				
	昭和四年度	〇・〇九九				
	計	〇・〇九二				

七 自大正十四年度至昭和五年四月末日現在 水道事業受益者負擔金收納成績表 (總計昭和五年四月末日現在)

種別	年度	收納 歩合 人金 員額	未 納 人金 員額	缺 損 人金 員額	收 納 人金 員額	調 定 人金 員額
	大正十四年度	一、一〇〇				
	昭和二年度	〇・〇六六				
	昭和三年度	〇・〇九九				
	昭和四年度	〇・〇九九				
	昭和五年度	〇・〇九九				
	計	〇・〇九二				

種別	年度	大正十四年度	大正十五年度	昭和元年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度	昭和五年度	計
收納	金額	三、八六六	五、〇三三	七、四三〇	七、四三七	六、一三三	三、〇八三	三、〇八三	三、〇八三
未納	金額	二、八六六	五、〇三三	五、〇三三	五、〇三三	五、〇三三	五、〇三三	五、〇三三	五、〇三三
欠損	金額	二、二二二	二、二二二	二、二二二	二、二二二	二、二二二	二、二二二	二、二二二	二、二二二
收納歩合	人員額	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

(口) 大 阪 市

一 現行負擔金の種別及其總額の各事業費に對する割合

- (1) 都市計畫事業街路新設 事業費の三分の一
- (2) 同 擴築 事業費の四分の一
- (3) 同 路面改良 片側に於て事業費の四分の一  
大正十一年八月内務省令一八號
- (4) 同 第一、二期下水道 事業費の六分の一  
大正十二年七月内務省令二四號
- (5) 同 第三期下水道 事業費の四分の一
- (6) 同 高速度軌道建設 昭和五年四月内務省令一三號
- (7) 道路法に依る道路新設改築 事業費の二分の一  
大正十二年八月市告示一〇六號
- (7) 同 路面改良 事業費の二分の一  
大正一〇年八月市告示一一九號

同上昭和四年度實績に依る割合

種別	負擔金額	事業費	割合
都市計畫新設	四、三一六、〇四二	一五、六五七、四四六	二割七分五厘
擴築	一、〇四八、六七七	五、三一五、五六一	一割九分七厘
路面改良	一五三、七九二	五〇九、六四六	三割〇分三厘
第一期下水道	五八八、二二八	三、五七五、〇三六	一割六分一厘
第二期下水道	六六七、五六七	四、〇八八、七八四	一割六分三厘
第三期下水道	四、二二四、一五九	一七、五〇〇、〇〇〇	二割四分一厘
道路法に依る新設改築	二〇〇、一五六	六七九、八二九	二割九分四厘

二 各種負擔金徴收の實績 (昭和四年度實績)

事業別	賦課	收入	欠損	間口一間當賦課率	面積一坪當賦課率
都市計畫事業街路新設	金額 二、三六六、六五五 人員 八八〇	金額 一、七七八、〇七七 人員 六九六	金額 一、五八八、五七八 人員 八八〇	最高 一、五八八、五七八 最低 一、五八八、五七八	最高 一、五八八、五七八 最低 一、五八八、五七八
街路擴築	金額 一、〇四八、六七七 人員 八八〇	金額 一、〇四八、六七七 人員 八八〇	金額 一、〇四八、六七七 人員 八八〇	最高 一、〇四八、六七七 最低 一、〇四八、六七七	最高 一、〇四八、六七七 最低 一、〇四八、六七七
路面改良	金額 一五三、七九二 人員 八八〇	金額 一五三、七九二 人員 八八〇	金額 一五三、七九二 人員 八八〇	最高 一五三、七九二 最低 一五三、七九二	最高 一五三、七九二 最低 一五三、七九二

事業別	賦課		收入		損		間口一間當賦課率		面積一坪當賦課率	
	金額	人員	金額	人員	金額	人員	最高	最低	最高	最低
道路法に依る街路新設擴築	二七三、五〇〇	三六六	一六、八六六	二六			一六、四三三	一三、八四四	八、五五二	七、七三三
都市計畫事業第一次下水道	五八八、三六六	一、四三三	五七、七六一	一、五三三					一、三三三	四、七六六
同 第二次下水道	六七、七六一	六六	六六、七六一	六六					六、八五五	三、九三三
同 第三次下水道	四、三四一、五〇〇	七、四三三	目下徵收中						一、三三三	三、九三三

(備考) 表中第一次下水道負擔金は自大正十一年度、第二次は自大正十三年度に徵收し第三次は目下徵收中なり。

三路線別地帶配分率負擔率一覽表

新設 擴築	線 名	路幅割合	一 地 帶				二 地 帶				三 地 帶				四 地 帶			
			率	幅	一間當口	一坪當	率	幅	一間當	一坪當	率	幅	一間當	一坪當	率	幅	一間當	一坪當
新設	奈良街道線	1/3	60%	二五	八、〇三三	五、四七五	40%	三三	三、二九三									
擴築	城南線	1/4	60%	二六	一六、三三三	八、〇三三	40%	三三	四、八六六									
擴築	日本橋筋線 (第一負擔區)	1/4	60%	二六	九、二五五	五、四七五	40%	三三	四、八六六									
擴築	日本橋筋線 (第二負擔區)	1/4	60%	二六	九、二五五	五、四七五	40%	三三	四、八六六									
新設	鶴橋線 (第一負擔區)	1/3	60%	二五	二五、三三三	一、〇三三	40%	三三	四、八六六									

新設	鶴橋線 (第二負擔區)	1/3	60%	二五	二五、三三三	一、〇三三	40%	三三	四、八六六									
新設	鶴橋線 (第三負擔區)	1/3	60%	二五	二五、三三三	一、〇三三	40%	三三	四、八六六									
新設	北安治川線 (第一負擔區)	1/4	60%	二六	一六、三三三	八、〇三三	40%	三三	四、八六六									
擴築	西横堀線	1/4	60%	二六	一六、三三三	八、〇三三	40%	三三	四、八六六									
新設	北野線	1/3	60%	二五	二五、三三三	一、〇三三	40%	三三	四、八六六									
新設	泉尾線 (第一負擔區)	1/3	60%	二五	二五、三三三	一、〇三三	40%	三三	四、八六六									
新設	泉尾線 (第二負擔區)	1/3	60%	二五	二五、三三三	一、〇三三	40%	三三	四、八六六									
新設	泉尾線 (第三負擔區)	1/3	60%	二五	二五、三三三	一、〇三三	40%	三三	四、八六六									
擴築	梅田九條線	1/4	60%	二六	一六、三三三	八、〇三三	40%	三三	四、八六六									
擴築	御堂筋線	1/4	60%	二六	一六、三三三	八、〇三三	40%	三三	四、八六六									
擴築	天神橋西筋線 (第一負擔區)	1/4	60%	二六	一六、三三三	八、〇三三	40%	三三	四、八六六									
新設	天神橋西筋線 (第二負擔區)	1/3	60%	二五	二五、三三三	一、〇三三	40%	三三	四、八六六									
新設	天神橋西筋線 (第三負擔區)	1/3	60%	二五	二五、三三三	一、〇三三	40%	三三	四、八六六									
擴築	長堀線 (第一負擔區)	1/4	60%	二六	一六、三三三	八、〇三三	40%	三三	四、八六六									





區分	所	要	人	員
1、係主任	主事一人			
2、賦課				
(イ)測量	技手四人	雇一人	助手一四人	
(ロ)調定	書記五人	雇一人		
3、徴收				
(イ)收入	書記一人	雇一人		
(ロ)督促	書記五人	雇一人		

以上所要人員に對する給料額二九、〇〇〇圓、雜給其他八、五〇〇圓、にして徴收額百圓當一圓二十錢強の徴收費を要する計算なり、下水道的に其の費用の計算困難なるを以て之を略す

## 五 受益者負擔金賦課標準調

[illegible]

路面鋪装	道路法に依る 街路新設擴築	同水道事業	同路面鋪装
	道路法第三十九條並 同法施行令第二十條 に依り内務大臣の認 可を受けて管理者た る大阪市長之を決定 するもの		
大正十一年八月内務省令第二條(兩側に於て奥行二十間)	大正十二年八月大阪市告示第一〇六號第二條(兩側に於て奥行二十間の地域)	大正十二年七月内務省令第二十四號第二條(排水區域内)	大正十二年十月内務省令第四〇號
工事費の四分の一	同告示第三條 工事費の二分の一	同告示第四〇號 工事費の六分の一	同告示第七條 工事着手の日現在に依る
同告示第八條 工事着手の日現在に依る	同告示第十條 工事着手の日現在に依る	同告示第十一條 工事着手の日現在に依る	同告示第十二條 工事着手の日現在に依る

(八) 京都市

受益者負擔金年度別徵收(收入)成績表

昭和三年	年次	調定額	収入額	収入未済繰越額	調定額百に對する 収入歩合 収入未済歩合
	四五、三・八〇〇 <small>円</small>	三八、五三・四〇〇 <small>円</small>	四六、八五・六〇〇 <small>円</small>	六・三 <small>百</small>	

年次	調定額	収入額	収入未済繰越額	調定額百に對する 収入歩合	収入未済歩合
昭和二年	二四、八六・九三	三三、二七・五〇	四、五二・三六	八・三〇	一七・四〇
同元	六四、八四・五四	五九、八六・八九	九、〇四・六五	八・三三	一三・八七
大正十四年	六九、八二・八四	六九、六六・九〇	三、一五・九四	九・三〇	四・五〇
同十三年	二四、三二・三〇	二七、二八・〇〇	九四・三〇	九・三三	〇・六
計	二、三三、〇九・四〇	二、〇七、五九・五〇	二五、五二・六〇	九・四六	九・五

路線別に依る受益者負擔金徴収成績表

昭和四年末調査

年次	調定額	収入額	収入未済繰越額	調定額百に對する 収入歩合	収入未済歩合
一號線の一部	一五、一五・五〇	三三、五五・四〇	四、六六・六〇	六・元	三・三
四號線の一部	二四、四三・五〇	二六、三三・三〇	七、〇二・六〇	六・元	三・七
三條通	四、一五・七〇	三、六〇・五〇	一〇、五三・二〇	七・七	三・四
五號線	一、三六、四三・四〇	一、七二、〇七・一〇	一八、四三・五〇	九・四七	八・四
七號線	三〇、六九・二〇	二八、九一・四〇	六・七六・〇	九・七	〇・三
八號線	四、六六・七〇	四、二九・九〇	九三・六〇	九・三	二・五
十一號線	一三、八五・五〇	一三、八五・七〇	一五、〇〇・七〇	八・九	一〇・八

(二) 名古屋市

一 各種負擔金の種別及其總額の各事業費に對する割合  
既設事業費に對する負擔總額の割合左の如し

事業別	事業費に對する 負擔總額の割合
新設擴張 路面鋪裝	二八・一 三七・三
道路工事費受益者負擔金	道路法第三十九條に依るもの
都市計畫事業受益者負擔金	道路新設擴張 運河新設 二八・〇 三一・七
	都市計畫法第六條第二項に依るもの

二 各種負擔金徴収の實績

(昭和五年四月末日現在)

種 別	調 定 額	收 入 額	滞 納 額	缺 損 額	備 考
道路法による受益者 負擔金	三五、五元	三四、八八	二六、七二	一	路線數 一〇
都市計畫法による道 路新設擴築受益者負 擔金	二、三四、七六	二、三三、四五	一〇、八四〇	一、五三	路線數 六
同上による運河工 事費受益者負擔金	三、八六、四九	三、六六、八五	一九、五四	一	路線數 一
計	六、四〇、七四	六、一八、二〇	三三、〇五	一、五三	

### 三 各種負擔金賦課徵收機關の構成及其費用

本市に於ては從來土木事業に對する負擔金のみなるを以て之が賦課に付ては別に機關を設けず土木部庶務課に於て之を兼掌し徵收は所屬區長に委任し之を司らしむ、賦課徵收に關する費用大約負擔金の百分の三なり

#### 受益者負擔金重疊の實例

事 業 別	重 複 面 積	負 擔 金	平均一坪當	摘 要
都市計畫法による 道路擴築事業	四、一四〇 坪	三、三三〇	三七、六九	九、〇五三箇年以内の重複
道路法による 道路擴築事業		六、三六		

都市計畫法による 道路擴築事業	三、一、五二〇	三、〇五、〇七	三、七、〇八	二、七、五三箇年以内の重複
道路法による 路面鋪裝事業		六、四、七六		
都市計畫法による 道路擴築事業		三、三、〇七		
道路法による 道路擴築事業		四、五、四四		
同上 路面鋪裝事業	一、五〇〇	二、六、三	一九、五三	四、三、七五箇年以内の重複

負擔金を課徴し開設したる事業又は施設の維持修繕に對し受益者負擔金を課徴したることなし

昭和五年九月三十日印刷  
昭和五年十月三日發行

非賣品

不許複製

編輯兼  
發行者  
東京市麹町區內山下町二丁目一番地  
財團法人  
東京市政調查會

印刷者  
東京市京橋區鈴木町二番地  
石丸祐正

東京亞細亞印刷株式會社印刷

發行所

東京市麹町區內山下町二ノ一  
振替口座東京七一六〇九番

財團法人

東京市政調查會

## 第四篇 都市膨脹の趨勢一斑

以下の諸表は、近く東京市政調査會より出版すべき「日本都市年鑑」に收載する爲めに、作成せられたるもの、本問題の参考として適當なるを以て、特に爰に流用す



第一 各市市域擴張一覽

第二 各市戶數及人口

## 1 市域の擴張 (始)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併 合 面 積 (坪)	併 合 戸 数 (戸)	併 合 人 口 (人)
1 大 阪 市 (大 阪)	明治22. 4. 1 明治30. 4. 1       明治31.10. 1 大正14. 4. 1	特例市制施行 西成郡九條村、三軒家村、天保町、西濱町、難波村、北野村、曾根崎村、上福島村、下福島村ノ各全部、川南村、川北村、傳法村、木津村、今宮村、川崎村野田村、豊崎村ノ各一部。東成郡西高津村、東平野村、清堀村玉造町ノ各全部、天王寺村、生野村、鶴橋村、中本村、鯉江村都島村、野田村ノ各一部ヲ併合 一般市制施行 西成郡、東成郡各全部ヲ併合	28       44	15,408,398       34,106,000	38,835       187,855	183,253       782,820
2 東 京 市 (東 京)	明治22. 5. 1 明治31.10. 1 大正 9. 4. 1	特例市制施行 一般市制施行 豊多摩郡内藤新宿町ヲ併合	  1	  330,563	  7,738	  15,007
3 名古屋市 (愛 知)	明治22.10. 1 明治29. 3. 明治31. 8. 明治40. 6. 1 明治42.10.  大正10. 8.22	市制施行 愛知郡御器所村ノ一部ヲ併合 古澤村ノ一部及郡古野村ヲ併合 熱田町ヲ併合 愛知郡千種町及御器所村ノ各一部ヲ併合 西春日井郡枇杷島町、金城村、清水町、杉村、六郷村。愛知郡千種町、東山村、御器所村、呼続村、小碓村、荒子村、八幡村愛知町、中村、常磐村、笠寺村ヲ併合	1 2 1 2  16	245,150 657,934 4,791,621 324,116  33,666,970	..... ..... 8,618 577  36,270	..... ..... 38,892 2,141  180,867
4 京 都 市 (京 都)	明治22. 4. 1 明治31.10. 1 明治35. 2. 大正 7. 4. 1	特例市制施行 一般市制施行 葛野郡大内村ノ一部ヲ併合 愛宕郡白川村、田中村、鞍間口村、野口村、下鴨村、葛野郡衣笠村、朱雀野村、大内村、七條村、紀伊郡東九條村、柳原町、ノ各全部及愛宕郡上賀茂村、大宮村、葛野郡西院村。紀伊郡上鳥羽村ノ各一部ヲ併合	1 16	..... 7,497,619	..... 23,011	..... 97,642
5 神 戸 市 (兵 庫)	明治22. 4. 1 明治29. 4. 明治30. 4. 1 大正 9. 4. 1 昭和 4. 4. 1	市制施行 武庫郡須磨村ノ内池田村ヲ併合 武庫郡湊村及林田村ヲ併合 武庫郡須磨町ヲ併合 武庫郡西灘村、西郷町、六甲村(西平野ヲ除ク)ヲ併合	1 2 1 3	..... ..... 7,364,650 1,5926(方里)	..... ..... 5,736 14,993	..... ..... 23,249 60,804

## 1 市域の擴張 (續)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併 合 面 積 (坪)	併 合 戸 数 (戸)	併 合 人 口 (人)
6 横 濱 市 (神 奈 川)	明治22. 4. 1 明治34. 4. 1  明治44. 4. 1   昭和 2. 4. 1	市制施行 久良岐郡保土ヶ谷町ノ一部、戸太町、中村町、根岸村、本牧村橋樹郡神奈川町ヲ併合 橋樹郡子安村大字子安、久良岐郡屏風浦村大字瀧頭、磯子、岡大岡川村大字堀内、蒔田、井土ヶ谷ノ全部、岡村大字下大岡、弘明寺、上大岡、中里ノ各一部ヲ併合 久良岐郡屏風浦村、大岡川村、日下村、橋樹郡保土ヶ谷町、城郷村、大綱村、旭村、鶴見町、都筑郡西谷村ヲ併合	6  3   9	5,863,325  3,601,843  6.24(方里)	11,366  2,045  23,000	57,906  10,524  110,000
7 廣 島 市 (廣 島)	明治22. 4. 1 明治37. 9.15  昭和 4. 4. 1	市制施行 安藝郡仁保島村ノ内字字品ヲ併合 安藝郡仁保村、矢賀村、牛田村。安佐郡三篠町、佐伯郡已斐町、古田村、草津町ヲ併合	1  7	174,000  .....	  171  .....	757  .....  .....
8 長 崎 市 (長 崎)	明治22. 3. 5 明治22. 4. 1 明治31.10. 1  大正 9.10. 1	西彼杵郡上長崎村及下長崎村ノ一部ヲ併合 市制施行 西彼杵郡下長崎村、戸町村、淵村ノ全部及浦上山里村、上長崎村ノ各一部ヲ併合 西彼杵郡上長崎村及浦上山里村ヲ併合	2  5  2	.....  .....  12,488,779	2,284  6,821  3,226	7,151  35,333  17,627
9 函 館 市 (北 海 道)	明治32.10. 1 大正11. 8. 1	北海道區制施行 市制施行	  1	  .....	  .....	  .....
10 金 澤 市 (石 川)	明治22. 4. 1 明治43.10. 大正14. 4. 1 大正14. 4.10	市制施行 河北郡小坂村字淺野中島ヲ併合 石川郡野村ヲ併合 石川郡弓取村ヲ併合	1 1 1	567 2,819(方里) 0.152(方里)	11 357 281	60 2,311 1,435
11 熊 本 市 (熊 本)	明治22. 4. 1 大正10. 6. 1   大正14. 4. 1	市制施行 飽託郡池田村、花園村、横手村春日町、古町村、黒髪村、鳥崎村、本庄村、本山村、春竹村、大江村ヲ併合 飽託郡出水村ヲ併合	11   1	8,150,803   1,349,244	10,032   1,495	54,700   3,141

## 1 市域の擴張 (續)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併合 面積 (坪)	併合 戸数 (戸)	併合 人口 (人)
12 福岡市 (福岡)	明治22. 4. 1	特別市制施行				
	大正 1.10. 1	筑紫郡警固村ヲ併合	1	46,557	465	3,627
	大正 4. 4. 1	筑紫郡豊平村大字豊富及堅粕ヲ併合	1	572,892	584	3,471
	大正 8.11. 1	早良郡島飼村ヲ併合	1	716,930	1,200	6,400
	大正11. 4. 1	早良郡西新町ヲ併合	1	.....	.....	.....
	大正15. 4. 1	筑紫郡八幡村ヲ併合	1	.....	.....	.....
	昭和 3. 4. 1	筑紫郡堅粕町ヲ併合	1	.....	.....	.....
	昭和 3. 5. 1	筑紫郡千代町ヲ併合	1	.....	.....	.....
	昭和 4. 4. 1	早良郡樋井川村、原村ヲ併合	1	.....	.....	.....
13 札幌市 (北海道)	明治32.10. 1	北海道區制施行				
	明治43. 4. 1	札幌支廳札幌村、豊平町、白石村、藻岩村ノ一部ヲ併合	4	3,255,952	1,689	10,571
	大正11. 8. 1	市制施行				
14 仙臺市 (宮城)	明治22. 4. 1	市制施行				
	昭和 3. 4. 1	宮城郡原町七郷村大字南小泉ノ一部及名取郡長町ヲ併合	3	.....	.....	.....
15 呉市 (廣島)	明治35. 9. 1	安藝郡和庄町、莊山田村、宮原村及二川町ヲ併セテ呉町ヲ置ク		.....	.....	.....
	明治35.10. 1	市制施行				
	昭和 3. 4. 1	安藝郡吉浦町、警固屋町、賀茂郡阿賀町ヲ併合	4	.....	.....	.....
16 小樽市 (北海道)	明治32.10. 1	北海道區制施行				
	大正11. 8. 1	市制施行				
17 鹿児島市 (鹿児島)	明治22. 4. 1	市制施行				
	明治44. 9.30	本市荒田村ノ一部ヲ鹿児島郡西武田村ニ編入シ、西武田村及伊敷村ノ一部ヲ本市ニ併合	2	466,560	300	1,500
	大正 9.10. 1	鹿児島郡伊敷村ノ一部ヲ併合	1	466,560	420	2,067
18 岡山市 (岡山)	明治22. 6. 1	市制施行				
	明治32. 8. 1	上道郡三權野村ノ全部、御野郡古鹿田村大字七日市ノ全部及大字二日市、十日市ノ一部ヲ併合	2	.....	.....	.....
	大正10. 3. 1	御津郡御野村ノ一部、伊島村、石井村、鹿田村ノ全部ヲ併合	4	4,222,368	2,472	11,260

## 1 市域の擴張 (續)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併合 面積 (坪)	併合 戸数 (戸)	併合 人口 (人)
19 八幡市 (福岡)	大正 5. 4. 1	企救郡板櫃村大字榎田ノ一部ヲ八幡町ヘ併合		.....	.....	.....
	大正 5. 7. 1	遠賀郡黒崎町ノ一部ヲ八幡町ヘ併合		.....	.....	.....
	大正 6. 3. 1	市制施行				
	大正14. 4. 1	企救郡板櫃村ノ一部ヲ併合	1	.....	.....	.....
	大正15.10.20	遠賀郡黒崎町ヲ併合	1	.....	.....	.....
20 新潟市 (新潟)	明治22. 4. 1	市制施行				
	大正 3. 4. 1	中蒲原郡沼垂町ヲ併合	1	1,614,320	2,815	14,449
	大正 8. 8. 1	中蒲原郡石山村大字馬越郷又ノ一部ヲ併合	1	117,417	221	950
21 堺市 (大阪)	明治22. 4. 1	市制施行				
	明治27. 2.10	大島郡向井村ノ一部ヲ併合	1	.....	.....	.....
	大正 9. 4. 1	泉北郡湊町、向井町ヲ併合	2	1,497,000	3,252	13,960
	大正14.10. 1	泉北郡船松村ヲ併合	1	.....	.....	.....
	大正15. 9. 7	泉北郡三寶村ヲ併合	1	.....	.....	.....
22 横須賀市 (神奈川)	明治39.12.15	三浦郡豊島町ヲ横須賀町ニ併合		.....	.....	.....
	明治40. 2.15	市制施行				
23 和歌山市 (和歌山)	明治22. 4. 1	市制施行				
	大正11.11. 1	海草郡湊村ノ一部ヲ併合	1	1,014,300	820	3,824
	昭和 2. 4. 1	海草郡雑賀村ヲ併合	1	.....	.....	.....
	昭和 2.11. 1	海草郡宮村ヲ併合	1	.....	.....	.....
24 佐世保市 (長崎)	明治35. 3.14	佐世保村ノ内一部ヲ割キテ佐世保村ヲ設置				
	明治35. 4. 1	市制施行				
	明治37. 4. 1	本市庵ノ免宇高崎外十字ヲ北松浦郡山口村ニ編入。東彼杵郡日字村ノ一部ヲ本市ニ併合	1	.....	.....	.....
	昭和 2. 4. 1	東彼杵郡日字村及佐世保村ヲ併合	2	.....	.....	.....
25 門司市 (福岡)	明治27. 7.21	企救郡文字關村ヲ門司町ニ改ム				
	明治32. 4. 1	市制施行				
	大正12. 3. 1	企救郡大里町ヲ併合	1	.....	.....	.....
26 下關市 (山口)	明治22. 4. 1	赤間關市トシテ市制施行				
	明治35. 6. 1	下關市ト改稱				
	大正10. 1.10	豊浦郡生野村ヲ併合	1	2,799,360	1,080	4,617



## 1 市域の擴張 (續)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併 合 面 積 (坪)	併 合 戸 数 (戸)	併 合 人 口 (人)
27 濱松市 (静岡)	明治41.10.1	濱名郡淺場村大字淺田、海老塚 伊場、東鴨江ヲ濱松町ニ併合		.....	.....	.....
	明治44.7.1	市制施行				
	大正1.10.1	濱名郡富塚村大字兩道分、和知 山、濱松澤ノ全部及同村和合ノ 一部ヲ併合	1	319,259	232	1,160
	大正5.5.1	濱名郡曳馬村大字船越一色、野 口、八幡、下池川ノ全部、同村 大字上池川、高林及天神町村大 字馬込ノ各一部ヲ併合	2	50,824	683	3,500
	大正10.4.1	濱名郡天神町村ヲ併合	1	649,099	1,240	7,509
28 静岡市 (静岡)	明治22.4.1	市制施行				
	明治41.10.2	安倍郡豊田村大字南安東ノ一部 ヲ併合	1	65,850	60	190
	明治42.7.1	安倍郡南賤機村大字安西井ノ宮 安西内新田、安西外新田、安西 ヲ併合	1	454,663	304	1,543
	昭和3.10.1	安倍郡豊田村ヲ併合	1	.....	3,187	17,450
	昭和4.3.1	安倍郡安東村大里村ヲ併合	2	.....	.....	.....
29 豊橋市 (愛知)	明治39.7.16	渥美郡花田村豊岡村ヲ豊橋町ニ 併合		.....	.....	.....
	明治39.8.1	市制施行				
30 岐阜市 (岐阜)	明治22.7.1	市制施行				
	明治36.4.1	稲葉郡上加納村ヲ併合	1	996,710	725	3,185
31 宇都宮市 (栃木)	明治29.4.1	市制施行				
32 徳島市 (徳島)	明治22.10.1	市制施行				
	大正15.4.1	名東郡桑津村及沖洲村ヲ併合	2	.....	.....	.....
	昭和3.10.1	板野郡川内村字向別宮及金澤ヲ 併合	1	.....	.....	.....
33 前橋市 (群馬)	明治25.4.1	市制施行				
	明治34.4.1	勢多郡上川淵村大字六俣、天川 原、市ノ坪、紅雲分、前代田字 市分ヲ併合	1	920,503	482	2,410
34 旭川市 (北海道)	大正3.4.1	北海道區制施行				
	大正11.8.1	市制施行				

## 1 市域の擴張 (續)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併 合 面 積 (坪)	併 合 戸 数 (戸)	併 合 人 口 (人)
35 久留米市 (福岡)	明治22.4.1	市制施行				
	大正6.10.1	三潁郡鳥飼村ヲ併合	1	2,262,816	1,218	7,905
	大正13.11.1	三井郡國分村ヲ併合	1	.....	.....	.....
36 高松市 (香川)	明治23.2.15	市制施行				
	大正3.4.1	香川郡宮脇村ヲ併合	1	826,880	616	3,650
	大正10.1.1	香川郡東濱村ヲ併合	1	685,843	1,680	7,841
	大正10.11.1	香川郡栗林村ヲ併合	2	587,866	1,654	6,947
37 甲府市 (山梨)	明治22.7.1	市制施行				
38 大牟田市 (福岡)	大正6.3.1	市制施行				
	昭和4.4.1	三池郡三川村ヲ併合	1	.....	.....	.....
39 富山市 (富山)	明治22.4.1	市制施行				
	明治42.4.1	婦負郡櫻谷村大字牛島、愛宕、 畑中ノ各一部ヲ併合	1	.....	.....	.....
	大正6.4.1	婦負郡櫻谷村大字牛島、駒見、 愛宕、畑中、四谷ヲ併合	1	.....	.....	.....
	大正9.2.5	婦負郡櫻谷村ヲ併合	1	.....	.....	.....
	大正15.6.15	婦負郡東吳羽村ヲ併合	1	103,944	406	2,293
40 長野市 (長野)	明治30.4.1	市制施行				
	大正14.6.1	上水内郡吉田町、芹田村、古牧 村、三輪村ヲ併合	4	.....	.....	.....
41 高知市 (高知)	明治22.4.1	市制施行				
	大正6.3.15	土佐郡江ノ口町ヲ併合	1	970,445	1,000	3,660
	大正14.1.1	土佐郡旭村ヲ併合	1	3,248,000	1,668	7,861
	大正14.8.1	土佐郡鴨田村鴨部ヲ併合	1	96,000	580	2,950
	大正15.1.25	土佐郡下知町及潮江村ヲ併合	1	3,900,000	3,126	13,200
	昭和2.5.1	土佐郡小高坂村ヲ併合	1	276,000	1,170	4,954
42 松本市 (長野)	明治40.5.1	市制施行				
	大正14.2.1	東筑摩郡松本村ヲ併合	1	2,144,725	700	3,769
43 福井市 (福井)	明治22.4.1	市制施行				

## 1 市域の擴張 (續)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併合 面積 (坪)	併合 戸数 (戸)	併合 人口 (人)
44 松山市 (愛媛)	明治22.12.1 明治41.4.1	市制施行 温泉郡朝美村大字味酒ノ全部及 南江戸ノ一部、雄群村大字藤原 及竹原各一部、素鷲村大字立花 ノ一部及道後村大字一万ノ全部 及持田ノ一部ヲ併合	4	421,725	530	2,285
	大正12.2.11	温泉郡道後村、大字持田、道後 一万ヲ併合	1	.....	.....	.....
	大正15.2.11	温泉郡朝美村、雄群村、素鷲村 御幸村ノ全部ヲ併合	4	.....	.....	.....
45 青森市 (青森)	明治31.4.1 昭和2.4.1	東津輕郡青森町及瀧内村大字古 川ノ一部及浦町村全部ヲ合併シ テ市制施行 東津輕郡瀧内村大字古川、沖館 新用、造道村大字造道、八重田 ヲ併合	2	.....	.....	.....
46 山形市 (山形)	明治22.4.1	市制施行				
47 姫路市 (兵庫)	明治22.4.1 明治45.4.1	市制施行 飾磨郡國衙村ノ内豊澤村ノ一部 及市殿村ノ内神尾村、國府寺村 市之郷村ノ一部ヲ併合	3	559,220	731	3,291
	大正14.4.1	飾磨郡城北村ヲ併合	1	1,317,758	806	4,359
48 那覇市 (沖縄)	明治29.4.1 大正10.5.20	沖縄縣區制施行 市制施行				
49 川崎市 (神奈川)	大正13.7.1 昭和2.4.1	橋樹郡川崎町、大師町、御幸村 ヲ合併シテ市制施行 橋樹郡田島町ヲ併合	1	2,841,350	4,559	20,068
50 大分市 (大分)	明治40.4.1 明治44.4.1 大正11.4.1	大分郡西大分町花隈村及豊府村 ヲ大分町ニ併合 市制施行 大分郡東大分村大字津留ノ一部 ヲ併合	1	.....	.....	.....
51 長岡市 (新潟)	明治22.4.1 大正10.12.1	市制施行 古志郡四郎丸村ヲ併合	1	1,663,286	601	3,729
52 津市 (三重)	明治22.4.1 明治42.4.1	市制施行 安濃郡建部村、塔世村ヲ併合	2	598,784	484	3,593

## 1 市域の擴張 (續)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併合 面積 (坪)	併合 戸数 (戸)	併合 人口 (人)
53 小倉市 (福岡)	明治33.4.1 大正14.4.1 昭和2.4.1	市制施行 企救郡板櫃村ノ一部ヲ併合 企救郡足立村ヲ併合	1 1	..... .....	..... .....	..... .....
54 室蘭市 (北海道)	大正7.2.1 大正11.8.1	室蘭郡室蘭町、元室蘭町、輪西 村、千舞鶴村ヲ合併シテ北海道 區制施行 市制施行		.....	.....	.....
55 盛岡市 (岩手)	明治22.4.1 大正2.6.10 昭和3.4.1	市制施行 岩手郡厨川村ノ一部ヲ併合 岩手郡米内村ヲ併合	1 1	2,912,455 2,384(方里)	561 657	2,539 3,554
56 若松市 (福岡)	明治31.6.18 明治39.10.1 大正3.4.1	遠賀郡石峯村大字修多羅ヲ若松 町ニ併合 遠賀郡石峯村ヲ若松町ニ併合 市制施行		..... .....	..... .....	..... .....
57 奈良市 (奈良)	明治31.2.1 大正12.4.1	市制施行 添上郡佐保村ヲ併合	1	.....	.....	.....
58 宇部市 (山口)	大正10.11.1	市制施行				
59 水戸市 (茨城)	明治22.4.1	市制施行				
60 清水市 (静岡)	大正13.2.11	安倍郡清水町、入江町、不二見村 三保村ヲ合併シテ市制施行 (入江町ハ13.1.31庵原郡江尻 町ヲ併合)				
61 高崎市 (群馬)	明治33.4.1 昭和2.4.1	市制施行 群馬郡塚澤村及片岡村ヲ併合	1	.....	.....	.....
62 八王子市 (東京)	大正6.9.1	市制施行				
63 宇治山田 (三重)	明治39.9.1	市制施行				
64 米澤市 (山形)	明治22.4.1	市制施行				

## 1 市 域 の 擴 張 (續)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併 合 面 積 (坪)	併 合 戸 数 (戸)	併 合 人 口 (人)
65 岡 崎 市 (愛 知)	大正 5. 7. 1 昭和 3. 9. 1	市制施行 額田郡岡崎村、美合村、男川村 ノ全部及常盤村大字箱柳ヲ併合	4	9,427,000	2,681	15,005
66 尼 崎 市 (兵 庫)	大正 5. 4. 1	川邊郡尼崎町立花村大字東難波 村及西難波村ヲ合シテ市制施行				
67 秋 田 市 (秋 田)	明治22. 4. 1 明治38. 8. 1 明治42.12.21 大正15. 4. 1	市制施行 南秋田郡廣山田村、旭川村及寺 内村ノ各一部ヲ併合 南秋田郡旭川村ノ一部ヲ併合 南秋田郡川尻村ヲ併合	3 1 1	..... 31,785 0.196(方里)	..... 553	..... 2,923
68 郡 山 市 (福 島)	大正13. 9. 1 大正14. 6. 1	安積郡郡山町及小原田村ヲ合併 シテ市制施行 安積郡桑野村ヲ併合	1	1,675,948	462	3,242
69 宮 崎 市 (宮 崎)	明治22. 4. 1 大正13. 4. 1	市制施行許可同年五月一日施行 延期許可 宮崎郡大淀町、大宮村ヲ宮崎町 ニ併合シテ市制施行				
70 高 岡 市 (富 山)	明治22. 4. 1 大正 6. 6.15 大正14. 8. 1 昭和 3. 6. 1	市制施行 射水郡掛開發村、佐野村ノ各一 部ヲ併合 射水郡下關村ヲ併合 射水郡横田村、西條村ヲ併合	2 1 2	641,663 82,024 .....	225 604 768	1,740 3,017 5,698
71 桐 生 市 (群 馬)	大正10. 3. 1	市制施行				
72 釧 路 市 (北海道)	大正 9. 7. 1 大正 9. 7. 1 大正11. 8. 1	釧路町ノ一部ヲ割キ釧路村ヲ置 ク 釧路町ニ北海道區制施行 市制施行				
73 佐 賀 市 (佐 賀)	明治22. 4. 1 大正11.10. 1	市制施行 佐賀郡神野村ヲ併合	1	1,038,617	1,026	5,971
74 若 松 市 (福 島)	明治32. 4. 1	市制施行 (同時ニ舊會津町ヲ改 稱)				
75 千 葉 市 (千 葉)	大正10. 1. 1	市制施行				

## 1 市 域 の 擴 張 (續)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併 合 面 積 (坪)	併 合 戸 数 (戸)	併 合 人 口 (人)
76 福 島 市 (福 島)	明治36. 9.29 明治40. 4. 1	信夫郡濱邊村ヲ福島町ニ併合 市制施行				
77 松 江 市 (島 根)	明治22. 4. 1	市制施行				
78 四 日 市 (三 重)	明治30. 8. 1 昭和 5. 1. 1	市制施行 三重郡海蔵村、鹽濱村ヲ併合	2	2,418,000	1,474	7,765
79 足 利 市 (栃 木)	大正10. 1. 1	市制施行				
80 宇和島市 (愛 媛)	大正 6. 5. 1 大正10. 8. 1	北宇和郡丸穂村ヲ宇和島町ニ併 合 北宇和郡宇和島町、八幡村ヲ合 併シテ市制施行		.....	.....	.....
81 沼 津 市 (靜 岡)	大正12. 7. 1	駿東郡沼津町、楊原村ヲ合併シ テ市制施行				
82 戸 畑 市 (福 岡)	大正13. 9. 1	市制施行				
83 今 治 市 (愛 媛)	大正 9. 2.11	越智郡日吉村ヲ今治町ニ併合シ テ市制施行				
84 別 府 市 (大 分)	明治39. 4. 1 大正13. 4. 1	速見郡濱脇村ヲ別府町ニ併合 市制施行				
85 明 石 市 (兵 庫)	大正 8.11. 1	市制施行				
86 弘 前 市 (青 森)	明治22. 4. 1 昭和 3. 4. 1	市制施行 中津輕郡清水村大字富田ノ一部 及大字紙漣町ヲ併合	1	.....	.....	.....
87 鳥 取 市 (鳥 取)	明治22.10. 1 大正12. 5.10	市制施行 岩美郡富桑村ヲ併合	1	.....	.....	.....
88 一 宮 市 (愛 知)	大正10. 9. 1	市制施行				
89 西 宮 市 (兵 庫)	大正14. 4. 1	市制施行				

## 1 市域の擴張 (續)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併合 面積 (坪)	併合 戸数 (戸)	併合 人口 (人)
90 福山市 (廣 島)	大正 2. 4. 1 大正 5. 7. 1	深安郡野上村及三吉村ヲ福山市 ニ併合 市制施行				
91 大津市 (滋 賀)	明治31.10. 1	市制施行				
92 大垣市 (岐 阜)	大正 7. 4. 1 昭和 3. 4.15	市制施行 安八郡北杭瀬村ノ内大字木戸、 南一色、笠木、笠縫、河間ヲ併 合	1	.....	.....	.....
93 上田市 (長 野)	大正 8. 5. 1 大正10. 8. 1	市制施行 小縣郡城下村ヲ併合	1	.....	.....	.....
94 岸和田市 (大 阪)	明治44.11. 4 大正11.11. 1	泉南郡沼野村、岸和田濱町ヲ岸 和田町ニ併合 市制施行		.....	.....	.....
95 川越市 (埼 玉)	大正11.12. 1	入間郡川越町、仙波村ヲ合併シ テ市制施行				
96 鶴岡市 (山 形)	大正 7. 2.21 大正 9. 1.20 大正13.10. 1	西田川郡稻生村ヲ鶴岡町ニ併合 西田川郡大寶寺村ヲ鶴岡町ニ併 合 市制施行		.....	.....	.....
97 瀬戸市	大正14. 8. 1 昭和 4.10. 1	東春日井郡赤津村及旭村大字今 及美濃之池ヲ瀬戸町ニ合併 市制施行		.....	.....	.....
98 高田市 (新 潟)	明治41.11. 1 明治44. 9. 1	中頸城郡高城村ヲ高田町ニ併合 市制施行		.....	.....	.....
99 伏見市 (京 都)	昭和 4. 5. 1	市制施行				
100 都城市 (宮 崎)	大正13. 4. 1	市制施行				
101 山口市 (山 口)	昭和 4. 4.10	吉敷郡山口町、吉敷村ヲ合併シ テ市制施行				

## 1 市域の擴張 (終)

都 市	年 月 日	摘 要	併合 関係 町村 数	併合 面積 (坪)	併合 戸数 (戸)	併合 人口 (人)
102 丸龜市 (香 川)	明治32. 4. 1 大正 6. 6. 1	市制施行 仲多度郡六郷村ヲ併合	1	.....	.....	.....
103 尾道市 (廣 島)	明治31. 4. 1	市制施行				
104 米子市 (鳥 取)	大正15. 8. 9 昭和 2. 4. 1	西伯郡成實村大字陰田、西大谷、 美吉、長田ヲ米子町ニ併合 市制施行		.....	.....	.....
105 中津市 (大 分)	大正14. 4. 1 昭和 4. 4.20	下毛郡豊田村及大江村ヲ中津町 ニ併合 下毛郡中津町小楠村ヲ合併シテ 市制施行		.....	.....	.....
106 八戸市 (青 森)	昭和 4. 5. 1	三戸郡八戸町、小中野町、湊町 鮫村ヲ合併シテ市制施行				
107 首里市 (沖 縄)	明治29. 4. 1 明治39.10. 1 大正10. 5.20	沖縄縣區制施行 中頭郡西原間切ノ一部島尻郡南 風原間切ノ一部ヲ併合 市制施行	1	.....	.....	.....
108 津山市 (岡 山)	昭和 4. 2.11	苫田郡津山町、津山東町、西苫 田村、二宮村、院庄村、久米郡 福岡村ヲ合併シテ市制施行				
109 倉敷市 (岡 山)	昭和 3. 4. 1 昭和 2. 4. 1	都窪郡大高村萬壽村ヲ倉敷町ニ 併合 市制施行		.....	.....	.....

## 1 各市戸数

## 及人口 (六大都市・明治22年以來果年)

年次	1 大阪市		2 東京市		3 名古屋市	
	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
明治22年	100,178	472,247	303,193	1,375,937	48,049	157,496
23	95,637	476,392	277,049	1,207,341	43,873	155,339
24	92,101	483,179	279,160	1,214,776	44,453	173,642
25	93,554	479,859	278,378	1,235,020	45,863	182,508
26	94,385	484,130	285,871	1,275,615	47,891	191,016
27	94,244	482,308	290,986	1,298,576	50,316	202,812
28	94,478	488,666	294,456	1,339,726	52,464	211,438
29	95,662	504,226	298,903	1,365,068	55,073	237,847
30	153,772	758,285	333,791	1,403,769	56,404	248,915
31	185,847	811,855	316,527	1,425,366	56,680	240,534
32	195,684	849,171	327,796	1,497,784	61,206	252,242
33	204,872	881,344	355,517	1,497,565	63,753	260,748
34	211,313	921,617	381,836	1,630,894	65,218	267,483
35	222,512	951,496	408,388	1,705,028	66,525	275,329
36	231,465	988,728	447,213	1,803,584	67,956	284,829
37	238,969	1,026,767	458,538	1,870,628	69,163	292,548
38	244,465	1,069,458	485,024	1,969,833	70,162	298,918
39	260,536	1,117,151	505,241	2,068,854	71,317	307,624
40	271,300	1,172,138	522,558	2,152,285	81,301	354,733
41	278,776	1,217,765	376,428	1,626,103	84,438	374,146
42	277,085	1,204,577	429,711	1,626,641	87,391	389,761
43	286,494	1,239,373	466,670	1,807,875	89,748	406,646
44	294,035	1,273,680	488,447	1,908,809	92,246	420,608
大正1年	306,731	1,331,994	511,691	2,012,596	94,896	435,219
2	301,061	1,388,909	520,606	2,036,144	97,114	447,951
3	303,648	1,424,596	541,668	2,103,777	100,844	469,315
4	309,037	1,460,218	585,312	2,247,463	91,258	389,272
5	317,839	1,508,677	602,374	2,283,840	94,030	404,154
6	328,415	1,557,986	620,691	2,353,230	96,330	419,749
7	321,189	1,633,338	609,270	2,331,860	99,085	433,701
8	316,127	1,583,650	622,635	2,359,636	90,717	432,813
9	276,347	1,252,983	456,935	2,173,201	92,012	432,349
10	300,324	1,346,471	.....	2,204,400	131,611	633,274
11	.....	1,341,000	.....	2,236,000	136,704	662,837
12	.....	1,387,200	.....	2,265,300	141,368	695,942
13	.....	1,431,500	417,833	1,926,310	153,376	734,057
14	483,990	2,114,804	429,852	1,995,567	164,141	768,558
昭和1年	.....	2,186,900	.....	2,068,900	177,284	827,242
2	.....	2,259,900	.....	2,143,200	190,576	884,594
3	.....	2,333,800	.....	2,218,400	.....	865,900
4	.....	2,408,800	.....	2,294,600	.....	904,700
備考	大阪統計書ニ據ル 1) 國勢調査ノ結果 2) 内閣統計局推計 ○此ノ年市制施行 ○此ノ年市域擴張		東京市統計年鑑ニ據ル、明治三十八年迄ハ在留外國人ヲ含マズ 1) 市勢調査ノ結果 2) 國勢調査ノ結果 3) 震災地人口調査ノ結果 4) 内閣統計局推計		明治四十四年ノ分迄名古屋市史ニ據リ、以下同市統計年鑑ニ據ル 1) 國勢調査ノ結果 2) 内閣統計局推計	

年次	4 京都市		5 神戸市		6 横濱市	
	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
明治22年	63,396	279,792	34,268	134,704	27,209	121,985
23	63,698	289,588	35,723	136,012	27,835	127,987
24	64,576	297,527	35,944	141,394	29,070	132,627
25	65,971	303,266	36,473	148,118	29,269	143,252
26	66,256	317,270	37,831	153,055	29,942	152,142
27	66,942	328,411	39,190	157,762	29,974	160,439
28	68,721	340,101	39,701	161,020	30,124	170,252
29	67,518	341,101	46,027	182,625	30,474	179,502
30	68,339	332,374	49,255	193,001	31,584	187,453
31	66,999	353,139	59,032	214,119	31,765	191,251
32	65,854	358,573	61,779	236,159	32,159	196,966
33	68,263	371,600	63,196	245,675	34,733	205,106
34	71,119	375,841	66,001	259,040	54,674	299,302
35	72,141	387,096	69,290	274,449	57,530	313,695
36	70,857	278,242	72,143	283,839	60,926	324,775
37	67,592	381,940	75,150	297,276	64,024	331,597
38	67,801	384,208	80,234	322,131	66,800	343,242
39	72,646	395,981	85,171	345,952	70,581	359,862
40	77,973	407,423	91,114	363,593	74,572	378,884
41	82,068	441,264	96,539	377,208	78,136	392,870
42	83,942	453,046	99,904	387,915	82,214	407,432
43	86,309	470,033	101,736	401,932	84,468	419,630
44	87,883	483,197	103,373	415,349	87,918	444,039
大正1年	91,043	495,294	105,932	431,378	89,931	455,244
2	91,105	507,919	102,421	440,766	82,966	396,101
3	91,568	517,334	106,144	457,116	86,116	410,765
4	93,864	539,153	114,162	498,317	89,001	428,663
5	96,000	549,770	121,854	529,865	91,636	444,018
6	97,978	562,847	127,159	558,319	94,402	460,310
7	122,145	668,930	131,450	591,393	90,670	446,097
8	128,563	690,503	140,038	634,063	95,652	469,868
9	125,180	643,242	138,970	608,644	95,243	422,938
10	126,888	651,912	157,597	714,976	93,510	433,952
11	131,404	670,817	162,801	742,647	93,840	441,048
12	136,100	690,300	168,930	773,872	80,839	347,608
13	140,500	710,300	174,509	799,475	89,462	380,689
14	148,672	679,963	151,505	644,212	95,577	405,888
昭和1年	.....	698,400	157,184	673,198	93,061	412,563
2	.....	717,100	162,683	695,586	120,427	535,332
3	.....	736,000	.....	666,700	.....	536,500
4	.....	755,200	.....	755,200	.....	543,500
備考	明治三十一年ノ分迄帝國統計年鑑ニ據リ以下京都市統計年鑑ニ據ル 1) 國勢調査ノ結果 2) 内閣統計局推計		神戸市統計書ニ據ル 1) 國勢調査ノ結果 2) 内閣統計局推計 大正10年乃至13年人口最も信ノ難シ		明治二十六年迄ハ神奈川縣統計書以下横濱市調査ニ據ル 1) 國勢調査ノ結果 2) 内閣統計局推計	

## 2 各市戸数

年次	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
	7 廣島市		11 熊本市		15 吳市	
明治21年末	21,849	84,873	11,797	52,189	.....	.....
26	25,119	91,479	12,942	62,432	.....	.....
31	28,811	122,306	13,784	61,463	.....	.....
36	34,496	121,196	14,387	59,717	14,287	66,006
41	40,952	142,763	14,722	61,233	21,676	100,679
大正2	46,786	167,130	15,218	68,167	23,759	128,342
7	37,692	162,391	13,053	73,613	25,333	154,687
9年10月	34,553	160,510	13,787	70,388	28,268	130,362
14	42,866	195,731	** 29,032	147,174	29,872	138,863
昭和3	.....	218,000	.....	153,300	*	174,900
4	*	276,500	.....	162,100	.....	176,800
	8 長崎市		12 福岡市		16 小樽市	
明治21年末	* 6,346	43,669	8,395	48,850	2,394	11,984
26	9,480	65,374	9,282	58,181	6,767	34,259
31	* 16,559	107,422	9,748	66,190	7,723	56,961
36	21,558	153,293	10,352	71,047	11,675	79,361
41	23,816	176,480	11,356	82,106	15,860	91,281
大正2	23,551	161,174	* 13,160	97,303	16,196	92,864
7	27,759	198,147	* 15,526	98,583	18,506	102,467
9年10月	* 37,036	176,534	* 18,027	95,381	21,275	108,113
14	40,560	189,071	* 28,029	146,005	26,556	134,469
昭和3	.....	197,000	***	203,400	.....	151,100
4	.....	199,700	*	217,800	.....	156,800
	9 函館市		13 札幌市		17 鹿児島市	
明治21年末	10,602	52,693	3,920	14,389	9,832	47,512
26	14,153	63,619	5,151	27,694	12,522	56,139
31	17,896	78,040	6,569	37,482	9,459	53,481
36	17,663	85,313	9,143	55,304	10,354	59,001
41	20,463	87,875	11,295	70,084	11,221	63,640
大正2	21,676	99,795	* 15,839	96,924	13,218	75,907
7	26,867	133,698	17,089	94,647	14,968	92,306
9年10月	29,155	144,749	20,038	102,580	* 19,942	103,180
14	33,318	163,972	28,726	145,065	24,527	124,734
昭和3	.....	176,100	.....	171,900	.....	138,400
4	.....	180,300	.....	181,100	.....	143,000
	10 金澤市		14 仙台市		18 岡山市	
明治21年末	27,391	96,752	16,459	77,515	13,833	43,885
26	17,545	91,531	12,620	73,771	? 9,873	51,665
31	28,507	83,662	14,390	83,825	11,987	53,025
36	27,853	99,657	21,181	100,231	* 13,381	81,025
41	28,613	110,994	18,798	97,944	16,114	93,421
大正2	* 37,592	129,804	20,477	104,141	18,092	86,961
7	39,210	158,637	21,660	122,720	19,869	96,446
9年10月	29,287	129,265	21,861	118,984	21,420	94,585
14	** 32,455	147,420	26,814	142,894	* 28,005	124,521
昭和3	.....	154,200	.....	183,000	.....	133,400
4	.....	156,400	*	189,000	.....	136,400

## 及人口 (六大都市以外・明治21年以降) (始)

戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	年次
19 八幡市		23 和歌山市		27 濱松市		
.....	.....	13,016	55,097	2,827	13,919	明治21年末
.....	.....	13,278	55,726	3,083	15,637	26
.....	.....	11,767	63,667	3,699	19,855	31
.....	.....	12,329	68,527	4,339	23,306	36
7,510	22,767	16,838	77,303	* 5,817	32,381	41
9,307	45,630	16,155	77,683	* 7,848	43,012	大正2
** 18,600	89,472	16,692	84,603	* 11,087	61,029	7
23,322	100,235	19,377	83,500	12,377	64,749	9年10月
* 27,079	118,376	* 21,517	95,622	* 18,925	92,152	14
*	138,200	**	116,800	.....	104,700	昭和3
.....	141,900	.....	119,600	.....	109,000	4
20 新潟市		24 佐世保市		28 静岡市		
10,385	44,761	.....	.....	7,153	40,555	明治21年末
9,965	49,700	2,361	13,122	8,062	37,096	26
10,214	53,366	5,388	37,485	8,691	42,172	31
11,614	59,576	8,968	68,344	9,973	48,744	36
11,772	61,616	* 12,394	93,051	* 10,937	53,614	41
13,053	66,622	13,660	94,914	* 12,918	64,108	大正2
* 17,046	97,274	17,796	123,555	14,892	73,972	7
18,965	92,130	16,537	87,022	15,223	74,093	9年10月
* 22,077	108,941	* 18,038	95,385	16,524	84,772	14
.....	119,600	.....	118,000	*	112,900	昭和3
.....	123,200	.....	120,500	*	140,800	4
21 堺市		25 門司市		29 豊橋市		
9,125	45,005	.....	.....	2,847	11,645	明治21年末
9,010	46,138	(27年) 1,988	12,821	3,375	15,215	26
* 9,311	50,203	4,044	25,274	4,996	21,785	31
10,931	54,040	8,781	38,065	6,627	28,315	36
11,340	61,103	17,443	55,682	* 11,073	43,980	41
12,799	67,706	13,025	71,977	13,910	54,673	大正2
14,121	75,346	14,563	73,377	13,100	66,839	7
* 18,324	84,999	16,282	72,111	12,913	65,163	9年10月
* 23,145	105,009	* 21,750	95,087	15,559	82,371	14
*	114,600	.....	101,100	.....	93,200	昭和3
.....	123,000	.....	103,100	.....	97,000	4
22 横須賀市		26 下關市		30 岐阜市		
(22年) 3,742	24,366	6,571	32,384	5,171	26,002	明治21年末
3,521	21,912	6,387	33,565	6,421	32,773	26
3,821	24,750	7,565	42,786	6,361	31,942	31
4,328	36,956	14,473	46,285	* 8,020	40,168	36
* 11,736	70,964	18,949	58,254	8,864	41,488	41
12,984	85,473	22,763	72,117	10,743	51,647	大正2
14,422	88,742	19,248	67,866	12,333	57,909	7
16,368	89,879	16,140	72,300	13,710	62,713	9年10月
18,429	96,351	* 20,835	92,317	17,616	81,902	14
.....	110,400	.....	101,000	.....	94,000	昭和3
.....	101,700	.....	104,000	.....	98,200	4

備考 1. 明治21年及26年は帝國統計年鑑所掲数字 2. 明治31年乃至大正7年は甲種現住人口 3. 大正9年及14年は國勢調査人口 4. 昭和3年乃至4年は内閣推計人口 5. 印明治21年に附されたは明治22年市制施行地となれるもの、其他に附された

るは當該年度と本表所掲前年度との間に市制施行地となれるもの 6. \* 印は當該年度と本表所掲前年度との間に市域擴張を見たるもの。

## 2 各 市 戸 数

年 次	戸 数	人 口	戸 数	人 口	戸 数	人 口
	31 宇都宮市		35 久留米市		39 富山市	
明治21 年 末	4,159	23,200	4,119	20,738	13,233	55,300
26	6,802	35,347	4,468	26,688	13,710	58,187
31	6,455	32,069	4,819	29,008	13,883	59,558
36	7,272	36,953	5,059	33,273	15,747	56,275
41	9,691	47,114	5,486	35,928	12,937	57,437
大正 2	10,976	54,019	5,726	39,292	15,461	64,822
7	12,222	57,377	9,112	49,124	16,229	73,032
9年10月	13,054	63,771	8,242	43,629	13,553	61,812
14	15,362	76,138	13,338	72,221	14,453	67,490
昭和 3	.....	84,000	.....	78,600	.....	74,800
4	.....	86,600	.....	80,700	.....	76,300
	32 徳島市		36 高松市		40 長野市	
明治21 年 末	14,273	60,030	8,796	33,204	4,932	27,156
26	12,354	61,337	7,234	35,330	5,495	30,622
31	12,476	61,501	7,844	34,416	5,708	31,319
36	13,012	63,710	8,685	37,430	6,803	37,202
41	14,179	66,561	8,700	42,578	7,113	39,242
大正 2	16,975	70,292	9,056	41,837	7,459	41,112
7	18,654	73,026	9,672	48,319	7,656	41,490
9年10月	15,929	68,457	10,741	46,550	7,833	37,308
14	16,946	74,545	15,896	71,897	13,351	66,555
昭和 3	.....	88,700	.....	78,100	.....	72,200
4	.....	90,000	.....	80,300	.....	74,100
	33 前橋市		37 甲府市		41 高知市	
明治21 年 末	3,968	21,636	5,630	24,468	9,903	31,209
26	6,099	33,370	6,984	33,879	11,230	34,711
31	6,448	34,495	7,304	37,561	8,484	36,511
36	7,627	41,714	8,301	44,188	7,890	35,518
41	7,832	45,183	9,756	49,882	8,014	38,279
大正 2	8,573	50,061	10,346	53,672	8,223	39,162
7	11,095	58,320	11,345	53,453	10,628	50,955
9年10月	12,797	62,325	12,026	56,207	11,276	49,329
14	14,162	73,688	14,305	68,275	15,162	65,723
昭和 3	.....	80,900	.....	75,900	.....	92,500
4	.....	83,300	.....	78,500	.....	95,400
	34 旭川市		38 大牟田市		42 松本市	
明治21 年 末	.....	.....	.....	.....	3,681	15,261
26	.....	.....	2,536	14,357	6,053	27,713
31	.....	.....	3,291	19,291	6,326	31,324
36	4,707	24,284	4,720	30,474	10,082	33,493
41	7,341	40,453	6,225	45,681	6,873	35,011
大正 2	9,974	63,275	8,017	48,253	7,495	39,653
7	10,434	69,421	11,063	72,482	9,168	50,356
9年10月	11,340	61,311	13,039	64,317	10,251	49,999
14	13,121	72,341	14,134	68,256	12,973	63,427
昭和 3	.....	79,300	.....	70,800	.....	69,700
4	.....	81,700	.....	9,4100	.....	76,800

## 及 人 口 (六大都市以外・明治21 年以降) (続)

戸 数	人 口	戸 数	人 口	戸 数	人 口	年 次
43 福井市		47 姫路市		51 長岡市		
○ 8,568	39,853	○ 4,700	25,466	.....	.....	明治21 年 末
9,042	42,680	7,221	27,721	1,984	10,036	26
10,119	44,286	9,153	35,282	.....	.....	31
10,828	50,155	7,589	36,506	6,032	31,310	36
10,099	50,396	9,714	41,028	○ 6,638	35,376	41
11,285	56,218	* 11,088	40,316	7,350	39,354	大正 2
12,473	59,932	10,807	45,232	7,914	41,864	7
13,273	56,639	9,507	45,750	8,311	41,627	9年10月
14,229	59,943	* 11,582	55,713	* 10,156	53,156	14
.....	62,000	.....	58,200	.....	58,200	昭和 3
.....	62,700	.....	59,000	.....	59,900	4
44 松山市		48 那覇市		52 津市		
○ 7,624	34,410	6,877	26,340	○ 3,283	16,031	明治21 年 末
8,073	34,527	8,185	32,138	5,668	29,935	26
8,347	36,545	○ 7,548	35,453	5,821	33,287	31
8,937	37,842	8,627	43,132	6,630	36,408	36
* 9,072	44,166	9,022	47,562	7,115	41,229	41
12,038	45,189	11,134	55,547	* 8,636	47,295	大正 2
13,253	58,346	12,472	59,362	9,036	54,522	7
11,785	51,250	13,045	53,882	10,121	47,741	9年10月
* 13,270	58,292	13,304	54,643	11,154	52,536	14
* .....	81,400	.....	55,100	.....	55,600	昭和 3
.....	83,600	.....	55,300	.....	56,600	4
45 青森市		49 川崎市		53 小倉市		
2,793	15,449	.....	.....	2,260	14,800	明治21 年 末
4,003	24,056	.....	.....	2,797	18,525	26
* 6,177	28,029	.....	.....	3,550	27,504	31
7,736	34,857	.....	.....	○ 4,367	36,825	36
9,956	47,206	.....	.....	4,682	31,615	41
10,626	47,077	1,545	10,060	5,133	38,139	大正 2
9,142	45,017	3,867	20,136	5,817	33,672	7
9,494	48,941	4,304	21,391	6,666	33,954	9年10月
11,316	58,794	* 11,277	54,634	* 10,776	51,663	14
* .....	75,500	* .....	77,800	* .....	76,100	昭和 3
.....	78,900	.....	78,900	.....	77,600	4
46 山形市		50 大分市		54 室蘭市		
○ 4,691	28,880	2,912	15,512	.....	.....	明治21 年 末
4,770	30,306	2,065	11,117	.....	.....	26
5,253	35,300	2,356	13,045	.....	.....	31
6,553	40,248	2,353	11,927	.....	.....	36
7,338	42,234	* 4,918	29,547	4,451	20,335	41
7,796	45,371	○ 8,596	38,905	6,205	31,025	大正 2
8,448	47,883	7,025	43,842	* 12,148	58,349	7
8,672	48,399	7,613	43,150	11,981	56,082	9年10月
10,023	55,994	* 9,331	53,352	10,150	50,040	14
.....	60,800	.....	59,700	.....	46,200	昭和 3
.....	62,400	.....	61,800	.....	44,900	4

## 2 各 市 戸 数

年 次	戸 数	人 口	戸 数	人 口	戸 数	人 口
	55 盛 岡 市		59 水 戸 市		63 宇治山田市	
明治21 年 末	7,372	32,924	4,463	21,807	4,773	21,715
26	7,173	32,125	5,177	29,186	5,853	28,767
31	5,433	32,989	5,433	33,778	5,954	27,990
36	6,066	31,861	6,422	36,928	6,831	33,627
41	6,210	36,012	6,854	38,435	7,089	37,539
大正 2	7,009	43,527	7,768	43,215	7,572	40,357
7	7,507	48,484	9,348	53,030	8,039	41,460
9年10月	8,088	42,403	8,187	39,363	8,728	39,370
14	9,366	50,030	9,563	46,527	9,662	44,803
昭和 3	.....	58,800	.....	51,100	.....	48,300
4	.....	60,800	.....	52,600	.....	49,500
	56 若松市(福岡)		60 清 水 市		64 米 澤 市	
明治21 年 末	.....	.....	.....	.....	5,609	28,714
26	.....	.....	.....	.....	5,207	28,801
31	2,789	12,101	.....	.....	5,453	30,719
36	3,601	18,968	.....	.....	6,275	33,063
41	4,964	27,774	.....	.....	6,187	35,380
大正 2	5,840	34,519	.....	.....	6,548	38,265
7	8,077	41,411	.....	.....	7,238	40,749
9年10月	11,447	49,336	2,007	10,141	7,623	43,007
14	11,401	49,930	9,053	46,339	8,194	44,602
昭和 3	.....	50,300	.....	52,200	.....	45,600
4	.....	50,400	.....	54,200	.....	46,000
	57 奈 良 市		61 高 崎 市		65 岡 崎 市	
明治21 年 末	4,733	24,763	4,256	22,900	3,323	13,233
26	4,951	25,969	4,860	28,160	4,159	17,143
31	5,613	30,539	5,107	30,893	4,236	17,409
36	6,709	33,735	6,153	35,226	4,765	19,559
41	6,843	32,732	6,654	39,961	5,786	24,824
大正 2	7,464	40,938	7,410	44,096	6,407	30,508
7	8,211	47,515	7,457	43,653	8,617	39,996
9年10月	8,734	40,301	7,914	36,792	8,623	38,527
14	10,369	18,879	9,274	45,698	10,052	44,556
昭和 3	.....	53,400	.....	61,400	.....	65,000
4	.....	54,900	.....	63,500	.....	67,000
	58 宇 部 市		62 八王子市		66 尼 崎 市	
明治21 年 末	.....	.....	4,305	19,320	2,769	12,533
26	.....	.....	4,735	23,825	2,528	13,955
31	.....	.....	4,353	23,203	2,699	15,066
36	.....	.....	4,508	25,822	3,406	18,006
41	2,145	11,803	4,215	27,550	3,679	19,888
大正 2	3,103	17,472	5,523	31,133	5,705	25,045
7	3,578	35,165	7,141	42,661	7,313	36,243
9年10月	9,273	38,063	7,665	38,955	8,220	38,461
14	11,705	48,750	9,136	45,288	9,887	44,241
昭和 3	.....	56,500	.....	50,300	.....	47,900
4	.....	57,800	.....	52,100	.....	50,100

## 及 人 口 (六大都市以外・明治21年以降) (續)

戸 数	人 口	戸 数	人 口	戸 数	人 口	年 次
67 秋 田 市		71 桐 生 市		76 千 葉 市		
6,598	29,454	(22年) 2,795	17,504	4,281	20,324	明治21 年 末
6,697	28,229	3,026	19,069	3,842	25,307	26
6,793	29,477	3,450	23,991	3,568	26,233	31
7,297	34,350	3,891	30,022	3,988	28,768	36
6,143	36,294	4,130	32,189	4,664	33,341	41
6,172	36,560	5,105	33,572	6,054	35,311	大正 2
6,198	41,778	6,186	40,448	6,441	32,082	7
6,722	36,281	7,162	37,674	6,978	33,179	9年10月
7,994	43,887	8,574	42,553	8,788	41,806	14
.....	50,900	.....	45,600	.....	47,200	昭和 3
.....	52,200	.....	46,700	.....	49,100	4
68 郡 山 市		72 釧 路 市		76 福 島 市		
.....	.....	.....	.....	2,484	13,919	明治21 年 末
(27年) 1,646	10,036	.....	.....	3,190	17,494	26
2,050	11,859	.....	.....	3,585	20,624	31
2,456	14,391	2,570	12,010	4,550	27,233	36
3,012	18,133	3,979	17,905	5,538	33,493	41
3,455	21,786	5,813	27,943	5,849	33,981	大正 2
4,085	25,028	7,151	33,492	6,044	35,935	7
4,822	26,218	7,951	39,392	6,756	35,762	9年10月
* 8,091	42,984	8,463	42,332	7,651	41,379	14
.....	50,400	.....	44,200	.....	44,900	昭和 3
.....	52,900	.....	44,900	.....	46,100	4
69 宮 崎 市		73 佐 賀 市		77 松 江 市		
.....	.....	4,589	25,584	7,847	33,324	明治21 年 末
.....	.....	5,027	29,153	7,904	35,407	26
.....	.....	4,593	32,753	7,936	34,651	31
2,070	11,530	5,187	35,083	8,183	35,081	36
2,605	13,846	5,346	36,051	8,333	36,209	41
3,271	16,554	5,618	36,667	5,540	38,631	大正 2
4,215	21,210	5,984	38,547	8,739	36,690	7
4,282	21,116	6,350	33,528	8,755	37,527	9年10月
* 8,780	42,945	8,124	42,160	9,206	41,396	14
.....	48,300	.....	43,900	.....	43,800	昭和 3
.....	50,200	.....	44,500	.....	44,700	4
70 高 岡 市		74 若松市(福島)		78 四 日 市 市		
4,802	19,736	4,459	20,820	2,472	13,862	明治21 年 末
7,318	30,397	4,488	25,139	3,602	19,577	26
6,507	31,490	4,795	29,200	4,435	25,220	31
7,403	31,119	5,442	32,534	5,032	30,140	36
7,588	33,603	5,780	39,265	5,689	30,704	41
8,148	38,045	5,945	41,828	6,756	33,812	大正 2
8,498	40,408	6,818	47,053	7,069	34,427	7
7,229	36,648	7,240	37,549	7,780	35,165	9年10月
* 8,300	42,660	7,756	41,952	8,560	40,393	14
.....	51,400	.....	44,700	.....	43,700	昭和 3
.....	52,200	.....	45,700	.....	44,800	4



## 2 各 市 戸 数

年 次	戸 数	人 口	戸 数	人 口	戸 数	人 口
	79 足 利 市		83 今 治 市		87 鳥 取 市	
明治21 年 末	3,012	13,397	2,795	11,827	5,026	26,022
26	3,161	16,259	3,013	14,228	6,661	26,786
31	3,905	21,348	3,152	14,913	5,947	28,496
36	3,994	25,264	?	2,292	16,091	6,783
41	4,982	38,908	3,607	16,765	6,422	31,023
大正 2	5,063	29,365	3,759	18,212	5,959	32,682
7	5,826	35,046	4,044	20,660	5,862	37,278
9年10月	6,673	33,637	6,371	30,296	6,431	34,160
14	7,685	39,401	8,158	37,713	7,523	29,274
昭和 3	.....	43,000	.....	42,400	.....	35,120
4	.....	44,300	.....	42,500	.....	39,900
						37,500
	80 宇 和 島 市		84 別 府 市		88 一 宮 市	
明治21 年 末	2,844	11,466	.....	.....	(22年) 2,583	10,840
26	2,724	12,151	.....	.....	2,599	12,328
31	3,049	13,366	.....	.....	2,838	14,139
36	3,294	12,798	.....	.....	4,040	16,123
41	3,229	12,358	*	3,120	4,526	18,166
大正 2	3,347	13,235	4,444	22,022	5,306	23,817
7	4,660	21,307	4,975	25,722	6,265	26,296
9年10月	5,048	21,923	6,339	28,647	5,814	27,263
14	8,723	38,534	8,748	37,529	7,035	34,746
昭和 3	.....	42,500	.....	43,100	.....	39,500
4	.....	43,800	.....	45,100	.....	41,100
	81 沼 津 市		85 明 石 市		89 西 宮 市	
明治21 年 末	1,803	10,089	4,257	19,351	2,517	11,209
26	2,024	11,391	4,422	20,525	2,482	12,087
31	2,525	12,094	4,810	21,196	2,711	13,896
36	2,528	13,220	5,174	23,311	2,756	15,926
41	2,597	13,693	5,650	25,951	3,092	18,396
大正 2	2,827	14,026	6,000	27,553	4,064	20,149
7	3,308	17,398	6,550	31,344	5,470	25,393
9年10月	3,760	20,993	7,724	33,107	6,212	28,428
14	6,977	38,042	8,566	37,244	7,452	34,425
昭和 3	.....	42,800	.....	39,900	.....	38,200
4	.....	44,500	.....	40,800	.....	39,500
	82 戸 畑 市		86 弘 前 市		90 福 山 市	
明治21 年 末	.....	.....	6,544	30,436	3,972	14,587
26	.....	.....	6,550	30,859	4,100	15,568
31	.....	.....	6,441	34,771	4,039	17,321
36	.....	.....	6,429	36,443	4,163	16,976
41	.....	.....	6,618	37,487	4,546	18,081
大正 2	.....	9,445	6,578	38,586	6,046	26,554
7	5,020	23,061	6,132	36,691	6,243	34,795
9年10月	7,789	33,824	6,060	32,767	6,775	29,768
14	8,393	37,748	6,562	36,293	7,640	34,048
昭和 3	.....	40,200	*	43,300	.....	36,800
4	.....	41,100	.....	43,900	.....	37,700

## 及 人 口 (六大都市以外・明治21 年以降) (續)

戸 数	人 口	戸 数	人 口	戸 数	人 口	年 次
91 大 津 市		95 川 越 市		99 伏 見 市		
4,668	24,214	3,076	17,045	4,435	20,693	明治21 年 末
5,229	30,574	3,282	20,504	3,325	17,509	26
5,832	34,225	3,451	19,092	3,573	21,515	31
6,085	39,595	3,820	25,963	3,797	20,000	36
6,107	42,869	3,774	26,031	4,343	24,883	41
6,151	44,100	4,494	24,795	5,150	30,154	大正 2
6,191	43,550	4,776	26,449	5,742	33,564	7
7,336	31,453	5,036	24,675	6,404	26,879	9年10月
7,824	33,779	6,507	31,905	6,969	30,544	14
.....	35,300	.....	35,200	.....	.....	昭和 3
.....	35,800	.....	36,300	.....	33,700	4
92 大 垣 市		96 鶴 岡 市		100 都 城 市		
3,772	16,671	3,074	19,576	(22年) 2,075	11,587	明治21 年 末
4,189	19,551	3,098	19,990	2,288	12,455	26
4,012	18,995	2,960	20,461	2,508	13,196	31
4,311	19,403	3,018	20,622	2,629	14,716	36
4,461	21,762	3,326	21,056	3,048	18,345	41
4,803	23,554	3,756	22,983	3,715	21,854	大正 2
5,463	32,225	4,436	25,920	4,185	26,365	7
6,042	28,334	5,597	28,220	5,338	25,741	9年10月
7,065	33,639	6,103	31,830	6,293	30,421	14
.....	39,700	.....	34,100	.....	33,400	昭和 3
.....	41,000	.....	34,900	.....	34,400	4
93 上 田 市		97 瀬 戸 市		101 山 口 市		
2,825	12,067	.....	.....	2,955	13,332	明治21 年 末
3,925	20,335	.....	.....	2,612	14,597	26
4,249	24,114	.....	.....	2,852	17,387	31
4,427	23,593	2,454	11,110	3,761	19,876	36
4,696	23,838	3,337	14,112	4,407	21,100	41
4,828	24,372	4,002	19,149	4,573	23,673	大正 2
5,323	30,276	5,274	22,279	5,567	29,240	7
5,655	26,271	4,984	22,185	4,951	25,297	9年10月
7,120	32,589	6,916	31,279	5,322	28,409	14
.....	34,800	.....	.....	.....	.....	昭和 3
.....	34,800	.....	35,900	.....	34,500	4
94 岸 和 田 市		98 高 田 市		102 丸 籠 市		
2,172	12,927	.....	.....	4,267	17,241	明治21 年 末
.....	.....	3,764	20,323	4,799	19,783	26
.....	.....	3,715	20,315	6,883	24,977	31
.....	.....	3,656	19,557	6,547	28,456	36
.....	.....	5,099	28,021	7,285	27,019	41
4,158	22,267	5,348	32,403	7,165	28,685	大正 2
4,015	25,849	5,513	34,148	5,840	23,996	7
6,424	29,306	5,424	28,388	5,747	24,480	9年10月
7,153	32,050	5,595	30,897	6,189	27,971	14
.....	33,800	.....	32,500	.....	30,200	昭和 3
.....	34,400	.....	33,000	.....	30,900	4

## 2 各市戸数及人口 (六大都市以外・) (明治21年以降) (終)

年次	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
	103 尾道市		106 八戸市		109 倉敷市	
明治21年末	4,246	18,002	1,679	10,468	.....	.....
〃 26 〃	4,388	19,421	2,081	11,476	.....	.....
〃 31 〃	4,736	22,312	1,903	11,370	.....	.....
〃 36 〃	5,182	30,529	2,445	15,156	.....	.....
〃 41 〃	5,458	30,367	2,488	16,109	.....	.....
大正2 〃	5,520	31,263	2,684	18,179	2,447	12,298
〃 7 〃	5,767	32,040	2,719	17,530	2,622	13,205
〃 9年10月	6,180	26,466	3,234	18,255	2,932	12,864
〃 14 〃	6,554	27,740	3,749	21,030	3,263	14,209
昭和3 〃	.....	28,500	.....	.....	.....	30,100
〃 4 〃	.....	28,800	*0	*0 52,400	.....	31,000
	104 米子市		107 苅里市			
明治21年末	2,768	12,948	5,254	25,790		
〃 26 〃	2,815	14,549	5,250	25,359		
〃 31 〃	3,401	16,088	5,367	24,809		
〃 36 〃	3,902	15,896	5,063	23,827		
〃 41 〃	3,935	19,291	* 5,326	25,141		
大正2 〃	4,485	22,435	5,326	24,102		
〃 7 〃	5,006	22,532	5,864	23,303		
〃 9年10月	5,582	22,411	5,384	22,838		
〃 14 〃	6,198	26,736	4,858	20,582		
昭和3 〃	*0	33,200	.....	19,200		
〃 4 〃	.....	34,200	.....	18,700		
	105 中津市		108 津山市			
明治21年末	2,981	15,272	1,690	15,306		
〃 26 〃	2,444	13,595	2,445	12,663		
〃 31 〃	2,573	15,249	2,718	12,330		
〃 36 〃	3,204	14,990	3,497	18,515		
〃 41 〃	2,295	18,329	3,551	16,191		
大正2 〃	2,324	16,429	3,815	17,021		
〃 7 〃	2,445	12,508	3,995	17,304		
〃 9年10月	2,857	13,602	4,127	17,085		
〃 14 〃	* 4,947	24,505	4,207	17,645		
昭和3 〃	.....	.....	.....	.....		
〃 4 〃	0	29,500	*0	23,000		

## 3 大都市の区の人口

市 区	大正14年	大正9年
大阪市	2,114,804	1,768,295
北 区	200,479	188,419
此 花 区	159,547	147,462
東 区	172,411	176,503
西 区	130,146	140,459
港 区	281,678	196,076
天王寺区	116,427	115,608
南 区	121,406	129,854
浪花区	149,890	158,602
西淀川区	122,332	88,886
東淀川区	145,812	113,190
住吉区	236,137	138,719
西成区	140,907	89,703
	137,632	84,814
東京市	1,995,567	2,173,201
麹町区	56,379	65,692
神田区	128,529	151,990
日本橋区	105,002	126,415
京橋区	120,363	143,397
芝 区	171,590	179,214
麻布区	87,906	88,558
赤坂区	61,045	62,232
四谷区	74,974	70,217
牛込区	129,887	126,282
小石川区	152,620	146,507
本郷区	135,079	135,573
下谷区	172,678	183,186
浅草区	232,076	256,410
本所区	207,142	256,269
深川区	160,297	181,259
名古屋市	768,558	429,997
東 区	177,390	89,288
西 区	153,313	100,459
中 区	270,800	174,141
南 区	167,055	66,109

京都市は昭和四年区の区劃を變更し、横濱市は昭和二年新に區を設けたれども、何れも國勢調査人口發表されざるを以て省略す

## 4 人口三萬以上の町村の人口

町 村	大正14年	大正9年
沼 貝 町(北海道)	32,701	32,321
夕 張 町 〃	48,697	51,064
品 川 町(東京)	53,096	41,059
大 崎 町 〃	48,476	34,837
目 黒 町 〃	45,268	18,094
世 田 谷 町 〃	38,068	13,054
荏 原 町 〃	72,256	8,522
入 新 井 町 〃	36,585	19,088
大 井 町 〃	58,619	36,659
大 森 町 〃	32,014	19,501
中 野 町 〃	60,962	21,875
杉 並 町 〃	36,608	5,632
大 久 保 町 〃	32,644	27,949
淀 橋 町 〃	52,215	40,453
代々木町 〃	51,755	20,034
千駄ヶ谷町 〃	39,997	36,374
澁 谷 町 〃	99,022	80,799
板 橋 町 〃	30,391	16,661
巢 鴨 町 〃	40,148	28,035
澁 野 川 町 〃	82,252	40,689
日 暮 里 町 〃	56,928	41,551
三 河 島 町 〃	59,252	21,623
南 千 住 町 〃	54,755	50,713
尾 久 町 〃	47,493	7,525
王 子 町 〃	60,086	33,363
高 田 町 〃	45,147	26,786
西 巢 鴨 町 〃	98,050	51,478
千 任 町 〃	52,101	31,047
吾 娑 町 〃	59,921	30,660
寺 島 町 〃	39,251	19,159
龜 戸 町 〃	57,321	38,548
大 島 町 〃	35,420	22,333
平 野 村(長野)	49,014	44,278
小 田 村(兵庫)	30,760	20,262
萩 町(山口)	*33,225	29,922
穂 波 村(福岡)	38,761	37,235
飯 塚 町 〃	32,757	28,876

## 5 植 民 地 都 市 人 口 (大正14年)

## 1 朝 鮮

都 市	所 在 道	戶 數	人 口	人 口 內 譯		
				內 地 人	朝 鮮 人	支那人其 他外國人
京 城 府	京 畿 道	70,628	342,626	88,875	247,404	6,347
仁 川 府	京 畿 道	12,817	56,295	11,974	41,541	2,780
群 山 府	全 羅 北 道	4,983	21,559	7,064	13,906	589
木 浦 府	全 羅 南 道	6,285	26,718	6,816	19,544	358
大 邱 府	慶 尙 北 道	15,946	76,534	17,410	58,411	713
釜 山 府	慶 尙 南 道	23,770	106,642	41,399	64,653	590
馬 山 府	慶 尙 南 道	5,013	22,874	5,143	17,621	110
平 壤 府	平 安 南 道	18,713	89,423	17,534	70,075	1,814
鎮 南 浦 府	平 安 南 道	6,392	27,240	4,614	21,517	1,109
新 義 州 府	平 安 北 道	5,081	23,176	5,511	13,185	4,480
元 山 府	咸 鏡 南 道	8,092	36,421	8,551	26,824	1,046
清 津 府	咸 鏡 北 道	5,161	20,649	6,084	13,471	1,094

## 2 臺 灣

都 市	所 在 州	戶 數	人 口	人 口 內 譯		
				內 地 人	臺 灣 人	支那人其 他外國人
臺 北 市	臺 北 州	40,212	195,200	53,341	128,853	13,006
臺 南 市	臺 南 州	17,799	84,793	13,102	68,742	2,949
基 隆 市	臺 北 州	13,728	62,000	14,361	44,497	3,142
高 雄 市	高 雄 州	9,722	43,764	10,282	32,556	926
臺 中 市	臺 中 州	8,387	41,042	10,397	29,768	877
嘉 義 市	臺 南 州	.....	45,841	6,860	37,882	1,099
新 竹 市	新 竹 州	.....	38,571	4,169	33,988	414

## 3 關 東 州

都 市	戶 數	人 口	人 口 內 譯		
			內 地 人	朝 鮮 人	支那人及 外 國 人
旅 順 市	5,148	26,759	11,802	137	14,820
大 連 市	38,652	202,463	76,121	793	125,548